



* 0 0 0 9 5 2 0 0 0 0 *

0009520-000

AC8-1311-20

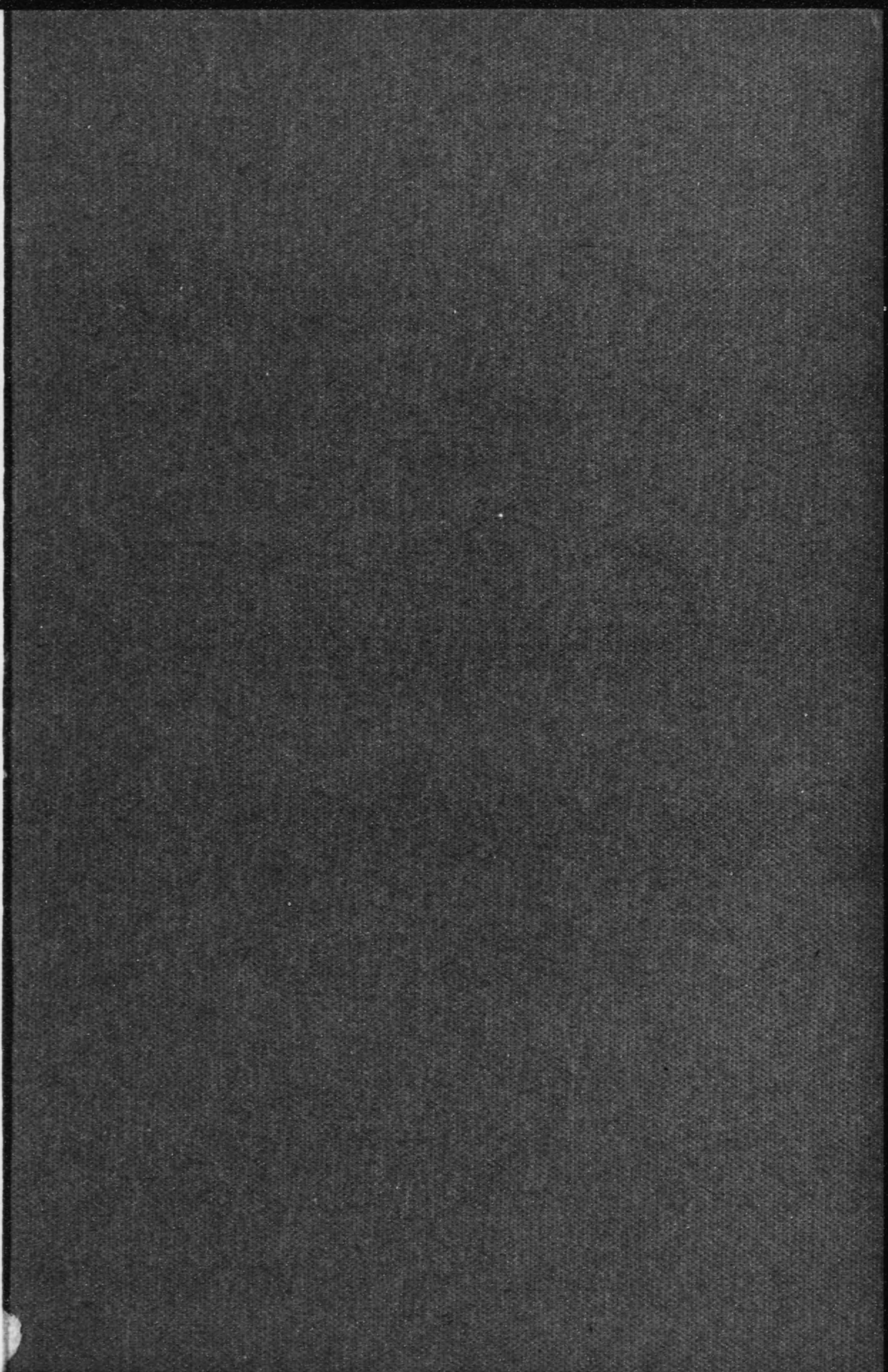
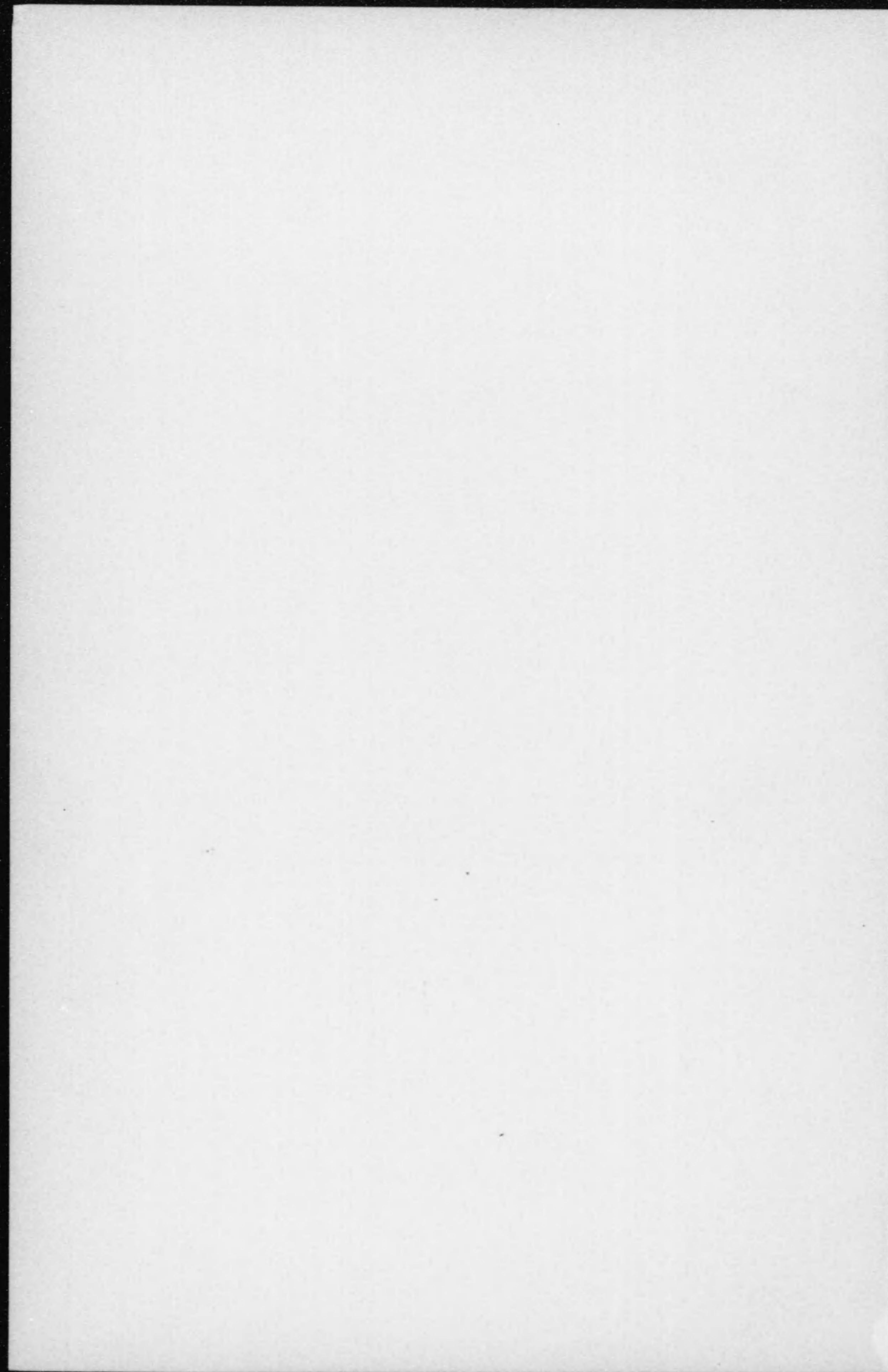
管内概況及事務概要

台東庁

昭和7年

1933. 11

ABI



池L68

管内概況及事務概要

昭和七年

昭9年4月13日
本誌發行所
展寄贈

臺
東
廳

立憲民政黨
政務調查館
圖書之印

AC8
1311
20



~~832417~~

82W30480

管内概況及事務概要

目次

一、管内概況

イ	總	敘	一						
	(一)	地	理	一					
	(二)	民	情	三					
	(三)	風	俗ノ	變遷	三				
	(四)	施	政ノ	大要	四				
ロ	戸	口	六						
	(一)	最	近ノ	戸數	及	人	口	六	
	(二)	人	口	動	態	ノ	大	要	九
ハ	政	務	一〇						

(一) 制度ノ變遷……………10
 (二) 事務ノ改善……………10
 (三) 法令周知ノ狀況……………11
 (四) 政務ニ對スル本島人蕃人ノ感觸……………11
 (五) 官公吏ニ對スル本島人蕃人ノ感觸……………11

二 財 政……………

(一) 國稅、地方費稅並稅外負擔……………11
 (二) 國稅及地方費稅ノ消長……………13
 (三) 官 租……………19
 (四) 生産調査ノ大要……………20

ホ 社 寺、宗 教 並 教 育……………

(一) 神社及宗教ト島民ノ教化……………21
 (二) 信仰心ノ變遷……………23
 (三) 宗教ト慈善事業……………23

ヘ 社 會 事 業 ノ 一 班……………

(四) 國民教育ノ普及……………23
 (五) 社會教化ノ狀況……………24
 ト 公 共 事 業……………26
 (一) 農 會……………26

チ 交 通、運 輸 及 水 利 土 工……………

(一) 交通、運輸……………23
 (二) 水利土工……………25

リ 産 業、金 融 並 貿 易……………

(一) 農 業……………26
 (二) 畜 産……………26
 (三) 林 業……………27
 (四) 水 産……………27

(一)	司法保安	四
(二)	衛生	四五
(三)	理蕃	四七
又	司法、保安、衛生、理蕃行政ノ一班	四
(五)	工業	三八
(六)	商業	三八
(七)	商業	三九
(八)	移民	三九
(九)	金融	四〇
(二)	貿易	四三

二、事務概要

庶務課主管

イ	文書係	五〇
---	-----	----

(一)	秘書事務	五〇
(二)	文書事務	五五
(三)	統計事務	五九

ロ 調停係

ハ 庶務係

(一)	街行政	六一
(二)	區行政	七四
(三)	水難救護及漂流物	七五
(四)	紳章	七六
(五)	寄附受納	七六
(六)	國庫及地方費財產管理處分	七七
(七)	昭和七年中ニ於ケル官有林野取扱件數	七七
(八)	兵事事務	七八

ニ 教育係

ニ	教育係	八〇
---	-----	----

(一)	社寺宗教事務	八〇
(二)	中等學校、小公學校及各種學校事務並教化改善事項	八一
(三)	其ノ他ノ事務	八二
木 勸 業 係		
(一)	農業事務	八四
(二)	林業事務	一〇一
(三)	水産事務	一〇六
(四)	鑛業事務	一一〇
(五)	商工事務	一一一
(六)	畜産事務	一一七
(七)	其ノ他ノ事務	一二三
土木係		
(一)	道路及橋梁	一二三
(二)	水道	一二六

(三)	水利	一二六
(四)	昭和七年度中ニ實施セル營繕工事	一二七
會計係		
(一)	經理出納事務	一二八
(二)	各種會計出納事務	一三〇
(三)	保管金出納事務	一三一
(四)	阿片烟膏ノ出納	一三三
(五)	調度事務	一三三
(六)	應舍及官舍ノ配置保管	一三四

警務課主管

イ 警 務 係		
(一)	警察職員ノ勤務及監督	一三四
(二)	警察職員ノ配置並警察機關ノ設置廢合及受持區域	一三七

(三)	巡查以下ノ進退賞罰	一三九
(四)	巡查以下弔祭扶助及給助	一四〇
(五)	經理	一四〇
(六)	官有警察兵器調	一四三
(七)	警察關係建物	一四四
(八)	警察專用電話	一四五
口 保安係		
(一)	司法警察及犯罪即決	一四六
(二)	保甲壯丁團	一五一
(三)	火災及消防	一五二
(四)	蕃人勞力供出	一五四
(五)	臺東開導所及臺東保護會	一五六
(六)	警察取締諸營業數	一六一
(七)	民有銃砲	一六三

(八)	獵銃免狀下付數	一六三
(九)	鳥獸捕獲許可數	一六三
(一〇)	害鳥獸驅除許可數	一六三
(二)	外國旅券下付件數	一六三
(三)	原動機數	一六三
(三)	自動車數	一六四
(四)	自動車ニ依ル交通事故件數	一六四
(五)	團體ノ費用徵收及寄附金募集	一六四
ハ 衛生係		
(一)	傳染病地方病豫防制遏	一六五
(二)	藝妓酌婦健康診斷成績	一七〇
(三)	阿片	一七一
(四)	衛生宣傳活動寫眞	一七一
(五)	結核豫防	一七一

(七)	昭和七年度衛生費	一七三
(六)	地方病驅除	一七二

二 理 蕃 係

(一)	整 備	一七五
(二)	蕃 人 教 化	一七六
(三)	蕃 人 授 產	一八一
(四)	蕃 地 衛 生	一八四
(五)	交 易	一八六

稅 務 課 主 管

イ 直 稅 係

(一)	地 籍 整 理	一八七
(二)	地 租	一八八
(三)	土 地 臺 帳 及 地 圖 ノ 整 理	一八八

(四)	官 租	一八九
(五)	臺 灣 土 地 測 量 標 保 管 事 務	一八九
(六)	相 續 未 定 地	一九九
(七)	所 得 稅	一九〇
(八)	礦 區 稅	一九四

ロ 間 稅 係

(一)	砂 糖 消 費 稅	一九四
(二)	酒 精 稅、織 物 消 費 稅、骨 牌 稅	一九五
(三)	印 紙 稅	一九五
(四)	間 接 國 稅 犯 則 者 處 分	一九五

ハ 廳 地 方 費 稅 係

(一)	廳 地 方 費 稅 調 查 及 監 視	一九六
(二)	監 視 日 數	二〇一
(三)	鑑 札 下 付 及 證 明 交 付 件 數	二〇一

二 徵收係

(一) 國稅、廳地方費稅及稅外收入……………三〇三

昭和七年臺東廳管內概況及事務概要

一、管內概況

イ 總 敘

(一) 地 理

(イ) 位置 臺東廳ハ臺灣本島ノ南東部ニ位シ火燒島、紅頭嶼、小紅頭嶼之ニ屬ス、東經百二十度四十四分ヨリ百二十一度三十七分、北緯二十一度五十六分ヨリ二十三度二十六分ノ間ニ在リ。東ハ太平洋ニ面シ西及南ハ高雄州ニ北ハ花蓮港廳ニ境ス。

(ロ) 面積 管內總面積ハ二百二十八方里四五、内七十三方里〇八ハ普通行政區域ニシテ他ハ蕃地ニ屬ス。

(ハ) 地勢 地形著シク南北ニ延ヒ、延長四十一里ニ及フモ東西ノ幅員ハ僅カニ一里乃至十二里ニ過キス。西部一帯ハ中央山脈ノ峻嶺相連リ海拔一萬尺以上ノ高峰六座(シボボス山、關山、ハイノトナン山、小關山、卑南主山、大武山)アリ、北部ニ海岸山脈アリテ中央山脈ト相竝走ス。河川ノ重ナルモノハ何レモ源ヲ中央山脈ニ發ス、其ノ最大ナルモノヲ卑南大溪トシ上流ヲ新武路溪ト稱シ、鹿寮溪、北絲閣溪等ヲ容レ合流シテ海ニ注ク、流程二十二里餘其ノ他呂家溪、知本溪、太麻里溪、蚶子崙溪、大竹高溪、鴿子籠溪、大武溪、阿塹

衛溪、タワ溪等アリ何レモ流程短ク懸崖絶壁ノ間ヲ屈曲シテ平地ニ出ツルヤ河幅徒ニ擴大シ、常時ハ水量概シテ少ナク人車ノ渡渉ヲ妨ケサルモ一旦豪雨臻レハ濁水奔流シ時トシテハ杜絶十數日ニ及フコトアリ。

平野ハ各河川ノ流域並海岸ニ在リ、就中臺東街附近ノ平野ト卑南溪流域ノ平野トヲ顯著ナルモノトス。

(二) 地質 土壤ノ母岩ハ中央山脈ヲ形成スルモノハ、先第三紀層ニ屬シ、海岸山脈ヲ形成スルモノハ、第三紀層ニ屬ス、從テ土壤ノ理化學的性質ニ於テ自カラ異ナリ、前者ノ内谷野ニ表ハレルモノハ雲母片岩、石墨片岩、綠泥片岩等ノ霏爛沖積セル結晶片岩土壤ト、結晶片灰岩及粘板岩系土壤アリ、後者ハ砂岩、頁岩及集塊岩ノ崩壞霏爛セル土壤ニシテ、間々安山岩系土壤ヲ混在ス。

(ホ) 氣象 管内ハ北回歸線以南熱帶中ニ在リ、大體ニ於テ四月ヨリ九月ニ至ル間ハ雨期ニ屬シ、十月ヨリ翌年三月ニ至ル間ハ乾燥期ニ屬ス。然レトモ當地方ノ雨期ハ本島北部ノ雨期ノ如キ霖雨性ニ非スシテ、颶風ニ伴ヒ豪雨若ハ電雷性驟雨多キヲ占ム。

風向ハ冬期ハ北東風夏季ハ南東風多キモ、一年ヲ通シテ夜ハ型ノ如ク北西乃至北北西ニ變轉スルヲ常例トス。其ノ結果夏季ハ海風涼ヲ送り暑熱著シク緩和セラレ冬期モ亦寒氣強カラス。普通ハ盛夏ノ候ト雖華氏九十五度ヲ超ユルコト極メテ稀ナリ、唯當地方ノ特種現象トシテ熱風發生シ甚シク高温トナリ百度ヲ超ユルコトアルモ極メテ稀有ノ現象トス。

昭和七年中ニ於ケル氣象左ノ如シ。

温度最高平均八十一度五、最低平均六十六度六、年平均七十三度八、最高ノ極(八月)九十八度八、最低ノ極(二月)四十九度一、氣壓最高(一月)七百六十八耗、最低(八月)七百五十五耗、一年平均七百六十一耗一、雨量月最多(十月)四百十四耗一、最少(一月)十四耗四、年總量一千六百二十六耗ニシテ雨期ヲ除ケハ降雨少ナク濕潤ノ度亦低シ

風速年平均二米七、最強十一米三(北東風)

敍上ノ如ク乾濕、氣温、雨量等ノ主要素ハ可ナリ適順ノ恩惠ニ俗スレトモ、當地方ハ呂宋方面ヨリ來襲スル颶風ノ衝路ニ當ルカ爲ニ、年々其ノ災害ヲ蒙ルコト甚大ナリシモ本年中ハ幸ニシテ其ノ災害ヲ免ルルヲ得タリ。

(二) 民情

一般民情極メテ平穩ニシテ西部諸州ニ於ケルカ如キ社會運動、政治運動等ヲ見ス、又注意ヲ要スル不穩ノ言動ヲ爲ス者モナシ、之應下住民ノ大部分ハ蕃人ナルト、本島人ノ多クハ西部諸州ヨリノ出稼假住者又ハ移住者ニシテ民度低ク漸クニシテ生計ヲ樹テ貨殖ニ吸々タルノ外他ヲ願ル遑ナキト、西部諸州トノ交通不便ニシテ刺戟ヲ受クルコト少ナキトニ因ル。

(三) 風俗ノ變遷

輓近教育ノ普及、經濟ノ發達、生活ノ向上ニ伴ヒ漸次舊來ノ陋習ヲ脱シ、衣食住ヲ始メ冠婚葬祭等ニ關スル風習改善セラレ、就中平地蕃人間ニ我カ國固有ノ敬神思想浸潤シ、各蕃社ニ神社ヲ建立シ臺灣神社ノ祭神ヲ

奉祀シ、又ハ各戸ニ神棚ヲ設ケ婚姻ノ如キモ神式ニ依リ舉行スルノ美風ヲ生スルニ至レリ。其ノ他宴遊葬祭ニ關スル迷信陋習モ蕃人ノ自覺努力ト當局ノ指導ト相俟テ漸次改善ノ域ニ進ミツツアルハ喜フヘキ現象ナリトス。

(四) 施政ノ大要

輓近應下ニ於ケル農業ヲ初メ教育、衛生、土木、水利、交通其ノ他諸般ノ施設ハ逐次實施ノ緒ニ就キ、文化進展ノ機運ニ向ヒツツアリト雖元來當廳下ハ臺灣本島ノ南東部ニ僻在シ、中央山脈ノ峻嶺ト太平洋ノ風浪トニ依リ、他地方ト隔離セラレ西部臺灣ニ通スル鐵道ナク、自動車道路ナク、又良港ナル港灣ナク、海陸共ニ交通極メテ不便ナルノミナラス蕃地ハ管内ノ約三分ノ二ヲ占メ人口稀薄ニシテ未開拓ノ土地多ク從テ農商工共ニ極メテ不振ノ状態ニ在リテ、西部地方ニ比シ文運ノ發達甚シク遜色アルヲ免レス、然レトモ近時東部開發ノ喧傳セララルルニ伴ヒ、各般ノ計畫成リ施設其ノ緒ニ就キツツアルハ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ。

當廳ニ於テモ此ノ機運ヲ看取シ適切ナル計畫ヲ樹テ之カ實施ニ努力シツツアリ。勸業方面ニ在リテハ廳農會ノ活動ト相俟テ、米種改良、綠肥堆肥ノ獎勵等專ラ農事ノ改良ニ努メ、又各地ニ產業組合組織ノ共同生産牧場ヲ經營セシメ優良種牛ヲ配置シ、畜牛ノ増殖改良ヲ圖リ併テ之ヲ經濟化スル爲管外搬出ヲ獎勵シ、水産業ニ在リテハ新港漁港ノ完成ニ依リ陸上施設ノ完備、内地漁業移民ノ招致ト相俟テ將來益々斯業ノ躍進ヲ見ルヘキコト言フ俟タサルヲ以テ、前年ニ引續キ漁具漁撈法ノ改善ヲ行ヒ、又鯉節製造

講習會ヲ開催シテ職工ヲ養成スル等本年中施設シタルモノ尠シトセス。

土木水利ニ關シテハ臺東花蓮港道橋梁架設工事、卑南溪假橋架設工事、知本大武自動車道改修工事等道路橋梁ノ改修ニ努メ、尙前年度ヨリ繼續中ノ里壠水道ノ擴張工事ヲ完成セリ。又水利事業トシテハ昭和五年度ヨリ繼續工事中ノ小馬武窟圳ニ對シ更ニ壹萬二千五百四十圓ヲ下付シテ目下施行中ニ屬ス。

輓近普通行政區ニ居住スル蕃人ノ教育ノ普及、知識ノ發達ノ結果ハ著シク向學心ヲ助長シ、公學校ノ學年延長、學級増加ヲ來シ且就學率ノ向上ヲ見ルニ至レリ。殊ニ教育内容ノ充實ノ點ニ於テハ、之ヲ西部諸州ニ於ケル本島人公學校ニ比スルニ毫モ遜色ナキカ如シ。

農業補習教育方面ニ於テハ農業補習學校在校生ニ對シテハ、未墾地ヲ給シテ埤圳ノ開鑿及土地ノ開墾ヲ爲サシメ、卒業セル蕃人子弟ニ對シテハ其ノ大部分ヲ廳農會及東部農產試驗場ニ收容シテ、農耕及土地開墾ニ從事セシメ以テ他日自作農タルノ素地ヲ形成セシメツツアリ。

更ニ社會教育方面ニ在リテモ、平地蕃人ノ男女青年會ノ指導訓練ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ、醇良ナル皇國臣民ヲシムルヲ期シ、敬神思想皇國觀念ノ涵養ニ努メタルヲ以テ平地蕃人青年ノ思想益々健實ヲ加ヘ來レリ。警察ニ在リテハ近時本島西部トノ交通頻繁トナルニ從ヒ高等警察、司法警察其ノ他警察上ノ事務ノ増進ヲ來スノ實情ニ鑑ミ職員ノ素質向上、紀律ノ振肅、志氣ノ作興ヲ圖ルト共ニ事務ノ刷新、簡捷、能率ノ増進ニ極力留意シツツアリ。管内民情ハ一般ニ平靜ニシテ警察上特ニ注意ヲ要スル事件ノ發生少ナキモ、當廳下特種

ノ事情トシテ普通行政區域内ニ於テモ蕃人ノ指導訓練、水利土木工事、勞力供出等ノ如キ殆ント警察ノ關與ニ俟ツニ非ラサレハ遺憾ナク之ヲ遂行スルコト能ハサル状態ナルヲ以テ之等ニ關シテモ周到ナル注意ヲ以テ措置シ苟モ過誤ナキヲ期シツツアリ。

口 戸 口

(一) 最近ノ戸數及人口

昭和七年十二月末日現在戸數壹萬八百八十七戸、人口六萬二千六百八十五人ニシテ逐年増加ノ趨勢ニアルモ一方里ニ付僅ニ二百七十五人弱ニ當リ之ヲ西部臺灣ノ一方里人口二千四百二十六人ニ比スレハ甚タ粗ナリ、而シテ住民ノ約六割六分ハ蕃人、約二割六分ハ本島人、内地人ハ僅ニ八分ニ過キス、總戸數左ノ如シ。

支應別	種	族	戸	數	人		計									
					男	女										
臺東支應	內本蕃朝外	人人人人	八三四	一、五五九	一、四八八	一、二六六	二、七〇四									
								地島鮮國計	一、九九五	四、三五四	三、五四四	七、八九八				
													計	一、三三九	一、一八二	二、五二一

支應別	種	族	戸	數	人		計									
					男	女										
里壠支應	內本蕃朝外	人人人人	四四六	八七四	二、三〇六	一、九一〇	四、二一六									
								地島鮮國計	九九〇	四、一五五	三、九九一	八、一〇六				
													計	二、三二八	七、三三二	一三、七六〇

支應別	種	族	戸	數	人		計									
					男	女										
新港支應	內本蕃朝外	人人人人	一、〇八八	六三四	一、四六九	一、三七〇	二、八三九									
								地島鮮國計	一、九〇四	八、一四五	六、四三〇	一四、五八九				
													計	一、九〇四	八、一四五	一〇、〇五四

支應別	種	族	戸	數	人		計									
					男	女										
大武支應	內本蕃朝外	人人人人	一、三二八	二、二九	二、六八	一、九二	四、五二									
								地島鮮國計	二、二二七	四、九三二	四、五二二	九、八五四				
													計	二、二二七	四、九三二	七、一五九

支應別	種	種	種	人		計
				男	女	
計	合	內	地	一、五七五	二、一七九	四、九〇三
				三、一七六	七、〇一五	一五、四二二
計	本	島	人	二〇、八四六	二〇、八三三	四一、六六八
				八	一七	二五
計	朝	鮮	人	二	二〇一	六七七
				一八八	三〇、三三四	六八五
計	外	國	人	三、四五一	三〇、三三四	六八五
				一〇、八七七	三〇、三三四	六八五

備考 外國人中臺東支應男一、ハ英國人女一、「ビルマ」人ニシテ其他ハ中華民國人ナリ。
 蕃人戸口左ノ如シ

其ノ一

種	族	社	數	戸	數	人		計
						男	女	
計	ア	ミ	二	二	一、九九八	一〇、六一四	一〇、四八九	二一、一〇三
						七、一七二	七、三五二	一四、五二四
計	バ	ワ	三	三	三、〇五七	二、一六三	二、一七七	四、三四〇
						八九七	八〇五	一、七〇二
計	ブ	ヌ	七	七	五〇九	二〇、八四六	二〇、八三三	四一、六六八
						三三二	八〇五	一、七〇二
計	ヤ	ン	一	一	五、九三六	二、二四二	五、八二二	一一、八七五
						三三二	八〇五	一、七〇二

其ノ二

種	族	戸	普通行政區域(街區ノ區域)		戸	數	人	計
			男	女				
計	ア	ミ	一、九八四	一〇、五九七	一四	一七	二	二
			四、一四五	四、五〇七	一、三四七	二、九七七	二、八四四	五、八二二
計	バ	ワ	一、七〇〇	四、一四五	二、一六三	二、一六八	四、三三二	四、三三二
			九	九	五〇九	二、一六三	二、一六八	四、三三二
計	ブ	ヌ	三、六九四	一五、〇〇一	三三二	八九七	一、七〇二	一一、八七五
			二	二	二、二四二	六、〇五四	五、八二二	一一、八七五

(二) 人口動態ノ大要

戸口規則ニ依ル諸願届ノ受理取扱件數ニ依リ、昭和七年中應管内人口ノ動態ヲ見ルニ其ノ種類別件數左ノ如シ

種	類	件數	種	類	件數	種	類	件數
嫡出子認届	一	廢戸再興届	二	入産届	一、三四四	入産届	八一	
私生子認届	四	廢戸相續届	一	姓名(族稱)變更届	一六五	姓名(族稱)變更届	一七	
養子縁組届	一七	推定戸口相續人廢除届	一	廢産届	一	廢産届	三	
養子縁組届	三							

種類	件數	種類	件數	種類	件數
婚姻	六七	種別實查報告	一九	絶戸	一六
離婚	三九	届出事項訂正届	二六七	分戸	七
後見職	三	寄留届	五、〇三六	一戸創立	三
後見了	四	戸口異動報告	一、七二	絶戸再興	三
轉居	六	行衛不明報告	四	絶子發見	三
國籍喪失	三	届出事項變更届	三	抹消報告	一四
後見更迭	五	寄留退去届	九三	無届退去	一
隱居	四	催留届	一〇	其ノ他	六、二四六
失踪	四	戸主相續指定届	七		

八 政 務

(一) 制度ノ變遷

本年中制度ノ變遷ヲ見ス

(二) 事務ノ改善

官公吏ノ執務ニ關シテハ、常ニ官紀ノ肅正ト志氣ノ振作ニ努ムルト共ニ、一面事務ノ簡捷、能率ノ増進ヲ期シ機會アル毎ニ各種規程ノ改廢ヲ行ヒ、又常ニ各課、各係、各支廳、街及區相互間ノ事務ノ聯絡ト意思ノ疏

通トヲ圖リ以テ處務ノ敏活ヲ期シ、且常ニ一般民衆ニ對スル接遇ニ留意シ、遺漏ナキヲ期シタル結果著シク事務改善ノ實ヲ舉クルヲ得タリ。

(三) 法令周知ノ狀況

法令周知ノ如何ハ行政ノ實績ヲ舉クル上ニ於テ重大ナル關係ヲ有スルヲ以テ、之カ實行方法ニ就キ不斷ノ努力ヲ拂ヒツツアリト雖土地柄一般民衆ノ法令ニ對スル觀念未タ幼稚ナルノミナラス、住民ノ大多數ハ理解力ニ乏シキ蕃人タル關係上法令ノ周知徹底容易ナラス、然レトモ近時教育ノ普及、生活ノ向上ニ伴ヒ往時ノ如キ困難ヲ見ルコト尠シ、其ノ方法トシテハ各支廳、街、區役場ノ揭示場ニ依リ、又ハ本島人ニ對シテハ保甲機關ヲ利用シ、蕃人ニ對シテハ區囑託員ノ活動ヲ始メ、男女青年會、家長會等ノ機關ヲ利用シ、受持警察官吏、區職員又ハ學校兒童等ヲシテ之カ徹底ニ努メツツアリ。

(四) 政務ニ對スル本島人蕃人ノ感觸

應下在住ノ本島人ニハ資産階級者、知識階級者尠ク、又西部地方ト隔絶セル爲刺戟ヲ受クル機會尠ク從テ社會運動、政治運動等ヲ試ミムトスル者ナシ、平地蕃人モ亦知識程度低ク生活ノ安定ヲ顧慮スルノ外他念ナク從テ克ク官廳ノ命令指導ニ服シ、施設ニ信賴シ安シテ其ノ業ヲ勵ミ何等不穩ノ言動ヲ爲シ、又ハ統治ニ對シ不平ヲ漏ス者ナシ。

(五) 官公吏ニ對スル本島人蕃人ノ感觸

官吏ニ對シテハ本島人蕃人共ニ各種族各階級ヲ通シテ信賴シ、其ノ命令指導ニ反對スル如キ者ナシ、唯一部本島人年少ノ徒輩ニシテ常ニ官公吏ノ行爲ニ注目シ缺陷アラハ之ヲ批議セムトスル者ナキニ非ラサルモ、極メテ少數ニシテ且願慮スルニ足ルモノナシ。蕃人ニ在リテハ克ク内地人官公吏ヲ尊敬シ其ノ命令指導ニ服從シ毫モ他ノ煽動ニ乗セラレ反抗ヲ敢テシ又ハ非違ヲ鳴スカ如キ者ヲ見ス。

二 財政

(一) 國稅、地方費稅並稅外負擔

昭和六年度對昭和七年度負擔比較ハ左表ノ如クニシテ、昭和七年度ノ昭和六年度ニ比シ増加セルハ廳下開發ニ伴フ自然ノ結果トス。

(イ) 昭和六年度同七年度負擔比較表

種別	昭和七年度	昭和六年度	比較増(△)減(□)	比較増(△)減(□)歩合
直接國稅	五七、〇九六・一五〇	五三、〇七三・三九〇	四、〇二二・七六〇	七・五七
應地方費稅	八五、九八八・六〇〇	八二、四一九・四〇〇	三、五七九・二〇〇	四・三四
街稅	二六、一三三・六〇〇	二二、八四八・三〇〇	三、二八五・三〇〇	一四・二八
公課稅	一七、〇一六・一四〇	一七、一六二・一九〇	△一〇〇・五〇	〇・五八
計	一八六、二三三・四一〇	一七五、六二二・九〇〇	一〇、七一一・五一〇	六・一三

備考 稅額ハ調定濟額、公課ハ農會費土地整理組合費、保甲費ヲ掲ク

(ロ) 昭和六年度同七年度人口一人當負擔比較表

種別	昭和七年度	昭和六年度	比較増(△)減(□)	比較増(△)減(□)歩合
直接國稅	一一四・三	一〇八・八	〇五・五	五・五
應地方費稅	一七二・二	一六九・〇	〇三・二	一・八三
街稅	二二八・一	二〇七・〇	二一一・一	五・三六
公課稅	三四〇・〇	三五二・一	△一二・一	三・三三

(二) 國稅及地方費稅ノ消長

(イ) 直接國稅

(一) 地租 地租ハ地籍整理ノ進捗及國有山林原野ノ開墾拂下等ニ依リ逐年増加ノ傾向ヲ示シツツアリ、之ヲ前年ニ比較スレハ左表ノ如ク五三六圓ヲ増加セリ。尙無租地中國有地ノ甲數減少セルハ大面積ノ土地拂下ニ依ルモノニシテ之ニ反シ筆數ノ増加ハ小面積ノモノヲ國庫ニ買收シタルニ因ル、又民有地ノ増加セルハ荒廢地ヲ無租地ニ變換シタル結果ニシテ荒地免租年期付與地ノ年々減少セルハ近年大ナル水害ヲ見サル結果ナリ

有租地比較表(甲及圓未滿切捨)

年 別	甲 國		民 有		計	
	數	筆	數	筆	數	筆
昭和七年一月一日現在	二、三、五二	甲	四、三、七四	甲	三、七、二九二	筆
昭和八年一月一日現在	二、三、六五	甲	四、九、二〇	甲	三、七、七三四	筆
比較増(△)減	九四		五、六		四、三	

無租地比較表(甲未滿切捨)

年 別	甲 國		民 有		計	
	數	筆	數	筆	數	筆
昭和七年一月一日現在	七、四九	甲	三、四、七九	甲	四、一、二八	筆
昭和八年一月一日現在	七、四四	甲	三、四、九二	甲	四、一、三六	筆
比較増(△)減	五		一、三		八	

荒地免租年期地比較表

年 別	甲 田		畑		計	
	數	筆	數	筆	數	筆
昭和六年十二月末日現在	七、三三	甲	一、五、七三	甲	二、二、八〇	筆
昭和七年十二月末日現在	三、七〇	甲	一、三、七五	甲	三、六、四五	筆
比較増(△)減	四、八六		一、四、三二		一、九、三五	

(二) 所得稅 第一種所得稅ノ前年ニ比シ著シク増加セルハ主トシテ、糖價ノ奔騰ニ因リ臺東製糖株式會社ノ利益金増加セルニ依ルモノニシテ其ノ他大差ナシ、之ヲ前年ト比較スレハ左ノ如シ。

年 別	第一種		第二種		第三種		計	
	所得稅額	所得稅額	所得稅額	所得稅額	所得稅額	所得稅額	所得稅額	所得稅額
昭和六年度	一三、八八〇	四	八、五六九	四	二、三四、八六三	四	二、五七、三二二	四、三、三八九
昭和七年度	九七、八八五	四	九、八九五	四	四、九四、二三	四	二、九四、一三三	八、三八〇、九三
比較増(△)減	八四、〇〇五		一、三二六		二、六〇、二六		〇、三六、二一一	四、〇、四一、九四

(三) 鑛區稅 應下ノ鑛區ハ銅、硫化鐵及金、銀、銅鑛ニシテ銅、硫化鐵ハ現在採掘休止中ナルモ當業者ハ將來ニ望ヲ囑シ金、銀、銅鑛ハ前年許可ヲ得テ現ニ採掘中ニシテ成績相當ナリ、尙各地ニ新規出願中ノモノ一八件アル外出願準備調査中ノモノ亦尠ナカラス、現在ノ鑛區及稅額左表ノ如シ。

年 別	鑛區 坪數	鑛區 數	稅 額		額 摘 要
			千坪	千坪	
昭和六年十二月末日現在	三六六	二	三六六	三六六、〇〇〇	
昭和七年十二月末日現在	三六六	二	三六六	三六六、〇〇〇	

(口) 間接國稅

(一) 砂糖消費稅 本稅ノ基礎タル本期生産高ハ一千三百四十九萬二千六十斤ニシテ前年期ニ比シ二十七萬二

千八百五十七斤ノ増加ナリ、其ノ主ナル原因ハ新式工場ノ蔗作改良ニヨル甲當增收ト甘蔗發育中ノ天候順調ニ因ルモノニシテ、其ノ内譯左ノ如シ。

分蜜糖比較表

區分	新式工場	年別		場數	甘蔗作付甲數	壓搾斤量	砂糖		蜜	
		本年	前年				生	産	生	産
		本年	前年							
		八五〇、八三〇	九二、二九五	一	六、四六五	九八、〇六三、八六〇	一三、四六一、九二	二、六三、五三七		
		增(△)減			△ 六、四六五	△ 九〇、〇五〇	一三、一八六、七五〇	二、八七八、六四九		
							二七五、一七一	△ 二五五、一二		

含蜜糖比較表

區分	舊式糖廠	年別		場數	甘蔗作付甲數	壓搾斤量	砂糖		蜜	
		本年	前年				生	産	生	産
		本年	前年							
		四、三六五	三、六二五	一	三、六二五	三二、六〇〇	二五、一三九			
		增(△)減			△ 九三四〇	△ 一〇九、三〇〇	△ 七三二			

砂糖ノ生産ハ逐年増加ノ傾向ナルモ其ノ大部ハ内地移出糖ニシテ島内消費トシテノ引取數量ハ、大差ナキモ

本年度ハ稅率ノ低下及新式工場ニ於テ、糖業聯合會ノ割當數量制限ニ依リ、引取數量ノ減少ヲ來タシ、收入ニ於テモ亦自然減額セリ。

種類	區分	本年		前年		増減	
		斤	量	斤	量	斤	量
分蜜	糖	二、三六四、三五〇	二、七四八、九五〇	二、七四八、九五〇	三、八四、六〇〇	△ 二、五五八、二二〇	
含蜜	糖	二九、二五七	四一、九八七	四一、九八七	九六、五四〇	△ 二、七三〇	△ 二七〇、七七〇
計		二、三九三、六〇七	二、七九〇、七三七	二、七九〇、七三七	三、九八、一三〇	△ 二、八三六、九八〇	

(二) 酒精稅 織物消費稅、骨牌稅、該當事項ナシ。
(三) 印紙稅 著シキ消長ヲ認メス。

(ハ) 地方稅

(一) 廳地方費稅
地租附加稅 有租地成、新規登録地増加ニヨリ本稅ニ附隨シ前年度ニ比シ一割九厘七毛ノ増加ヲ來セリ。
所得稅附加稅 主トシテ臺東製糖株式會社ノ利益増加ニヨリ本稅ニ附隨シ、前年度ニ比シ二七割七厘七毛ノ増加ヲ見タリ。

戶 稅 前年度ニ比シ六分二厘八毛ノ増加ヲ示シタルハ主トシテ人口ノ自然増加ニ因ル。

營業稅 前年度ニ比シ三分四厘九毛ノ増加ヲ來セシ主タル原因ハ、人口ノ自然増加及蕃人生活程度ノ進歩ニ基ク嗜好ノ向上ニ依ル購買増並臺東製糖株式會社ニ對スル課稅標準額カ前年ニ比シ約四割ノ増加ヲ來シタルニ因ル。

雜種稅 交通路ノ完成ニ伴ヒ諸車ノ利用旺盛トナリ、逐年其ノ數増加シツツアリテ本年ハ前年ニ比シ三分四厘四毛ノ増加ヲ示セリ。

雜收入 前年度ニ比シ一割二分一厘五毛ノ増加ヲ見タルハ主トシテ廳地方費所屬土地貸下料ノ増加ニ依ル。以上廳地方費稅及稅外收入總額ニ於テ六分一厘二毛ヲ増加セリ、今前年度トノ比較ヲ示セハ左表ノ如シ。

昭和六年度對同七年度廳地方費稅比較表

年 度	地租附加稅	所得稅	戶 稅	營業稅	雜種稅	雜收入	計
昭和六年度	二三、六五八、九六	二五七、九九	六、七三六、二七	二一、〇五九、九一	三〇、六四四、七七	三一、〇九一、六二	一一三、四六九、五二
昭和七年度	二三、九一八、七三	九六、五七	七、一五九、九〇	二一、七五五、三三	三一、七一一、〇九	三四、八七一、〇六	一一〇、四二二、五六
比較増(△)減	二五九、七六	六九八、五八	四三三、六三	七三五、三二	一、〇五六、三二	三、七九、四四	六、九五三、〇四
増(△)減歩合	一、〇九七	二七、〇七七	〇、六二八	〇、三四九	〇、三四四	一、二二五	〇、六二二

備考 稅額ハ調定濟額(除前年度繰越額)トス。

(二) 街 稅 街稅ハ本稅ノ附加稅ニシテ就中戶稅割ノ如キハ街ニ於ケル唯一ノ收入ニシテ街費豫算編成上最

モ重要ナル稅目ナルガ故ニ負擔ノ輕減ニ努メツツアルモ、前年ニ比シ一割一分一厘七毛ヲ増加セリ。地租割ノ著シク増加セルハ從來地租百分ノ十五ヲ賦課シタルヲ昭和七年度ニ於テ百分ノ二十ヲ賦課シタルニ依ル増加ニシテ、營業稅割、雜種稅割ノ增收ハ何レモ本稅ニ伴フ增收トス。今臺東街ノ昭和六年度對同七年度比較ヲ示セハ左表ノ如シ

昭和六年度對同七年度街稅比較表

年 度	地 租 割	所得稅割	戶 稅 割	營業稅割	雜種稅割	計
昭和六年度	一、七七七、〇七〇	二四九、六〇	二一、五五二、〇〇〇	四、八〇五、一五〇	三、七五五、六三〇	三三、九一四、八一〇
昭和七年度	二、八五三、三九〇	二二二、七〇	三、九五四、八〇〇	五、〇四八、二六〇	四、一〇七、四〇	二六、一二三、二六〇
比較増(△)減	一、〇八三、三二〇	九八三、一〇	一、四〇二、六〇〇	二、二四三、一一〇	三、三四五、一一〇	三、一九七、四五〇
増(△)減歩合割	〇、六三三	三九三、八七	一二七	〇、五〇五	〇、九一八	一、三九五

(三) 官 租

官租地登錄面積ハ國有山林原野ノ開墾ニ依リ逐年増加ヲ示シツツアリ之ヲ前年ニ比較スレハ左表ノ如シ。

官 租 地 比 較 表

區 分	昭和七年一月一日現在			昭和八年一月一日現在			増(△)減
	甲 數	租 額	筆 數	甲 數	租 額	筆 數	
貸 付 地	七、四九〇、五	二、七、一〇〇	三三三	七、五九八、五	二、七、一〇〇	三三三	〇、一〇八、〇

區分	昭和七年一月一日現在			昭和八年一月一日現在			増減		
	甲數	租額	筆數	甲數	租額	筆數	甲數	租額	筆數
非貸付地	七、四九五	二五七、一〇〇	—	七、七八五	八、五〇〇	—	—	八、五〇〇	—
計	—	—	三三	—	—	三三	—	—	—

(四) 生産調査ノ大要

戸税ノ賦課標準タル生産額ノ調査ハ廳地方費戸税規則ニ基キ調査上一定ノ基準ヲ定メテ、各街區ニ於ケル調査ノ統一ヲ圖リ廳員之カ指導監督ニ當リ、調査ニ精粗寬嚴ノ弊ナカラシメ、更ニ調査終了ノ上ハ各街區毎ニ廳地方費稅調查委員、區總代等ニ諮リ各納稅義務者間ノ負擔均衡ニ遺憾ナキヲ期セシメタル結果、公平ナル調査ヲナスヲ得タリ。調査ノ結果生産額ハ左記ノ通ニシテ昭和六年度ニ比シ増加ヲ見タルハ主トシテ新港漁港修築工事ニ伴フ勤勞生産ノ増加ニシテ、其ノ他ノ生産ニ付テハ著シキ消長ナシ。

戸税調査生産額表

年 度	生 産 額					其ノ他			合 計
	農 業	商 工 業	漁 業	牧 畜	林 業	株 券 債 券 出 資 額	預 金	貸 宅 地	
昭和六年度	一、三六、三三七	四八、四八三	三、八七三	七〇、二五二	四、五〇〇	一三、一六六	一七、六八〇	六八、〇〇六	四八、四八三、〇六六
昭和七年度	一、〇四、五五三	四三、二五二	四、九三三	八、一九〇	二〇〇	二六、五七	三、四七四	三、七、八五五	四三、〇〇三、二七
比較増(△)減	△ 三一九、八二四	△ 五、二三一	△ 一、〇三三	△ 一、〇〇二	△ 一、五〇〇	△ 一、八〇九	△ 一、二〇八	△ 一、一三九	△ 五、四七九、七九三
増(△)減歩合	△ 〇、七六八	△ 〇、九七九	二、七四五	一、六六三	△ 五、五五	八、五三四	九、四九八	△ 〇、〇三三	△ 一、一三三

昭和六年度對同七年度負擔割合比較表

年 別	人 口	生 産 額	生 産 人 當 額	租 稅 公 課 額	全 上 一 人 當 額	生 産 千 圓 當 租 稅 公 課 負 担 額
昭和六年度	四八、〇二二	三、〇九六、七五	六四、五〇〇	一七五、四六一	三、六五四	五、六五九
昭和七年度	四九、九五二	三、三三〇、二七	六四、六六八	一八六、二二三	三、七二八	五、七、六四九
比較増(△)減	一、九三〇	二、二三三、五二	一六八	一〇、七六二	七四	九、九〇〇
増(△)減歩合	〇、四〇三	〇、四三三	〇、〇一六	〇、六三三	〇、二〇三	〇、一七四

備考 一、租稅ハ間接稅ヲ含マス

二、公課ハ農會費、土地整理組合費、保甲費ヲ掲上ス

本 社 寺、宗 教 並 教 育

(一) 神社及宗教ト島民ノ教化

(1) 神社ト島民ノ教化

應下ニ於ケル神社ハ縣社臺東神社ナリ。
 大國魂命、大己貴命、少彥名命、能久親王ノ四柱ヲ奉祀シ臺東鎮護ノ神トシテ廳民崇仰ノ中樞タリ。明治四十四年ノ建立ニ係リ大正十三年七月縣社ニ列セラル、現在ノ社殿ハ御大禮記念事業トシテ工費三萬圓ヲ以テ

昭和三年十月造營ニ著手シ、昭和五年十月竣工セルモノナリ。
其ノ地無格社トシテ鹿野村其ノ他各蕃社ニ二十五社アリ、近時平地蕃人間ニ敬神思想勃興スルト共ニ社ヲ建立シ祭祀ヲ行ヒ神前結婚等行フモノ尠カラサルニ至レルハ教化上喜フヘキ現象タリ。

(口) 宗教ト島民ノ教化

宗教ハ神道、佛教、基督教ニシテ其ノ概況左ノ如シ。

- (1) 神道 神道ハ金光教小教會所一箇所ニシテ、内地人ニ對シ宣布シ未タ本島人及蕃人ニ及ハス。
- (2) 佛教 佛教ハ淨土宗一、眞宗本願寺一計二布教所アリ、各僧侶ヲ駐在セシメ弘法教化ニ從事シツツアリト雖何レモ未タ本島人、蕃人ノ信仰ヲ得ルニ至ラス。
- (3) 基督教 基督教ハ北部臺灣基督長老教會ニ屬スルモノ四箇所アリ、専ラ本島人ニ布教シツツアルモ教勢振ハス。

(ハ) 舊慣ニ依ル寺廟

本島ノ舊慣ニ依ル寺廟ハ、九箇所アルモ佛教ニ屬スルモノ一箇所ニシテ、其ノ他ハ儒教ニ屬スルモノトス。前者ハ住職ニ依リ祭事ヲ掌リ後者ハ願廟爐主等ニ依リ、奠燭燒香ヲ行ヒ、爐主ヲ置カサルモノハ管理人祭儀ヲ行ヒ何レモ舊慣ニ依ル祭祀ヲ爲スニ過キスシテ、教化上毫モ見ルヘキモノナシ。

(二) 信仰心ノ變遷

應管內住民ノ多數ヲ占ムル蕃人及之ニ亞ク本島人共ニ民度低ク未タ迷信的信仰ノ域ヲ脱スルニ至ラスト雖モ近時教育ノ普及知識ノ發達ニ伴ヒ逐舊來ノ陋習ヲ去リツツアルハ喜フヘキ現象ナリトス。殊ニ部落ニ社ヲ建立シ又各戸ニ神柵ヲ安置シ皇國固有ノ敬神崇祖ノ美風ニ歸依シ、信仰熱烈ナルモノ尠カラス、又冠婚葬祭ヲ神社ニ於テ神式ニ據リ行フモノ尠シトセス、本年中社ヲ建立シタルモノ五社ナリ。

(三) 宗教ト慈善事業

宗教ト關聯セル慈善事業ナシ。

(四) 國民教育ノ普及

(イ) 小學校 公立小學校六校(臺東、旭、鹿野、里壠、新港、大武)アリ、内街立二校(臺東、旭)應地方費立四校ナリ、而シテ尋常高等小學校三校(臺東、鹿野、里壠)尋常小學校三校トス、其ノ學級二十、教員數二十八人、兒童數七百二十一人ニシテ、就學歩合ハ男「九八・四〇」女「九八・〇三」平均「九八・二一」ナリ。而シテ旭小學校ヲ除ク他ノ五校ハ僻地ニ在住スル兒童ノ爲ニ寄宿舎ヲ設ケ食費ノ一部ヲ補助シ、現在收容兒童百二十七人アリ、共學者本島人十九人、蕃人四人、朝鮮人三人ニシテ、其ノ成績良好ナリ。

(ロ) 公學校 公立公學校二十六校(臺東、里壠、新開園、成廣澳、加走灣、火燒島、大武、馬蘭、都巒、馬武窟、嘎嘮吧灣、都歷、新港、石寧埔、姑子律、卑南、北絲圃、鹿野、大原、呂家、太麻里、軒子崙、大竹高大鳥)アリ、其ノ内街立三校(臺東、馬蘭、加路蘭)其ノ他ハ應地方費立ナリ、又修業年限六箇年ノモノ九

校(臺東、馬蘭、卑墘、新開園、成廣澳、加走灣、火燒島、卑南、新港)ニシテ、其ノ内一校(臺東)ハ高等科ヲ併置シ、其ノ他ノ十七校ハ修業年限四箇年ノモノナリ。

學級數百八、教員數百三十一人、兒童數四千七百二人ニシテ、就學歩合ハ本島人男六六・二一、女三九・九八平均五四・三七、蕃人男七九・六〇、女七六・七五、平均七八・二一、ナリ。

公學校中寄宿舎ヲ設ケタルモノ十一校アリ、寄宿兒童ニ對シテハ食費ノ一部ヲ補助シ現在二百八十二人アリ

(ハ) 農業補習學校 昭和三年四月一日設立シタルモノニシテ、公學校教育六年ヲ終了シタル蕃人子弟ニ對シ農業ニ關スル知識技能ヲ授ケルト共ニ國民生活ニ須要ナル教育ヲ施シ特ニ皇國精神ヲ涵養シ、克己力行ノ風習ヲ鍛鍊シ、以テ完全ナル農民タラシメント期シ、太巴六九農場ニ於テ開墾ヲ行ハシム。又卒業後ハ地方公學校ニ於ケル農業實習地ノ農夫トシテ、實地修練ヲ爲サシムル外、廳農會及東部農產試驗場ニ委囑シテ土地ノ開墾又ハ農耕ニ從事セシメ、以テ他日自作農タルノ素地ヲ形成セシメツツアリ。現在學級數二、生徒數四十人、卒業生七十一人ナリ。

(ニ) 幼稚園 臺東街立幼稚園二アリ、一ハ内地人幼兒ノ保育ヲ目的トシ昭和七年十二月末現在園兒三十六人保姆心得一人アリ、尙本島人幼兒ノ爲ニ街立幼稚園一 昭和六年四月開設セラレ昭和七年十二月末現在園兒三十二人保姆心得一人ナリ。

(五) 社會教化ノ狀況

(イ) 國語講習所 臺東國語講習所ハ昭和六年九月開設セラレ講習員數二百二十五人、講師十七人ニシテ國語普及ノ目的ヲ以テ設立セラレ學校職員之カ指導ノ任ニ當ル。

(ロ) 國語普及會 國語普及並風俗改良ヲ目的トシテ、大正七年ヨリ各支廳ニ本會ヲ置キ、各地ニ國語普及會場ヲ設置シ、學校職員警察官吏等其ノ教授指導ニ當リ、趣旨ノ貫徹ニ努メツツアリ。現在會場數二十五、本年度修了者數男六百五十人、女五百七十三人、計一千二百二十三人、指導者數二十五人、創立以來ノ修了者男七千八百八十二人、女三千八百六十三人、計一萬一千四百五十五人ニ及ヘリ。

(ハ) 青年訓練所 鹿野區鹿野小學校内ニ昭和七年三月設立セラレ、私立鹿野村青年訓練所ト稱シ、青年ノ心身ヲ鍛鍊シテ國民タルノ素質ヲ向上セシムルヲ目的トシ、生徒數十三人指導員九人ナリ。

(ニ) 青年團 内地人青年團二、本島人青年團二、蕃人青年團二十六、計三十、團員數三千二十三人ニシテ學校職員及警察官中心トナリ之カ指導ニ當リ國語普及、精神修養、習俗改善、思想善導、產業助長、公共事業奉仕等ニ努メタリ。

(ホ) 女子青年團 内地人女子青年團一、蕃人女子青年團十七、計十八、團員數一千百三人アリ。青年團ト等シク學校職員及警察官之カ指導ニ當リ、國語普及、精神修養、習俗改善、思想善導、公共心涵養等ニ意ヲ注キ、青年團ト共ニ良好ナル成績ヲ收メツツアリ。

(ヘ) 少年團 蕃人少年團一團ニシテ、團員四十人指導者三人ナリ。其ノ成績良好ナリ。

- (ト) 家長會 蕃人家長會六、會員數八百三十六人ニシテ、國語普及、習俗改良、産業獎勵ニ努メツツアリ。
- (チ) 婦人會 婦人會二、會員數百四十四人ニシテ、婦徳ノ修養、宗教心ノ涵養ニ努メツツアリ。
- (リ) 補習教育所 各公學校ニ設置シ二十六アリ。公學校卒業生ノ補習教育ヲ行ヒツツアリ。
- (又) 財團法人臺東獎學會 本會ハ大正十年三月二十九日ノ創立ニシテ、廳下ニ於ケル教育ノ振興ヲ圖リ一般學生ニ對スル修學ノ獎勵、篤學者ニ對スル學資ノ補助又ハ貸與ヲナシ、且國語ノ普及、習俗ノ改良、其ノ他社會事業ノ施設又ハ獎勵ヲ爲シツツアリ。
- (ル) 財團法人臺東獎學會附屬圖書館 藏書一千四百八十冊ニシテ本年中ノ貸付延冊數三千五百二十七冊、開館日數三百五十五日、閱覽人員九千五百六十人、開館一日平均閱覽人員二十七人ニ當リ、相當ノ成績ヲ收メタリ。尙本館ハ臺灣總督府圖書館ヨリ巡回圖書ノ廻付ヲ受ケ一般ノ閱覽ニ供セリ。

へ 社會事業ノ一斑

- (一) 知本温泉公共浴場 本浴場ハ臺東ノ西南四里知本溪ノ右岸山腹ニアリ、炭酸性温泉ニシテ蕃人ハ古來之ヲ神水ト稱シ、知本溪底礫ノ間ニ浴地ヲ造リ、任意入浴シツツアリシモノナリ。大正三年公共衛生費七千餘圓ヲ投シテ浴室及宿泊所ヲ建設シ、知本温泉公共浴場ト命名シ、一般公衆ノ用ニ供シ、大正九年廳地方費ノ經營ニ移シ、看守人及傭人ヲ置キ浴客ノ待遇其ノ他構内ノ洒掃ニ當ラシメ、大正十一年以降工費一萬三

千六百圓ヲ投シ浴室、宿泊所、炊事場等ノ新築改築ヲ行ヒ、昭和二年七月暴風雨ノ爲倒壊セル宿泊所ノ復舊ニ工費三千五百五十圓ヲ費シ、更ニ昭和三年度ニ於テ工費四千三百七十六圓ヲ以テ別館一棟ヲ新築シ設備ヲ完成セリ、尙從來蕃人ニシテ溪底溝中ニ湧出スル温泉ヲ利用シ居ルモノ其ノ數一日平均約五十人ヲ下ラサル状態ナリシヲ以テ、昭和三年六月工費四千九百九十四圓ヲ投シ無料宿泊所二棟、浴室一棟ヲ新築シ蕃人入浴者ノ便ニ供セリ。

(二) 財團法人臺東保護會 本會開導所ニ收容セル浮浪者ニ授産ヲ爲ス外解除セラレタル者ニシテ、差當リ自活困難ナル者ニ對シテハ、一時就業ノ指導又ハ就業ノ補助ヲ爲シ、已ムヲ得サルモノニ對シテハ、住宅ヲ供給シテ農業ニ従事セシメ、或ハ歸郷後ニ於ケル就業並生活狀況ノ照復調査等ヲナシツツアリ。

(三) 臺東同善會 本會ハ廳下ニ於ケル不具廢疾、老衰病弱ニシテ自活スルニ由ナク其ノ他ノ扶助ヲ受クル途ナキ者ヲ救助スルヲ目的トシ、昭和三年十一月十日創立シタルモノナリ。爾來臺東及大武支廳下ノ施療ヲ行ヒツツアリ。

(四) 卑南改善會 本會ハ卑南社蕃人ノ救濟及改善ヲ爲シ皇恩ノ惠澤ヲ感知セシムルト共ニ勤儉力行ノ美風ヲ養成シ、産業ノ振興ヲ圖リ、保健衛生ノ實ヲ舉ケ模範部落タラシムルヲ目的トシ、昭和四年十一月二十四日創立シタルモノニシテ恩賜財團明治救濟會及大正救濟會ヨリ補助金及産業資金ノ融通ヲ受ケ、既ニ部落移轉地ニ住宅ノ移轉及改良集會所、醫療所、共同浴場ノ設置、産業組合ノ組織、水道敷設、排水溝設置等ヲ完了

シタリ。

(五) 臺東街公設質舖 細民生業資金調達ノ圓滑ヲ圖ルヲ目的トシテ、昭和五年十月三日設置認可ヲ受ケ十二月四日業務ヲ開始ス。昭和七年度ノ業務狀況ヲ見ルニ資本金一萬五千圓、貸付ノ利率月二分、貸付高三萬五百五十八圓十五錢、貸付金回收二萬八千五百二十五圓九十錢、利息收入二千三百八十二圓七十六錢、外ニ貸出回收金流質物賣却元本一千五百九十二圓三十五錢、手数料收入四百八十二圓五十二錢ナリ。

ト 公 共 事 業

(一) 農 會

應下ノ農業ハ農會ノ活動ニ依リ進歩ノ見ルヘキモノアリト雖、農民ノ大多數ハ知識程度低キ蕃人ナルカ爲ニ其ノ成績未タ顯著ナリト謂フヲ得ス。從テ今後益々農會ノ指導並活動ニ俟ツヘキ事項尠カラス。然レトモ農會經費ノ關係上總テノ施設ヲ行フヲ得サルヲ以テ、地方ノ實情ニ鑑ミ最モ適切ナリト認ムル米作、園藝、畜牛、養豚、養鶏等ノ主要産業ニ專ラ意ヲ用ヒ、指導獎勵ヲ加ヘ相當ノ成績ヲ收メツツアリ、其ノ概要左ノ如シ。

(イ) 經 費 昭和七年度收入豫算ハ三萬一千五百十圓ニシテ其ノ收入ハ地租割當金、牛豚割當金、生産物拂下代、雜收入トス、支出豫算額ハ收入ト同額ニシテ其ノ主ナルモノハ農産改良費、指導農園ノ經費、畜産改良費等ナリ。

(ロ) 農 業 改 良

1. 米種改良地方試作 東部農産試験場ヨリ優良種子三十二石ノ配付ヲ受ケ之ヲ各支應管下ニ亘リ、適當ナル部落ヲ選定シ青年會又ハ篤農家ニ配付シ、試作セシメタリ。而シテ其ノ成績ニ依リ優良ナルモノハ、第二次米種改良原種ニ當ラントス。

2. 園 藝 獎 勵

(1) 柑橘獎勵 總督府ノ補助ヲ受ケ昭和三年度ヨリ十二箇年繼續事業トシテ、百甲餘ノ柑橘園ヲ新設セシカ爲ニ、柑苗費ノ三分ノ二ヲ補給シ獎勵シツツアリ。而シテ本年度ハ優良柑苗四千九百九十五本ヲ面積十甲六分餘ニ植栽セシメ更ニ既設園ニ對シテハ肥培及病蟲害驅除豫防ノ指導ヲ爲シ、柑橘ノ増産ヲ圖リツツアリ。

(2) 一般果樹獎勵 東部農産試験場ニ於テ養成シタル珈琲、鳳梨等ノ種苗ヲ希望者ニ配付シ、其ノ栽培ヲ獎勵シツツアリ。

(3) 蔬菜類ノ普及 原產地ヨリ優良種子ヲ購入シ、各地篤農家ニ配付セリ。

3. 甘 藷 品 種 改 良

東部農産試験場ヨリ優良原種ノ配付ヲ受ケ、之ヲ農會ノ各支會ニ於テ適當ナル部落ニ共同耕作セシメ其ノ生産セル原薯ヲ一般ニ配付シ、普及ヲ圖リツツアリ。

4. 綠肥獎勵

(1) 陸稻前作綠肥獎勵 陸稻前作綠肥トシテ、田菁及烏豆種子ヲ配付シ其ノ肥効ニ依リ増産ヲ圖ラムカ爲之カ獎勵ヲ爲シツツアリ。

(2) 綠肥採種園ノ設置 綠肥ノ未タ普及セサル新港支會内ニ綠肥獎勵田種子養成ノ目的ヲ以テ原種子ヲ配付シ、面積十二甲歩ノ採種園ヲ設ケ之ヨリ收穫シタルモノハ全部同管内ニ配付セリ。

5. 堆肥獎勵 堆肥ノ製造及施用方法ヲ指導シ、漸次増ノ普及ヲ圖リツツアリ。

6. 農事講習講話 各支廳下ノ主ナル青年會員八十五名ヲシテ六月中旬臺東ニ於テ農事視察並現地講習會ヲ開催セリ。其他各地ニ巡回講演ヲ行ヒ農事改良ノ一端トシツツアリ。

(ハ) 指導農園ノ經營 本年度ヨリ從來ノ臺東篤農家養成農場ヲ新港指導農園ト同一目的ノ下ニ實施センカ爲臺東指導農園ト名稱ヲ改メ、兩指導園共臺東農業補習學校卒業生ヲシテ集約的ニ經營セシメ、地方農民ニ對シ實際的ニ指導ヲ行ヒツツアリ。

(ニ) 畜産改良

1. 畜牛改良 畜牛ノ改良及蕃殖ヲ圖ル爲之ニ要スル種牛ハ本會太巴六九種牛蕃殖場ニ於テ、印度系牛ヲ飼養シ、專ラ優良種牛蕃殖育成ニ努メツツアリ。而シテ同場生産牛及總督府貸下種牛其ノ他購入種牛ヲ各樞要地ニ貸付シ、一面本會種牝牛改良獎勵規程ニ依ル種牝牛ノ設置ヲ行フ等、應設定民有種牝牛ノ施設

ト相俟チ極力優良牛ノ生産増加ヲ圖リツツアリ。其ノ他配置種牝牛ノ能率ヲ増進助長セシムル爲メ會員飼養牝牛中劣等ナルモノノ去勢ヲ勵行スル等、專ラ牛畜ノ改良ニ努ムル外、應獎勵畜牛ノ搬出事業ニ關シテハ、從來畜牛ヲ徒ニ多數所有スルヲ以テ誇トスル風習ヲ打破シ、之ヲ賣買シ經濟化スルノ觀念ヲ普及セシムルニ努メタル結果、近時著シク印度系優良牛ノ蕃殖ヲ見ルニ至レルト共ニ漸次搬出ノ氣運ニ向ヒツツアリ。尙本年度不良牝牛六百四十二頭(水牛三百五十九頭、黃牛百八十三頭、雜種牛百頭)ノ去勢ヲ實施セリ。

2. 養豚改良 本會農場ニ於テ「パークシヤ」種ヲ飼養シ之カ純粹及雜種ノ繁殖育成ヲ行ヒ、一面飼養管理ノ改善並養豚知識ノ啓發ニ資スル爲、一般會員ニ對シ農場ニ於ケル養豚ノ實際狀況ヲ觀覽セシメツツアリ。而シテ農場ニ於テ養成シタル種豚及購入豚ハ之ヲ各支會内ニ於テ熱心ナル養豚家ニ貸付シ、尙飼養管理法ニ關シテハ實地指導ヲ行フ等專ラ品質ノ向上普及ニ努メツツアリト雖、飼養管理者ノ大部分ヲ占ムル蕃人ハ未タ飼養管理等ニ對シ充分ナル理解ヲ有セサル爲長足ノ進歩ハ望ミ難キモ漸次進歩ノ實ヲ認ムルニ至レリ。尙施肥觀念ノ促進並豚畜ノ衛生等養豚經濟ノ發達ヲ圖ル爲先年來獎勵中ノ採肥改良豚舎ハ從來ノ方針並獎勵ニ係ル採肥改良豚舎ノ建設ト相俟チ、極力之カ築造ヲ行ヒ、本年度中建設獎勵セシモノ、各支會ヲ通シ十三棟ニシテ、累計百三十三棟ニ達シ、專ラ採肥ノ利用ヲ獎勵セリ。

3. 養鷄改良 應下養鷄改良ノ實施ニ伴ヒ漸次優良鷄ノ産出増加セリト雖、未タ在來劣等鷄ノ飼養拵カラサ

ルヲ以テ之カ改良ヲ行フ爲本會農場ニ於テ卵肉各種優良鶏ヲ飼養シ生産シタル雞及種卵ハ之ヲ廣ク會員ニ配付シテ益々優良種ノ普及發達ヲ圖リツツアリ。而シテ養鶏上恐ルヘキ家禽「コレラ」豫防ニ關シテハ常ニ充分ナル注意ヲ拂ヒ之カ發生ニ際シテハ直ニ豫防血清ノ注射ヲ實施シ、併セテ消毒法ノ勵行ヲ爲シ其ノ結果ハ極メテ良好ニシテ、一般ノ効果ノ甚大ナルヲ知得シ血清ノ豫防注射ヲ希望スル者著シク増加スルニ至レリ。

4. 家畜保健 近年應下農民ノ一部ハ患畜ニ治療ヲ施サントスルモノ漸次増加ノ傾向アリト雖農民ノ多數ハ患畜治療ニ對スル觀念甚タ幼稚ニシテ、其ノ家畜經濟ニ及ホス影響甚カラス、故ニ之カ治療ノ勵行ヲ促ス爲患畜ノ無料治療ヲ施行シ、一面斃畜ノ届出ニ對シテハ直ニ技術員ヲシテ檢診セシメ、以テ疾病ヲ明カニシ、家畜傳染病豫防ニ資スル等、家畜ノ保健衛生ニ努メツツアリ。

チ 交通、運輸及水利土工

(一) 交通、運輸

(一) 陸上交通 鐵道ハ官設臺東線ニ依リ臺東花蓮港間百七哩一ヲ從來七時間四十五分乃至九時間ヲ要シタリシカ昭和七年十一月機動車ノ運行ト共ニ五時間二十六分乃至七時間ニ短縮セラレ特ニ夜行車ハ著ク旅客ノ利便ヲ増ニ至レリ。

道路ハ花蓮港方面ニ通スルモノニ、臺東ヨリ里壠ヲ經テ玉里ニ至ル臺東花蓮港道路、臺東ヨリ新港ヲ經テ馬

太鞍ニ通スル臺東馬太鞍道路ノ二線アリ。前者ハ嘗テ一部開鑿セラレシモ、鐵道ノ全通ト共ニ全ク閑却セラレ僅ニ臺東北絲閣間四里、自動車ヲ通スルノミナリシヲ以テ、昭和八年一月北絲閣溪、鹿寮溪ノ架橋起工ト共ニ道路ノ開鑿ヲ爲シ近ク里壠ヲ經テ蕃地新武路ニ至ル十二里十二町二十間自動車ノ運行ヲ見ルニ至ルヘシ。後者ハ應下ニ於ケル延長二十四里ニシテ、內臺東新港間ハ卑南溪ノ橋梁ヲ除キ道路完成シ、新港以北花蓮港應界ニ至ル間ハ橋梁ヲ除キ道路完成シ目下卑南溪左岸ヨリ新港ヲ經テ加走灣ニ至ル間乗合自動車運行シツツアリ、尙卑南溪ノ橋梁ハ工費三十九萬四千圓ヲ以テ二箇年繼續工事トシ、昭和七年十一月起工シ目下施工中ナリ。

高雄州方面トノ交通ハ關山越道路、內本鹿線道路、臺東屏東道路、浸水營越道路及大武恒春線道路ノ五線アルモ何レモ徒歩若ハ轎ニ依リ交通シ得ルニ過キス而シテ一般交通者ノ交通スルモノハ浸水營越道路及大武恒春線道路ニシテ後者ハ橋梁ヲ除キ道路完成シ目下臺東大武間乗合自動車運行シ、高雄州恒春ニ於テヨリ應界迄自動車道路ヲ開鑿シツツアルヲ以テ此ノ道路完成ノ曉ニハ朝臺東ヲ發シ恒春、潮州ヲ經テ翌朝臺北ニ到著スルヲ得ヘシ。更ニ此ノ路線ニ依リ臺東ヨリ恒春ヲ經テ潮州線ニ連絡スル鐵道ノ敷設ヲ見ルヲ得ハ茲ニ臺灣東西部ノ交通完壁トナリ、東部臺灣ノ開發ヲ促進スルコト言フ俟タヌ。

(二) 海上交通 命令航路臺灣沿岸東線ハ大阪商船株式會社ニ於テ嘉義丸及第二十六共同丸ヲ以テ基隆高雄間ヲ月六往復シ毎回臺東ニ月三回新港ニ往復二回火燒島及紅頭嶼ニ寄港セシカ、昭和七年四月ヨリ宮古丸(九百

七十三噸)宇佐丸(八百十九噸)大分丸(七百一十一噸)ノ三隻ヲ配シ月九往復シ新ニ加走灣ニ寄港スルコトナレリ。
 臺東港ハ陸地近ク碇泊スルコトヲ得ルモ、單ニ海岸投錨地點タルニ過キスシテ何等港灣設備アルニ非ラス、
 年間四月ヨリ七月迄ノ海上ハ概シテ靜穩ナルモ八月、九月ニハ屢々低氣壓ノ襲來アリ、十月以降ハ北東季節
 風アリ爲ニ沿岸波浪高クシテ汽船ト陸上トノ交通ヲ爲スヲ得ス、貨客ノ上下不能ナル場合屢々ニシテ住民ノ
 蒙ル苦痛甚大ナリ、獨リ新港ハ自然的港灣ニシテ現在ニ於テモ一年ヲ通シ船舶トノ交通ニ支障ナク、殊昭和
 七年十月工費八十四萬八百九十七圓ヲ以テ漁港工事ノ完成ヲ見、約四十隻ノ發動機漁船ヲ安全ニ收容シ得ル
 ノミナラス、汽船ノ荷役モ完全ニ行フ事ヲ得ベシ、更ニ目下工事中ノ卑南溪ノ橋梁架設ノ曉ハ臺東街トノ連
 絡支障ナク行ハレ、廳民ノ享クル惠澤甚大ナリトス。

航路標識トシテ臺東街、新港支廳管内三仙臺及新港漁港ニ燈臺アリ。

(三) 通信 臺東街ニ二等郵便局、里壠ニ三等郵便局、新港、大武及火燒島ニ臺東郵便局出張所アリ。尙火
 燒島ハ職員駐在セス定期船寄港ノ際、臺東局員出張シテ之カ事務ノ取扱ヲ爲シ居レリ。

臺東郵便局及里壠郵便局ニ於ケル昭和七年中ノ郵便物取扱件數左ノ如シ。

局名	通		常		小	
	引	受	配	達	引	受
臺東郵便局	六四〇、九二六	一六五、六九六	九〇六、八六七	三九四、四三九	八、七二一	一、一三五
里壠郵便局						
計						

電信ハ管内ニ於テハ臺東ヨリ里壠、新港及大武ニ至ル線アリ。廳外ニ通スルモノニ南北二線アリ、一ハ花蓮
 港ヲ經テ臺北州ニ、一ハ大武枋寮ヲ經テ高雄州ニ至ルモノニシテ、何レモ平時ハ事故ナキモ雨期ニ至レハ幾
 多ノ河川ノ氾濫、山岳ノ崩壞等ノ爲往々通信不能トナルコトアリ。公衆電話ハ臺東街内、臺東大武間、臺東
 里壠間及臺東ヨリ花蓮港、臺北方面ニ直通電話アリ。更ニ昭和八年一月里壠ニ、同四月新港ニ何レモ公衆電
 話ノ開通ヲ見タリ。

無線電信機ハ臺東郵便局及火燒島ニ設置セラル。

應下郵便遞送ハ臺東街ヨリ鐵道及花蓮港蘇澳間連絡線ニ依ルモノ及高雄州枋寮ヨリ陸上遞送ノ二線アリ。

(二) 水利土工

昭和八年三月末現在ニ於ケル灌溉排水面積ハ六千二百九十二甲ニシテ即チ左ノ如シ。

種別	埤圳數	灌		溉		其他	計	排水面積	計
		兩期作田	單期作田	兩期作田	單期作田				
水利組合	四	一、〇三六	七三五	六〇	一、八三三				一、八三三
認定外(三十甲以上)	三六	一、六三三	一、〇一七	四三	二、六八二				二、六八二
同(三十甲未満)	七四	七八九	九四五	四三	一、七七七				一、七七七
計	一一四	三、四五〇	二、六九七	一四五	六、二九二				六、二九二

土工ハ後ノ事務概要土木係ニ記述シ茲ニ省略ス。

リ 産業、金融並貿易

(一) 農業

應下住民中農業者ハ五千三百五戸、三萬八千三十一人ニシテ即チ全住民ノ七割六分ハ農業者タリ、而モ其ノ大部分ハ平地蕃人ナルカ爲農耕極メテ幼稚ナリシモ、銳意指導督勵ノ結果逐年發達シ成績ノ見ルヘキモノアリ、然レトモ幾多改善ヲ要スル事項尠カラス。耕地ハ田五千八百四十九甲、畑九千七十甲七分二厘、計一萬四千九百二十甲三分六厘ニシテ、一戸平均二甲八分一厘二毛五糸ニ當ル、尙開墾可能地約一萬八千甲アリテ之カ開拓ハ一ニ今後農業移民ノ招致ト灌溉ノ施設トニ俟タサルヲ得ス。昭和七年中ニ於ケル農産總額ハ二百五萬一千二十七圓ナリ。

(二) 畜産業

應下ハ到ル處廣漠タル原野ヲ有シ、氣候風土亦畜牛ノ蕃殖ニ適スルノミナラス、平地蕃人ハ畜牛愛護ノ念深ク從テ其飼養ニシテ、總頭數二萬三千五百七頭、農家一戸當四頭二分五厘ニ達シ、實ニ全島隨一タリ。且畜牛ハ體格整美力量強大ニシテ、克ク勞役ニ耐フルヲ以テ特ニ其ノ蕃殖ヲ獎勵シツツアリ。然ルニ從來蕃人間ニハ徒ニ畜牛所有數ノ多キヲ誇リトシ、農耕ニ使役スルノ外他ニ搬出賣却スルヲ好マサル風習アリ、過剩牛ヲ經濟化スルハ刻下ノ急務ナルヲ認メ、其ノ増殖ヲ圖ルト同時ニ昭和三年來之カ搬出ヲ獎勵シツツアリ。昭和七年中ニ於ケル畜産生産額ハ五十萬二千九百四十四圓ナリ。

(三) 林業

林野ノ總面積ハ三十二萬九千二百三十甲ニシテ、內國有山林二十四萬二千七百四十二甲、原野八萬四千七百七十四甲、民有山林一千五十二甲、原野六百六十二甲ナリ。林野ハ管内總面積ノ約九割ヲ占ムルヲ以テ、之カ施設經營ノ適否ハ國土保安上、治水上、各種産業上、影響スル處甚大ナルモノナリ。而シテ林野ノ合理的施業ハ固ヨリ總督府ニ於ケル森林計畫ノ施行ニ俟タサルヘカラス。蕃地及山脚林野ニ在リテハ蕃人ノ燒畑耕作ノ犧牲ニ供セラレタル部分尠カラスト雖、一部ニハ尙鬱蒼タル原生林アリ、然レトモ交通不便ナル關係上廣ク利用セラルルニ至ラス、從テ民行造林モ未タ普及スル時期ニ到達セサル状態ナリ。唯火燒島ニ於テ先年來小規模ナルモ、島民ニ於テ想思樹銀合歡等ノ造林ヲ實施シツツアリ。

(四) 水産業

應下四十四里ニ亘ル沿岸一帯及火燒島、紅頭嶼ハ常ニ暖流ニ洗ハレ魚族頗ル豊富ナリ。就中鯉、鮪、旗魚、鱈、飛魚、等最モ多ク到ル處ニ好箇ノ魚場ヲ有ス。沖合漁業ハ大正十二年以來石油發動機付漁船ヲ使用シ、近時漁具漁船ノ改善ヲ計リ、逐年其ノ數ヲ増シ、沿岸漁業ハ地曳網漁業、惣田鯉大敷網漁業等ニシテ、之亦激増スルニ至レリ。昭和七年中ニ於ケル漁獲高十五萬四千七百四十四圓ナリ。水産製造ニ於テハ眞鯉節主位ヲ占メ、其ノ他飛魚、鰯、鮪、惣田鯉等ノ鹽藏及鹽乾品等アリテ、本年中ノ産額八萬八千九百三十九圓トス。近時各種漁業ノ勃興ニ伴ヒ水産製造業モ亦著シク増殖

ヲ見ルニ至レリ、殊ニ新港漁港モ本年十月完成シタルヲ以テ、之ニ伴フ陸上設備ノ完備ト内地漁業移民ノ招致ト相俟ツテ益々發動機船漁業モ亦激増スルヲ以テ、無盡藏ノ天惠容易ニ開拓セラレ、廳下水産ノ一大躍進ヲ見ルニ至ルヘシ。

(五) 工業

工業ノ主ナルモノハ、製糖業ニシテ臺東街ニ臺東製糖株式會社アリ。臺東、里壠兩支廳下管内ヲ採集區域トシテ、能力三百五十噸(英)ノ新式工場ヲ有ス。昭和七年期產糖十一萬九千六百二担、歩留一割三分三厘二毛ヲ示シ、將來有望ナリ。而シテ臺東支廳管内ニハ未墾地ヲ含ミ約八千甲ノ土地アリ、卑南工場ノ採集區域トシテ充分ナルヲ以テ、更ニ里壠支廳管内約一萬甲ノ土地ニ對シ、一工場ヲ設置スルノ餘裕ヲ存ス。其ノ他工業トシテハ舊式製糖、製腦、製材、精米、石灰、木工、鐵工、鯉節工場等アルモ極メテ小規模ニシテ且生産加工品ハ砂糖樟腦ヲ除ク外殆ント廳管内消費ニ止ル。

(六) 鑛業

廳下ニ於ケル既知ノ有用鑛物ハ砂鐵、銅鑛、砂金硫化鐵鑛等ニシテ何レモ鑛業權ノ設定セラレタルモ財界不況ニ依リ廢業セルモノアリ。昭和七年末現在銅硫化鐵鑛區三十三萬九千五百八十八坪、砂金鑛區四萬五千三百三十坪ニシテ、其ノ内砂金ハ臺東支廳下加路蘭及新港支廳下姑子律方面ニ於テ發見セラレ有望ナリト稱セラレ、現ニ姑子律ニ於テ試掘セラレツツアルモ資金難ノ爲メ事業休止ノ狀態ナリ。

(七) 商業

廳下ハ自然的ニ商業地トシテノ條件ヲ缺如ス、即チ地理的ニ山岳多ク中央山脈ノ峻嶺ト大洋ノ波浪トニ依リ西部諸州ト隔絶シ、加フルニ良好ナル港灣ナク、交通不便ナルノミナラス、人口稀薄、經濟資源ノ缺如、經濟諸施設機關ノ不備、住民ノ多數ハ低級ナル蕃人ナル爲、商業發展ノ素質ニ乏シク臺東街ヲ除キ里壠、新港大武ノ如キ支廳所在地ト雖未タ地方農村ニ於ケル集團部落タルノ域ヲ脱セス、商業ノ見ルヘキモノナシ。而シテ商取引ハ產地品ニシテ消費ノ大宗タル米及砂糖ヲ除キ殆ント移入品ノ取引ニシテ、土木建築材料、金物、肥料、及日常雜貨等其ノ大部分ヲ占メ、移出二百十四萬七千五百五十七圓、移入百六十四萬八千三百六圓トス購買力ハ一般經濟界ノ不況ニ支配セラレ、活氣ヲ呈セサルモ從來自給自産ヲ主トセル平地蕃人ノ生活程度近時著シク向上シ購買力漸次増加シツツアリ。昭和七年末商業戶數六百八十戶、總賣上高三百萬八百七拾圓ナリ。

(八) 移民

總督府ハ明治四十三年旭村ニ移民指導所ヲ設ケ、各地ニ移民收容豫定地ヲ決定シタリシモ、遂ニ官營移民ノ實施ヲ見ルニ至ラスシテ、大正五年二月廢止セラレタリ。時恰モ臺東製糖株式會社ニ於テ原料甘蔗ノ充實ヲ圖ル爲ニ專ラ耕地ノ擴張ヲ期シツツアル時ナリシヲ以テ、官營移民事業中止セララルヤ移民收容豫定地ヲ繼承開墾ノ許可ヲ受ケ、民營移民ヲ企畫シ大正四年十一月新潟縣ヨリ短氣出稼者ヲ招致シ、鹿野村ニ入レ、更

ニ大正五年以降八年迄毎年短期出稼者及移民ノ移殖ヲ行ヒ、移民ノ充實ヲ圖ルト共ニ大正六年以降旭村、鹿寮、池上方面ニモ新潟、長野両縣下ヨリ移民ヲ招致シ、開墾及耕地ノ擴張ニ努メタリシカ大正六年及大正八年兩度ノ暴風雨ノ襲來ヲ受ケ、多大ノ損害ヲ蒙リタルノミナラス、風土病ニ罹ル者多數ニ上リ加フルニ大正八、九年ノ財界好況ノ影響ヲ受ケ、内地歸還者續出シ會社ノ移民事業ハ經營難ニ陥リタルノミナラス、其ノ後財界不況ト糖價暴落トハ會社ヲシテ益々苦境ニ陥ラシメ一大整理ニ次クニ減資ノ己ムナキニ至リ、遂ニ移民事業ハ別ニ會社ヲ設立シ其ノ經營ニ移スコトナリ、此ノ目的ヲ以テ大正十年十二月臺東開拓株式會社ノ設立ヲ見ルニ至レリ、爾來開拓會社ハ既成農村ノ維持及美和、鹿野、寸雲、月山、萬朝等ノ埤圳ヲ開鑿シテ水田ノ經營ニ便ナラシメ、風土及農耕ニ馴化セル本島人及蕃人ノ移民ヲ招致シテ鹿野、鹿寮、大原、月野、池上、美和ノ各地ニ分布シタリシモ、其ノ成績思ハシカラズ、民營移民事業モ亦失敗ニ終レルモノト謂ハサルヲ得ス、而シテ招致總數ハ内地人二百六十六戸、退去者百八十七戸、現在七十九戸、本島人及蕃人招致總數四百九十四戸、退去者三百八十八戸、現在百十四戸ニシテ、内地人ハ大正八、九年ノ盛時ニ比スレハ約十年間ニ三分ノ一以下ニ減少セリ。而シテ之等殘存移民ノ生活狀態ハ旭村ヲ除キ其ノ經濟ハ逼迫シ負債ハ年々増加シ而モ會社ハ到底之ヲ救済スルノ實力ナキ爲之カ救済策ヲ考究中ニアリ。然レトモ應下開發ノ要諦ハ一ニ懸リテ蕃人ノ指導啓發ト内地人移民事業ノ完成ニ在リト云フモ過言ニ在ラサルヲ以テ、此ノ際應下ノ土地、移民並開拓ノ根本策ヲ確立スルノ急務ナルヲ認ム。昭和七年十二月末ニ於ケル移民ノ狀況次ノ如シ。

農 村 別	内地		本島		蕃		計	
	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口
旭 村	三	一四〇	三	一五	一	一	二六	一五五
鹿 野 村	四九	二七三	四	二	一	一	五三	二八三
鹿 寮 村	七	四九	一	五	一	一	七	四九
大 原 村			九	五五	一	五	一〇	六〇
雷 公 火 村			三	一七			三	一七
月 野 村			四	一九七	一	五	四八	二〇三
德 高 班 寮			二	一〇	五	二五	七	三五
池 上 村			二〇	一〇			二〇	八八
美 和 村			一九	四			一九	四四
計	九	四六二	一〇七	四三七	七	三五	一九三	九三三

(九) 金融

應下ニ於ケル金融機關トシテハ、臺灣銀行臺東支店、信用組合、東部無盡會社代理店、公設質舖等アリテ産業並經濟資金ノ需要ヲ充シツツアリト雖公設質舖ヲ除キ其ノ活動範圍一部階級ニ餘儀ナク限定セララルル關係上且又銀行、信用組合カ過去ニ於ケル舊債整理ニ重キヲ置キ新規貸出ヲ引締メツツアル爲、資金調達上不便不利ヲ免レサル現狀ナリ。故ニ必要ニ逼ラレ講會ハ遂次増加シ、金融上ノ緩和ヲ試ミントスル氣配ヲ呈スルニ至レリ。之等各種金融機關ノ最近三箇年取扱狀況ヲ示セハ左ノ如シ。

(1) 銀行

年別	受		高		計
	預金	貸出回数	送金爲替	取立受高	
昭和七年	三、五八七、三六七	九、九五八、三二二	一、一四八、六九七	四二五、二七九	一五、一九、六五五
昭和六年	三、三三三、五三二	一〇、二二二、三四九	一、〇二二、〇四四	四二七、八一九	一四、九〇四、七四四
昭和五年	三、二七、一四五	一〇、九七七、六五八	一、一〇四、九三二	二四五、八九九	一五、六二五、六三三

(口) 信用組合

年別	拂		高		計
	預金	資金貸出	支拂爲替	取立取組高	
昭和七年	三、五四九、〇七九	九、九五四、一九九	九七七、四一七	一〇、七五二	一四、四九一、四四七
昭和六年	三、二四六、六五〇	一〇、一六一、八〇三	八九八、〇〇〇	九八四、七九五	一五、二九一、二六八
昭和五年	三、三八九、九三八	一一、〇八七、一四六	八五七、二九五	二二七、四八八	一五、五五一、八六七

年別	受		高		計
	諸預金	貸出回数	貯金拂戻	貸付金	
昭和七年	四七二、六四九	九七二、〇六五	四五八、八八六	九七一、五九二	一、四三〇、四七八
昭和六年	三三五、二六六	九九五、五八七	三二八、一〇七	九七三、九〇二	一、三〇一、〇〇九
昭和五年	四三九、七五七	一、三六六、六三三	四四五、四〇五	一、三三九、七二四	一、七八五、二九

(八) 頼母子

年別	口	落札回数		落札交付金
		數	數	
昭和七年		二、〇〇四	六〇五	三八六、二五九
昭和六年		二、四一五	九三〇	五六四、六五三
昭和五年		二、七七八	八五五	五五三、一二二

(二) 無盡會社

年別	組	落札交付金		
		數	數	
昭和七年		二九	三三二	一八〇、七九
昭和六年		二三	一七八	八〇、二〇〇

(一〇) 貿易

應下ノ貿易ハ移出入貿易ニシテ從來移出ニ乏シク常ニ移入超過ノ一途ヲ辿リ來リタルモ、應下産米ノ品質改良及増産ニヨリ移出年々増加シ且産糖高ノ激増ト相俟テ應下貿易ノ常軌ヲ逆轉セシメ現在ニ至ル、而シテ貿易額ニ於テ漸次増大ノ趨勢ニ在リ、今最近三箇年ノ間ノ臺東及新港ニ於ケル移出入状態ヲ示セハ左ノ如シ。

年 別	噸 移		入 格	噸 移		出 格
	數	價		數	價	
昭和七年	二、四四四		一、六四八、三〇六	二、七三六	二、一四七、一五七	
昭和六年	一三、二五二		一、四六六、三九	八、七八七	一、八〇九、〇二七	
昭和五年	九、六七五		一、七三九、九七七	六、一六一	一、二六一、一七四	

又 司法、保安、衛生、理蕃行政ノ一斑

(一) 司法、保安

(イ) 民情 廳下在住民中大部分ヲ占ムルモノハ、知識程度低級ナル蕃人ナルト本島人ノ多クハ西部各地ノ出稼者又ハ移住者ニシテ、一般知識竝生活ノ程度低ク唯貨殖ニ汲々タル状態ナリ。從テ西部諸州ニ見ルカ如キ社會運動及政治運動等モナク一般ニ民情平穩ナリ。

然レトモ近年時勢ノ進運、教育ノ普及、生活ノ改善ニ伴ヒ、漸次舊套ヲ脱シツツアル實況ナルモ之ヲ西部各州ニ比スレハ大ナル軒輊アリテ開化ノ程度其ノ比ニ非スト雖最近東部臺灣開發ノ聲頓ニ高マリ從來殆ント顧ミラレサリシ當地方モ漸ク一般ノ注目スル處トナリ、各種投資事業ノ視察其ノ他ノ爲メ來住スル者漸次増加シ、交通繁激ヲ加ヘツツアリ、而シテ之等ノ中ニハ不良不逞ノ徒輩ノ往々ニシテアリ、一般良民ノ無智ニ乘シ何等カノ具ニ供セントシテ策動ヲ試ミントスル者漸ク窺知セララルルニ至レリ。

(ロ) 犯罪 管内ハ人口稀薄ニシテ住民ノ大部分ハ低級ナル蕃人ナルト且交通不便ナル爲文化ノ發達遅々タルトニ因リ警察上重大ナル事故又ハ複雑ナル事犯ノ發生少ナク、犯罪傾向ノ如キモ特ニ注意ヲ要スヘキ地方的犯罪ト認メラルモノナシ。

(ハ) 保 甲 管内ニ於ケル保甲ハ現在臺東支廳九保、壯丁團二團、里壠支廳七保、壯丁團三團、新港支廳四保、壯丁團四團、大武支廳一保、壯丁團一團、計二十一保、十團ヲ有スルモ臺東、里壠其ノ他集團地ノ外蕃人部落ニ雜居スルモノ甚カラス、之等ハ交通其ノ他ノ事情ニ因リ保甲ノ編成ナカリシヲ新ニ編成セシメタル關係モアリ、地域比較的廣大ニシテ戶數少ナク且大部分西部ヨリノ移住者又ハ出稼者ナルヲ以テ、保甲ニ對スル理解ナク隣保互助ノ觀念ニ乏シク、從テ保甲及壯丁團ノ活動未タ充分ナラサルヲ遺憾トス。

(ニ) 臺東開導所 臺東開導所ハ明治三十九年律令第二號浮浪者取締規則ノ規定ニヨリ本島人浮浪者ヲ收容スルモノニシテ、明治四十年十月臺東廳加路蘭ニ、明治四十五年火燒島ニ設置セラレシカ、大正八年十月前者ヲ岩灣ニ移シ九年三月後者ヲ廢止シテ岩灣ニ併合シ、臺東岩灣浮浪者收容所ト稱シタリシヲ、昭和三年一月臺東開導所ト改稱シタルモノナリ。收容者ニ關シテハ時代ニ順應シ、其ノ處遇感化ニ付テモ改善ノ要アルヲ認メ遂次諸般ノ改良ヲ計リ其ノ趣旨ノ貫徹ニ努メツツアリ。

(二) 衛 生

廳下ノ衛生改善ヲ圖ルハ、各般行政中ノ緊要事項ト認メ全力ヲ舉ケテ之カ改善ニ努メタル結果、遂年良好ニ

向ヒツツアリシカ、昭和七年五月ニ至リ俄然マラリア病ノ流行ヲ見タリ。之カ原因ニ付テハ當時夫々權威者ヲ以テ極力調査シタルモ、的確ナル結論ヲ得ルニ至ラス。遂ニ同年中ニ於ケル廳下平均原蟲保有率ハ五〇ヲ超スノ不良ヲ示シタルハ甚タ遺憾トスル處ナリ。傳染病ニ於テハ臺東街ヲ初メトシ、廳下農村ニ斷續的ニ、腸チブス發生シ、漸次蔓延ノ徵アルヲ以テ、昭和六年以來極力繼續的調査ヲ爲スト共ニ一方檢疫ノ徹底ニ努メタル結果本期ノ初頭ニ於テ僅ニ七名ノ發生患者ヲ見タルノミニテ、阻止スルヲ得タリ。

痘瘡ハ一月以來隣接花蓮港廳下ニ大流行ヲ極メタルヲ以テ、極力侵入ノ阻止ニ努メタルモ、里壠支廳下ノ接續地帯ニ侵襲ヲ受ケタリシモ幸ヒ防遏効ヲ奏シ、僅ニ四名ノ罹患者ノミニテ終熄セシムルヲ得タリ。風土病トシテ「マラリア」及「甲狀腺腫」アリ。甲狀腺腫ハ臺東、里壠、大武ノ各支廳下ノ山麓ニ住居スル蕃人ニシテ、被害甚シカラサルモ「マラリア」ニ至リテハ廳下ノ保健上最モ憂フヘキモノニ屬シ、殊ニ本期ノ流行ハ猖獗ヲ極メタルヲ以テ、之カ防遏ニ全力ヲ擧ケ採血服藥ハ勿論、各種防蚊並ニ驅蚊施設ニ努メタル結果漸ク十一月ノ候ニ至リ稍々終熄状態ニ至リタルモ、尙臺東支廳下ノ如キ一般ニ五〇ヲ超スモノ多ク遺憾ナカラ本期ヲ經過スルニ至レリ。因之極力排水溝ノ開鑿、不良地域ニ對スル部落ノ整理等ヲ計リタル結果漸次成績ヲ收メツツアリ。管内ニ於ケル乳幼児ノ死亡數多キニ鑑ミ廳地方費ヲ以テ新港、里壠、大武ニ産婆ヲ配置シ、助産及乳幼児ノ保健指導ニ從事セシメツツアルカ、其ノ成績見ルヘキモノアリ。不良飲料水ノ使用ハ保健衛生上其ノ影響スル所大ナルヲ以テ、從來部民ノ出費及廳地方費ノ補助ニ依リ簡易水道ヲ施設セルニ其ノ成績甚タ

良好ナルニ鑑ミ、漸次普及スル計畫ヲ樹テ、本年中新港支廳下石寧埔ニ之カ施設ヲナシタリ。

廳下住民ノ保健上憂フヘキハ寄生蟲及「トラホーム」トス。前者ノ保卵率九〇後者ハ四十五〇ヲ超ユル状態ナルヲ以テ本期中之カ驅除ヲ實施スヘク、旭村及馬蘭西部落住民三千人ニ對シ、十月下旬ヨリ昭和八年三月迄五箇月間ニ亘リ驅除ヲ實施シ相當効果ヲ收メ得タリ。

(三) 理 蕃

廳下蕃地ニ居住スル蕃人ハ「バイワン」族、「ブヌン」族、「ヤミ」族ノ三種族ニシテ合計二千二百四十二戸、一萬八百七十五人ニシテ、之等蕃人モ最近教育ノ普及、産業ノ指導、交易、醫療、交通路ノ開鑿、其ノ他諸般ノ撫育並警備施設ノ進展ニ伴ヒ進歩開發ノ跡見ルヘキモノアリ。殊ニ本年中「ブヌン」族ニ對シテハ、高雄州下ニ於ケル大關山蕃害事件ニ依リ、多年ノ懸案タリシ廳下未歸順蕃最後ノ解決ヲ爲シ、「バイワン」族ニ對シテハ「ピララウ」方面道路開鑿ヲ實施シ、「ヤミ」族ニ對シテハ紅頭嶼開發計畫ニ著手ヲ爲シ、今ヤ各種族蕃情ノ好轉ハ實ニ一劃期ヲ描キタリト言フヘク、積極的ニ理蕃施設ヲ進捗セシムヘキ機運ニアリ。

大正十年十二月サクサク線進出ノ際逢坂駐在所附近ニ於テ原警部、備後部長ノ兩名ヲ殺害セル元「エバコ」社勢力者「ラマタセンセン」ハ爾來中央山脈ノ直下「カウトウ」社、蕃稱「イカノバン」ニ遁竄シ、天嶮ニ據リテ兎角官命ヲ奉セス、未タ官憲ノ入社ヲ絶對ニ拒ミ居ル實情ニ在リ。一面本年五月逢坂駐在所ニ於ケル水道布設用鐵管竊取事件ノ處置、同年五月末「カウトウ」社六番戸「タケシラホロマンタロム」ノ貸與銃ノ銃身

交換事件ニ對スル隱匿銃器ノ押收亞ヲ同年八月「ラマタセンセン」ノ長男「サブサウ」ノ硝石押收事件等々ハ一部關係蕃人間ニハ官ノ措置隱當ナラストシテ官憲ニ反抗ヲ企畫スル等同方面一般蕃情ハ著シク惡化ノ傾向ヲ示セリ。恰モ昭和七年九月十九日高雄州大關山ニ蕃害事件アリ、前述ノ蕃情ヨリ考察シ本件加害者ハ前記各種事件ノ關係蕃人等ノ所爲ナラント思料シ極力捜査ヲ續行セルモ容易ニ確證ヲ得ス、事件ハ一時迷宮ニ入りタルヤノ觀アリタルモ十二月十七日「マカリワン」社ニ於ケル「ラマタセンセン」父子ノ就縛ニ依リ端ナクモ「ラマタセンセン」「タロム」一族ノ兇行ナルコト判明シ、夫々關係蕃人「ラマタセンセン」外十名ヲ檢擧シ、之ヲ里墾支應ニ留置セルカ之ニ伴ヒ多年ノ懸案タリシ「イカノバン」ノ巢窟ヲ武斷的ニ解決シ得ルノ運トナリ茲ニ「ブスン」族ニ對シ官憲ノ威力ヲ徹底シ信賞必罰ノ趣旨ヲ如實ニ示スコトヲ得タリ、由來「ラマタセンセン」一族ノ兇惡ハ「ブスン」族一般ニ周知ノ事實ニシテ其ノ遠ク「イカノバン」ノ要地ニ立籠リ常ニ大言壯語、反官的言動ヲ敢テ爲シ理蕃ノ進捗ヲ妨害シ來レル多年ノ經緯ハ一般蕃人間ニ官憲ハ到底「イカノバン」ニ一指ヲ染メ得サルモノト觀測セシムルニ到リタルモノニシテ、今次ノ行動ニ依リ一族ノ就縛ヲ周知シ始メテ官憲ノ威力ヲ感得シ、自來一般蕃情著シク好轉シ一劃期ヲ描キタルノ觀アリ 將來積極的ニ理蕃各種ノ施設ヲ進捗セシムヘキ機運ニアリ。

「バイワン」族太麻里中奥地一部ノ蕃人ハ從來動モスレハ官命ヲ輕視スル風アリシカ、交通路ノ開鑿ニ伴フ各種機關ノ充實ト共ニ極力指導啓發ニ努メタル結果漸次官命ニ從順トナルニ到レリ、由來本種族ハ勤勞ヲ厭ヒ

概シテ怠惰放縱ニシテ且ツハ地形ニ惠マレサル關係上、生活程度低ク之ヲ應下「アミ」族蕃人開發ノ過程ヨリ比較考察スルニ彼等ノ指導啓發ニハ、一段ノ考慮ヲ要スルモノアリ。昭和七年「ピララウ」方面道路開鑿工事ニ當リテハ、特ニ之等ノ點ニ注意シ彼等ニ作業ノ方法ヲ修得セシメ、併セテ勤勞ノ精神ヲ涵養シ以テ生活ノ向上ニ資スル方針ノモトニ可成彼等ノ農閑期ヲ利用シ主トシテ附近蕃人ヲ出役セシメタルニ、實ニ延人員五萬ニ達シ之ニ依リ得タル賃金モ亦相當多額ニ上リ、經濟觀念ノ發達ト生活向上ニ資スルトコロ不尠ノミナラス、之ノ間職員トノ接觸ニ依リ指導開發サレタル點亦不尠、一面規律アル作業ニ依リ充分勤勞ノ精神ヲ涵養シ得タル等、既ニ本工事自體ニ依リ同支應下從來ノ蕃情ヲ好轉セシメ、從來暗黒面ノ觀アリシ同方面モ一劃期ヲ見ルニ至レリ。紅頭嶼「ヤミ」族蕃人ハ其ノ種族の特異性ト絶海ノ孤島ナルニ依リ外界トノ交渉極メテ尠キ關係上理蕃ノ成績ヲ舉クルコト頗ル至難ニ屬シ、開發ノ跡遲々トシテ進マサル状態ニアリ、蓋シ改隸以來茲ニ三十九年今尙此未開發ノ状態ニアラシメシハ在住蕃人「ヤミ」族ノ比較的素朴温順ニシテ、鬪性少ナク過去ノ理蕃ニ於ケル制壓威服ノ要ナカリシ爲、自然ニ之ヲ等閑視サルルノ己ムナキ事情モ亦其ノ一因タリシモノナリ。而シテ現在ノ施設ヲ以テ満足トシ推移スルモ將來抄々シキ發達ノ治績ハ到底之ヲ望ムコト能ハサル實情ニアリ、近時水産業ノ發達ハ今ヤ紅頭嶼ヲ中心トシ、其ノ近海ハ最優良ナル漁業區ト目セラレ他方面ヨリ逐年各種ノ計畫進捗シ漸次具体化シ、直接間接ニ在住蕃人ト接觸行ハレ逐次交渉繁カラントシ、經濟的ニ開發ヲ餘儀ナクセラルルノ機運ニ當面セリ。加之紅頭嶼ハ我カ國ノ南端ニ位シ「バシー」列島ト相對峙ス

ル地理的事情ハ軍事上ニモ亦在住蕃人未開發ノ現狀ヲ放任スルノ適當ニアラサルヲ思料セラレ又如斯原始狀態ニ放任スルハ理蕃事業全局ノ汚點タルモノト痛切ニ認めラルルモノナリ。
 如上ノ見地ヨリセハ紅頭嶼在住蕃人ノ開發ハ之ヲ積極的ニ施設計畫スルノ實ニ緊急事項ナルヲ認め、昭和七年度ニ於テ夫々開發計畫ニ著手シ急遽配置定員ヲ増加シ其ノ他計畫ノ一部ヲ進捗シ、極力開發ニ努メアル處ニシテ、治績見ルヘキモノアリ、而カモ今後ノ施設ニ待ツヘキモノ亦甚カラス。
 現在之等蕃人ニ對スル撫育施設ハ教化機關トシテ教育所二十四ノ外青年團、婦女會、國語普及會等アリ、授産機關トシテハ産業指導所外各種指導所二十四、牧場一、交易機關トシテ交易所十五アリ、醫療ニ關シテハ公醫診療所四、療養所二十五アリ、何レモ蕃地蕃人ノ生活安定並保健衛生上至大ノ貢獻ヲナシツツアリ。

二、事務概要

庶務課 主管

イ 文書係

(一) 秘書事務

昭和七年十二月末現在應、支應、開導所、農業補習學校、小學校公學校及幼稚園ニ於ケル職員ノ定員及現員左ノ如シ。

官職名	定員及現員表	
	本	支應
廳長	---	---
地方理事官	---	---
地方警視	---	---
地業技師	二二	---
視學部	九九	---
屬警手部	九二	---
技警獸醫	一四六	二一四
防疫校	---	---
訓導長	---	---
助教諭	---	---
警務部	---	---
稅務部	---	---
森林主事	三一	---
臺東支應	三三	二二
里壠支應	六六	二三
新港支應	---	二二
大武支應	三三	二二
臺東開導所	---	---
農業補習學校	一三	一
小學校	二一六九	---
公學校	七四九七	---
幼稚園	---	---
計	一〇六一	一一七八
	五五四四六七一三五六一	一一七八三四八八三三

右定員
左現員

任官	轉任	轉任	兼任	免官	新用	解職	死等	昇任
一	三	一	三	一	三	一	三	一
元	八	四	五	七	八	一	三	一
一〇	三	一	三	一	三	一	三	一
三	三	一	三	一	三	一	三	一
一五	四	一	三	一	三	一	三	一
二	一	一	三	一	三	一	三	一
三	三	一	三	一	三	一	三	一
二	一	一	三	一	三	一	三	一
二九	八	七	六	八	七	六	八	二

備考 本表ノ外兼任屬四(庶務課)技手一(稅務課)アリ
任免其ノ他

昭和七年中

助教諭心得	保姆心得	計
一一	一一	一一
七五九	七五九	七五九
二一八	二一八	二一八
三三三	三三三	三三三
一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇
一六五	一六五	一六五
九八	九八	九八
一〇九	一〇九	一〇九
三三	三三	三三
五三 二	五三 二	五三 二
三二 三七	三二 三七	三二 三七
一一 四三 三二	一一 四三 三二	一一 四三 三二
二二二	二二二	二二二
三三 五〇 一九二	三三 五〇 一九二	三三 五〇 一九二

警察醫	產業書	產業書	土業技手	土業技手	衛生書記	衛生書記	社會教育書記	社會教育書記	准訓導	保姆	吏員	公醫	囑託	囑託	雇員	雇員	教員心得
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二	二二 一一 八七 二二
一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二	二二 二二
二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二	二二 三二
二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三	二二 四三
一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三	一一 四三
一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二	一一 三二
二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五	二八 五
三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇	三二 一 一六 四〇
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六	四三 四三 二 一一 一六
〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七	〇三 四四 三二 四〇 五七

種別	件数	延日数	摘要	官職		吏員		臨時		計
				高等官	高等官	吏員	職員	臨時	計	
昇級	4	109			1	4				36
降級	1	190				6				33
賞引		18								1
休職	4	8								1
轉勤	8									2
內地出張	2									4
兼務	2									2
兼務	2									2
解任	1									1
改任	3									3
計	30	77								95

本表判任官待遇欄ニハ區長、區書記ヲ含ム
賜暇其ノ他

昭和七年中

種別	件数	延日数	摘要	官職		吏員		臨時		計
				高等官	高等官	吏員	職員	臨時	計	
公暇	189	1,388								1,388
轉地療養	7	642								642
看護歸省	3	33								33
忌引	4	27								27
受驗	26	170								170
徵兵受驗	7	43								43
勤務演習應召	43	2,949								2,949
計	230	777								777

叙位叙勳

昭和七年中

褒章
昭和七年中褒賞ヲ施行シタルモノ五件ナリ
(二) 文書事務

叙位	叙勳	計
1	1	2
7	3	10
4	4	8
計	計	計
1	4	5
7	4	11
4	4	8
計	計	計
1	4	5
7	4	11
4	4	8
計	計	計

昭和七年中ニ取扱ヒタル文書ノ收發件數ハ左表ノ如シ。

課 係 別	收 受 數	發 送 數	計
庶務課	一、三六五	一、九八三	三、三四八
文書係	一、四五三	二、〇七一	三、五二四
庶務係	二、四七〇	二、二二三	四、六八三
勸業係	一、六四二	九九四	二、六三六
會計係	一四〇	五三四	六六四
土木係	六、三四四	六、七三二	一三、〇五六
教育係	五九七	二二九	七二六
調停係	一四、〇一一	一四、六六六	二八、六七七
計			
稅務課	二、一〇九	一、三五九	三、四六八
庶務係	六八五	四三三	一、一〇七
地方費稅係	九二	七二	一六三
間稅係	二六二	二、一五三	二、四一五
直稅係	三、一四八	三、九二三	七、〇七一
計	一七、一五九	一八、五四九	三五、七〇八

本表以外ニ應報發送五千八百三十一件官報府報州廳報等收受數二千七十一件アリ。

昭和七年中ニ於ケル應報發行回數四十九回ニシテ應令訓令ノ件名及告示發布數左ノ如シ

應 令

- (一) 明治三十七年十二月臺東廳令第九號保甲條例施行細則中改正
- (二) 應地方費所屬營造物使用料額改正
- (三) 大正九年臺東廳令第四號支廳名稱位置管轄區域中改正
- (四) 昭和七年法律第十三號恩給更正手續
- (五) 軍事救護法施行令第三條醫療及生業扶助ノ爲出スル費用ノ限度

訓 令

- (一) 檢疫委員事務所規程
- (二) 檢疫委員事務所規程廢止
- (三) 大正十五年臺東廳訓令第七號臺東廳警察監視中改正
- (四) 昭和五年臺東廳訓令第十六號臺東廳警察職員配置定員中改正
- (五) 臺東廳統計報告例目中改正
- (六) 臺東廳警察電務士及電務工手服務規程

- 昭和六年臺東廳訓令第七號區役場處務規程中改正 (七)
- 地方待遇職員令ニ依ル職員ノ配置定員 (八)
- 應有給吏員ノ各課ニ於ケル配置定員 (九)
- 昭和六年臺東廳訓令第十一號中改正 (一〇)
- 臺東廳兵事々務取扱手續 (一一)
- 昭和七年臺東廳訓令第十一號臺東廳兵事々務取扱手續改正 (一二)
- 臺東廳判任官各官配置定員中改正 (一三)
- 阿片事務取扱規程中改正 (一四)
- 地方病驅除豫防ニ關スル職務規程 (一五)
- 臺東廳統計事務規程報告例目中改正 (一六)

告示

大正十一年九月臺東廳告示第四九號荷車取締規則第十二條ニ依ル施行地域改正ノ件外百十九件アリ。

指令

保安林内一時的的地形變更許可ノ件外一千五百八十件アリ。

(三) 統計事務

諸般統計 統計材料ノ整備ニ從ヒ之カ一覽表ヲ作製シ各係ヘ回覽シ事務ノ參考ニ供セリ。
 統計事務監督 統計報告ノ正確ト統一ヲ期セシカ爲各學校、各支廳、各區役場ヘ統計主務ヲ派シ實地又ハ書類ニ付指導監督ヲナセリ。

出版物 臺東廳勢一覽、臺東廳第十二統計書ヲ印刷ニ附シ各州廳並關係官公署ニ配付セリ。

口 調 停 係

昭和七年度中ニ於ケル廳下民事爭訟調停取扱件數ハ、調停事件二百六十八件、內金錢關係二百五十二件、土地關係十件人事關係四件、物品穀類二件ニシテ執行事件七十件合計三百三十八件ナリ。之ヲ前年度ニ比較スルトキハ金錢關係ニ於テ百十二件、金額一萬三千四百八十三圓餘ヲ増加シ土地關係ニ於テ二件ヲ減シ金額二千九十圓餘ヲ増加シ建物關係ニ於テ二件金額百四十七圓ヲ増加シ、其ノ他證券雜事關係ニ於テ各一件金額一千六百五十圓ノ減ヲ示シタリ、執行關係ニ於テハ十二件金額二千五百七十圓餘ノ増加ヲ見ルニ至レリ。全體ニ於テ百二十二件金額一萬六千六百四十圓ノ増加ヲ示セリ。此ノ傾向ハ逐年廳下住民一般ニ此ノ至便ナル制度ノ認識ヲ深メツツアルニ至リタルト一面經濟界ノ尙未タ好轉セス、依然トシテ不況ノ一途ヲ辿リツツアルコトヲ反映セルモノト見ルヲ得ヘク今後之等事件ノ處理ニ關シテハ、適正中庸、以テ本制度ノ効果ヲ十分ニ發揮スルコトヲ期スヘキナリ。

(一) 民事爭訟調停成績調

(二) 民事争訟調停金額調

件名	昭和六年			昭和七年			比較
	取扱件数	調	不調	取扱件数	調	不調	
人事地事	四	三	一	一	二	一	一
建物及船舶	三	六	二	二	四	二	一
金銭	二	二	一	二	二	一	一
物穀	一	一	一	一	一	一	一
證類	一	一	一	一	一	一	一
雜事	一	一	一	一	一	一	一
計	一六	九〇	三	三〇	一五	四	一〇六

件名	昭和六年			昭和七年			比較
	金額	調	不調	金額	調	不調	
人事地事	二四〇〇〇	三	一	二〇〇〇〇	二	一	四〇〇〇
建物及船舶	一、八六九、〇〇〇	七	二	三、九五九、六〇〇	四	二	一四七、〇〇〇
金銭	一四七、〇〇〇	一	一	一〇〇、〇〇〇	一	一	一四七、〇〇〇
物穀	二五、〇五三、三六四	一	一	三、四四二、〇〇五	一	一	二、一八四、五〇〇
證類	一、四五〇、〇〇〇	一	一	三、三五〇	一	一	一、四五〇、〇〇〇
雜事	二〇、七六六、八六四	一	一	二、五〇〇、〇〇〇	一	一	一、四七〇、〇〇〇
計	二五、〇五三、三六四	九〇	三	三、四四二、〇〇五	一五	四	一、四七〇、〇〇〇

(三) 民事争訟調停執行件數調

件名	昭和六年			昭和七年			比較
	件数	金額	調	件数	金額	調	
人事地事	三	一	一	二	一、二四三、八八元	一	三〇〇、〇〇〇
建物及船舶	二	五八二、〇〇〇	一	六	五八二、〇〇〇	一	四七、〇〇〇
金銭	一	六九二、五〇〇	一	三	六七六、〇一〇	一	一〇〇、〇〇〇
物穀	一	六九二、五〇〇	一	一	六九二、五〇〇	一	一〇〇、〇〇〇
證類	一	六九二、五〇〇	一	一	六九二、五〇〇	一	一〇〇、〇〇〇
雜事	一	七、八二二、二五二	一	一	二、五〇〇、〇〇〇	一	一〇〇、〇〇〇
計	七	七、八二二、二五二	一	一三	二、五〇〇、〇〇〇	一	二、一八四、五〇〇

(一) 街行政

件名	昭和六年			昭和七年			比較
	件数	金額	調	件数	金額	調	
有體動産ニ對スルモノ	五	七、八二二、二五二	一	六	一、二四三、八八元	一	三〇〇、〇〇〇
債權其ノ他ノ財産權ニ對スルモノ	一	一	一	二	五八二、〇〇〇	一	四七、〇〇〇
不動産及船舶ニ對スルモノ	一	一	一	三	六七六、〇一〇	一	一〇〇、〇〇〇
物ノ引渡又ハ明渡ニ對スルモノ	一	一	一	一	六九二、五〇〇	一	一〇〇、〇〇〇
計	八	七、八二二、二五二	一	一三	二、五〇〇、〇〇〇	一	二、一八四、五〇〇

八 庶務係

(4)

街行政

(一) 街行政

臺東街ハ應下唯一ノ地方公共團體ニシテ、其ノ行政ノ圓滑ナル運用ヲ期スル爲應ニ於テハ絶ヘス嚴密ナル監督ヲ爲スト共ニ、周到ナル指導ヲ如ヘツツアリト雖、未タ財政ノ確立ヲ見ルニ至ラス、年々應地方費ヨリ多額ノ補助ヲ受ケツツアルハ甚タ遺憾トスル所ナリ。

(ロ) 臺東街ノ管轄區域及戶口

臺東街ノ面積ハ六方里四八ニシテ、之ヲ七大字ニ區劃セラレ管轄セリ。其ノ名稱及昭和七年末ニ於ケル戶口左ノ如シ。

管轄區域	戶口					計	人					計
	内地人	本島人	蕃人	朝鮮人	支那人		内地人	本島人	蕃人	朝鮮人	支那人	
臺東	六三	六九	二〇六	一	二五	一、七五	二、〇六一	一、〇一八	一七	四七五	七、二二	
旭村	二六	七	四	—	—	四九	一四六	四〇七	—	—	八七九	
馬蘭	—	—	—	—	—	—	—	二八二	—	—	二、九四	
利吉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
猴利	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
加路	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
富原	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	六二	六七	五六	—	—	二、五八	二、三八	四、三二	一八	四九〇	二、九七	

(ハ) 街協議會及街協議會員

臺東街協議會員ハ制度改正後第七期ノ協議會員ニシテ、今回ハ人口ノ増加ニ伴ヒ、從來定員十名ヲ十二名ニ

増加シ、之カ選任ニ當リテハ學識、人格、社會的地位、思想等ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒタリ。協議會ハ昭和七年一月十九日通常協議會、同二月十日臨時協議會ヲ開催セリ。昭和七年十二月末ニ於ケル街協議會員職業左ノ如シ。

職業	内地人					島人					合計
	農	水産	鑛業	工業	商業	國語ヲ解スル者	稍國語ヲ解スル者	國語ヲ解セサル者	計	合計	
計	八	四	—	—	—	四	—	—	—	—	—
農	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水産	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鑛業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
工業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
商業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
交通	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
公務及自由業	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
其ノ他ノ有業者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
收入ニ依ル者	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	八	四	—	—	—	四	—	—	—	—	—

備考 一、協議會員中法定協議會員二名アリ。

二、本島人中一名ハ蕃人(バイワン族)ナリ。

(ニ) 街吏員及名譽職員

臺東街ニ於ケル吏員及名譽職員昭和七年末現在左ノ如シ。

種別	有		名		譽		職
	員	俸給年額	員	手當額	員	手當額	
街長	1	1,400	1	1	1	1	600
助役	1	1,400	1	1	1	1	150
會計役	1	2,300	1	1	1	1	150
其他ノ吏員	3	3,756	3	3	3	3	150
協議會員	1	3,756	1	1	1	1	150
區委員	4	3,756	4	4	4	4	150

備考 一、街長ハ昭和六年八月二十七日附奏任官ヲ以テ待遇セラレ

二、會計役ハ助役ノ兼務トス

三、區委員中一名ハ無手当トス

(水) 街 經濟

臺東街歳入歳出豫算ニ就テハ一般ニ緊縮方針ヲ採リ、極力節約ヲ圖リツツアルモ、財政ノ基礎未タ強固ナラス。毎年廳地方費ヨリ補助ヲ受ケ歳計ヲ維持セル状態ナルヲ以テ、基本財産ノ造成ニ意ヲ用ヒ、昭和五年九月基本財産造成ノ目的ノ下ニ豫約開墾賣渡許可中ノ土地四十甲七分一毛六絲ヲ昭和八年三月拂下ヲ受ケ目下

之カ管理維持ニ就キ考慮中ナリ。
街有財産其ノ他經濟狀況左ノ如シ。

臺東街有財産

昭和七年度末

種別	地		建		物		金額計
	甲	乙	坪	數	見積價格	金額	
收益財産 一般基本財産 普通財産	40,701.6	25,340.00	269.60	1	29,899.51	25,340.00	25,340.00
	9,206.6	7,010.30	1,922.66	1	29,899.51	29,899.51	29,899.51
公用財産	49,908.2	33,350.30	2,182.26	1	266,810.35	266,810.35	266,810.35
計	99,610.4	64,700.60	2,874.52	2	586,609.37	586,609.37	586,609.37

臺東街歳入歳出豫算並決算

昭和七年度

歲入 經常部

科 目	當初豫算額		追加減額		計	決算額
	増	減	額	額		
街地所得稅	23,940.00	1,390.00	1	1	23,940.00	23,940.00
地租稅	2,390.00	1	1	1	2,390.00	2,390.00
計	26,330.00	1,391.00	2	2	26,330.00	26,330.00

科目	目	當初豫算額		追加減正額		計	決算額
		増	減	増	減		
戶	稅割	一三、九三八				一三、九三八	一三、七五九
營業	稅割	四、三二一				四、三二一	四、九一八
雜種	稅割	三、三八五				三、三八五	三、九〇〇
財產	收入	五、六六六				五、六六六	四、四一七
財產	收入	五、六六六				五、六六六	四、四一七
財	收入	八、六九三				八、六九三	八、七四八
使用	料及手數料	八、五二三				八、五二三	八、五四一
手	數料	一七〇				一七〇	二〇六
交	付	一、三五三				一、三五三	一、五五四
國稅	徵收交付金	二六六				二六六	三三六
廳地	方費稅	八七八				八七八	九八〇
徵收	交付金	五七				五七	六一
農會	費徵收交付金	九二				九二	一〇七
水租	徵收交付金	六〇				六〇	六九
屠場	交使用付金	三、六九〇				三、六九〇	二、九〇三
質	舖收	三、六九〇				三、六九〇	二、九〇三
質	收	三、六九〇				三、六九〇	二、九〇三
綠	越	一、五〇〇				一、五〇〇	二、四九三
總計							

科目	目	臨時部		追加減正額		計	決算額
		増	減	増	減		
補助	金	三八、五二六				三八、五二六	三三、三三四
國庫	補助金	一五〇				一五〇	一九二
廳地方	費補助金	三八、三七六				三八、三七六	三三、〇〇〇
寄附	金	三六〇				三六〇	三六〇
寄附	金	三六〇				三六〇	三六〇
災害復舊	住宅建築資金受入	四、三六三				四、三六三	四、三六三
災害復舊	住宅建築資金受入	四、三六三				四、三六三	四、三六三
街債	債	四、三六三				四、三六三	四、三六三
街債	債	四、三六三				四、三六三	四、三六三
歲入	臨時部計	四三、二四九				四三、二四九	三三、〇一〇
歲入	臨時部計	四三、二四九				四三、二四九	三三、〇一〇
歲入	臨時部計	九一、八三三				九一、八三三	六九、五八〇
總計							

經常部

科目	當初豫算額	追加減正		計	決算額
		增額	減額		
役場	一三、九七三			一三、九七三	一三、二五四・六一
給料及手當費	六、六二二			六、六二二	五、四九三・五八
雜用給	五、三七一			五、三七一	五、七九五・一七
需用繕	一、四四〇			一、四四〇	一、五〇八・二二
修繕	二〇〇			二〇〇	一〇七・九四
公路	三五〇			三五〇	三四九・八〇
土木	一、三三九			一、三三九	一、三三六・九〇
道路橋梁	一、三三九			一、三三九	一、三三六・九〇
教育	二、四〇〇			二、一六九	一、三八九・六二
臺東小學校	三、七二〇			三、七二九	三、六八〇・一六
臺東小學校	三、〇三三			三、〇四三	二、五六六・五五
馬蘭公學校	一、三九四			一、三九四	一、三七一・八一
加路蘭公學校	八九一			八九一	八九〇・七〇
旭小學校	六五六			六五六	五五二・五三
第一幼稚園	四八四			四八四	三八〇・八六
第二幼稚園	四〇三			四〇三	三九〇・七五

科目	當初豫算額	追加減正		計	決算額
		增額	減額		
修繕	一、五六九			一、五六九	一、五五六・二六
衛生	五、二八一			五、二八一	三、四四二・二六
傳染病豫防	三、一六〇			三、一六〇	一、六六五・五二
衛生諸	二、二二一			二、二二一	一、七七六・七四
汚物掃除	四、八四五			四、八四五	四、八四一・四二
汚物掃除	四、八四五			四、八四五	四、八四二・四二
勸業	三、二五五			三、二五五	三、三八五・九七
勸業諸	五五〇			五五〇	四四六・七〇
市場	二、六七五			二、六七五	二、九三九・二七
堆肥舍	三〇			三〇	一
社會事業	三、九八八			三、七六〇	三、七五三・〇八
地方改良	七五〇	二二		九六二	九八六・六一
公設質舖	二、一九七			一、八七二	一、八六九・一〇
救助	五〇			五〇	六五・四〇
公會堂	八〇八			六九三	六五〇・七七
午報	一八三			一八三	一八一・〇〇
協議會	一九五			一九五	一四八・八二
費用辨	八〇			八〇	三四・〇〇
議場	一一五			一一五	一一四・八二

稅目	稅率	摘要
地租	0.100	總戶數一戶當稅率六圓二九八
所得稅	0.010	
戶稅	6.000	

臺東街稅率

昭和七年度

歲入歲出殘金二千五十七圓七十一錢八厘年度(繰越)

科目	當初豫算額	追加減正		計	決算額
		增額	減額		
營繕土木費	三三、九五〇			一四、一五〇	一四、一三二・六〇
營繕費	二八、九五〇			九、六五〇	九、六三二・二九
借入金償還費	五、〇〇〇			四、五〇〇	四、四九七・三一
借入金償還費	四、九二一	八四三		五、七五四	五、六三八・九九
基本財産造成費	四、九二一	八四三		五、七五四	五、六三八・九九
土地拂下代	一、六〇八			一、六〇八	一、五九五・〇九
歲出臨時部計	四〇、四六九	八四三		二一、五二二	二一、三六六・六八
歲出合計	九一、八三三	一、〇六四		七二、九九四	六七、五三三・一六

臨時部

科目	當初豫算額	追加減正		計	決算額
		增額	減額		
警備費	二、三三二			二、三三二	二、四三九・八〇
消防費	二、一三二			二、一三二	二、三九八・八〇
壯丁團交付金	二〇〇			二〇〇	二〇〇・〇〇
街稅取扱費	六五〇			六五〇	六四九・四九
需用費	二一〇			二一〇	二〇九・六九
雜費	四四〇			四四〇	四三九・八〇
財產費	三五〇			三五〇	三四七・〇三
管理費	三五〇			三五〇	三四七・〇三
諸稅及負擔費	一、二七六			一、〇九一	一、〇八六・四八
諸稅	一、二七六			一、〇九一	一、〇八六・四八
雜支	三四五			三四五	一〇〇・〇〇
雜替	三四五			三四五	一〇〇・〇〇
綠替	三〇〇			三〇〇	五七・四五
雜備	四五			四五	四二・五五
豫備費	一、一三五			九一七	
豫備費	一、一三五			九一七	
歲出經常部計	五二、三六四	二二二		五〇、四八二	四六、一五六・四八

稅目	稅率	摘要
營業稅割	0、三五〇	
營業稅割	0、三〇〇	
雜種稅割		

稅率ハ本稅一圓當トス

臺東街戶稅割負擔額

昭和七年度

總額	擔稅戶數	最	高	最	低	平均
二、五五三	二、〇〇〇		一七四、九六〇		〇、八六〇	六、二一〇

臺東街稅滯納處分

昭和七年度

賦課人員	課稅人員	促進狀發行人員	財產差押人員	處分決行徵收人員	缺損人員	損額人員	翌年度繰越人員
一三、八六〇 二六、六七一 四四、五六二 △一、〇六一、六四	一、二六三	二、二五五、〇七	二四	二四五、〇六 △三三、四〇	四	一〇、四八 △五、六八	二七、六二 四六八
納期限年度內稅額	納稅人員	納稅人員	納稅人員	納稅人員	納稅人員	納稅人員	納稅人員
二、三六五、三〇	二、三六五	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇

備考 △印ヲ附セル分ハ前年度繰越ニ係ル分ヲ再掲ス

臺東街納稅成績

昭和七年度

種別	調定	納期限年度內	缺損	翌年度繰越	前年度繰越以前ノ調定ニシテ繰越ニ係ルモノ	損中	翌年度繰越	納稅期限內ル年度內納稅歩合	納稅期限外ル年度內納稅歩合
地租割	二、七〇〇 二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	三、六〇七	三、三〇三	三、三〇三	三、三〇三	九九七	九九八
所得稅割	二、七〇〇 二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	二、三六五、三〇	三、六〇七	三、三〇三	三、三〇三	三、三〇三	九九七	九九八
戶稅割	三、六九五 三、三九五、二七	三、三九五、二七	三、三九五、二七	八七	三、三〇三	三、三〇三	三、三〇三	九九九	九九九
營業稅割	一、四二〇 五、〇四八、六六	一、一三八	一、一三八	二五、八七	八二	八二	八二	七六四	九六〇
雜種稅割	五、三三三 四、一〇〇、七四	四、八二三	四、八二三	二二	六四	六四	六四	八五〇	九七七
計	一三、三三八 二五、〇六九、八〇	一三、〇五五	一三、〇五五	二六六	二〇三	二〇三	二〇三	九〇五	九七三

臺東街借入金

昭和八年三月三十一日現在

借入ノ目的	借入先	借入利率	借入年月日	償還期間	借入金額	償還		未済	
						償還元金	償還利子	未済元金	未済利子
災害復舊住宅建築資金	日勤業銀行	五分四厘	昭和三十二年六月二十九日	拾ケ年	三〇,〇〇〇	二,一五三,四〇〇	七三,八〇,〇〇〇	一八,七三,五〇〇	一八,六六六,六〇〇
公設質鋪	簡易保険局	四分八厘	昭和三十二年五月三日	拾ケ年	九,〇〇〇	—	九五四,一九〇	九五四,一九〇	二,四三七,六五〇
同	勸業銀行	七分六厘	昭和三十二年四月十八日	拾ケ年	五,〇〇〇	三四九,三六〇	三四九,〇〇〇	六九八,三七〇	一,八五四,九二〇
同	簡易保険局	四分八厘	昭和三十二年六月廿日	拾ケ年	一,〇〇〇	八〇,〇〇〇	三九,一八〇	一一九,二二〇	三三,〇三〇
同	勸業銀行	七分四厘	昭和三十二年三月三十日	拾ケ年	五,〇〇〇	—	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,一六四,〇〇〇
計					五〇,〇〇〇	二,一八三,七九〇	八七四,四五〇	二〇,五四七,二九〇	三八,二七七,三三〇
修小學校									
計									

(二) 區行政

區ノ制度ハ獨リ東部臺灣二廳ノミニ存スルモノニシテ、廳ニ於テハ街庄制度施行ノ階梯トシテ、之カ指導ニ就キ充分ノ注意ヲ拂ヒ、特ニ區長及書記ノ選任ニ就テハ深甚ノ注意ヲ加ヘ、適材ヲ配置シ且其ノ活動ヲ促シ克ク民衆ヲ指導發啓セシムルヲ期シ、廳行政ノ徹底ヲ圖リツツアリ。

區ノ面積、戶口、現在吏員及囑託員ヲ示セハ左ノ如シ

區ノ面積、戶口

昭和七年十二月末現在 × 印朝鮮人

區名	面積	戶口				總計
		内地人	本島人	蕃人	支那人	
卑南區	七,三九三	一一六	三三六	八九二	一,三六二	
火燒島區	一,〇七九	—	二五二	—	二五二	
里壠區	六,五〇七	—	三四二	—	三四二	
新開園區	五,三〇八	—	二九四	—	二九四	
鹿野區	四,五七六	—	一〇二	—	一〇二	
新港區	九,三三〇	—	二九	—	二九	
都巒區	一三,九九〇	—	一六二	—	一六二	
加走灣區	九,二六八	—	二六七	—	二六七	
太麻里區	五,〇〇〇	—	三三二	—	三三二	
大武區	四,二〇〇	—	四九八	—	四九八	
計	六六,六〇五	—	二,一三六	—	二,一三六	

昭七年末現在區吏員左ノ如シ

職名	定員	内地人			本島人			蕃人			支那人		
		現	計	未	現	計	未	現	計	未	現	計	未
區長	一〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
書記	三〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	四〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

職名	定員	内地人		本島人		蕃人	計員
		現	計	現	計		
區囑託員	計	五	八	二	一	三	計
		三	四	二	七	三	六
							七

區ノ經濟

昭和七年度ニ於ケル區ノ豫算ハ二萬二千二百九十三圓ニシテ前年度ニ比シ九百九十五圓ノ減額ヲ示セリ、右ハ成廣澳區ノ廢止ニ伴フ事務費、人件費ノ減額ナリ。
 豫算ノ經理ニ就テハ充分周到ナル計畫ヲ立テ實行ニ努力セルモ、何分右豫算内ニテハ充分ナル活動ハ期シ難キヲ以テ毎年之カ充實ニ關シ、豫算要求中ナルモ實現ヲ見サルハ遺憾トスル所ナリ。

(三) 水難救護及漂流物

昭和七年中ニ於ケル水難救護法ニ依ル漂流物及沈没品取扱件數ハ五件、價格百四十三圓ニシテ引渡數一件價格百十圓ナリ

(四) 紳章

紳章佩有者現在十四名ニシテ本年中異動ナシ。

(五) 寄附受納

昭和七年中ニ於ケル寄附受納ハ二件ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

年受	月	日	領	區	別	名	稱	數	量	價	格	寄附者	摘	要
昭和七年	六月	二十八日	同	應	地方費	矢野	ラント	一	張	三三	四	新港尋常小學校父兄代表	同	新港小學校用
同			同	教	壇			二	ヶ	一四		嶋田善吉	同	

(六) 國庫及廳地方費財產管理處分

昭和七年中土地貸下及使用ヲ許可シタルモノノ左ノ如シ

種別	件數	甲	數	貸付額	摘	要	國庫		廳地方費		合計
							貸付	使用	貸付	使用	
國庫	三		一、〇七四	一六三、七三					三	一〇七四	一六三、七三
廳地方費	三		七、一八九	一、八七九、四					三	七、一八九	一、八七九、四
合計	六		八、二六三	二、〇四三、一七					六	八、二六三	二、〇四三、一七

(七) 昭和七年中ニ於ケル官有林野取扱件數

出願種別	區分	本年受理中	前年繰越	計	進達			計	未済
					許可	不許可	却下其ノ他		
豫約賣渡願	委任権限ノ分	七六二	三、四五五	四、二一七	五	一	二	一八五	四、〇三二
貨渡願	同	二	一〇	一二	一	一	一	一	一
豫約成功賣渡願	同	二六九	一	二七〇	四	一	一	二八九	二
返地願其ノ他	同	四	一	五	一	一	一	四	一
計		一、〇七六	三、四六五	四、五四一	三、四四〇	九	二	四七八	四、〇六三
豫約賣渡願	其ノ他	六	三	九	一	一	一	一	八
貨渡願	同	一	二	三	一	一	一	一	一
豫約成功賣渡願	同	二	一	三	一	一	一	一	二
豫定存置願	同	二	一	三	一	一	一	一	三
返地願其ノ他	同	二	一	三	一	一	一	一	二
計		一、〇八九	三、四七一	四、五六〇	三、四四〇	九	二	四七九	四、〇八一
合計		二、一六五	六、八八二	八、六一一	六、八八〇	一八	四	八、六一〇	八、〇七三

(八) 兵 事 事 務

昭和七年中ニ於ケル兵事事務概要左ノ如シ

(一) 動員ニ關スル計畫其ノ他ノ事項

(二) 徵發事務ニ關スル事項

(三) 戰時召集猶豫者ノ採用並異動

以上三項内容省略

(四) 勤務演習召集及簡閱點呼免除者ノ現在員及異動

現在員三名 異動五名

(五) 徵兵検査人員並成績

昭和七年度徵兵身體検査ハ五月二日花蓮港分屯大隊兵營ニ於テ執行セラル、受檢人員三十九名ニシテ其ノ成績左ノ如シ。

甲種十七名、第一乙種六名、第二乙種一〇名、丙種六名、丁種一名

(六) 徵兵旅費(檢丁、入營)ノ請求其ノ他

毎年應兵事主任ヲ検査ニ立會セシメ受檢者ノ住所氏名、検査成績、其ノ後ノ異動並入營等ニ付指示注意ヲ爲シ旅費ノ精算及請求資料ヲ完全ナラシメタル結果良好ノ成績ヲ得タリ。

(七) 短期現役兵、一年現役兵ノ現在員並異動

(イ) 短期現役兵 轉入九名、異動ナシ、現在員二一名、

(ロ) 一年現役兵 轉入ナシ、異動二件、現在員七名、

(ハ) 其ノ他短期現役兵ノ昭和七年度徵兵検査受檢者八名ニシテ七名合格一名不合格ナリ。

(八) 勤務演習、簡閱點呼

(イ) 本年度勤務演習令達者八名ニシテ花蓮港分屯大隊ニ召集セラレタルモノ兵八名、臺南步兵第二聯隊ニ召集セラレタルモノ將校一名、臺灣山砲隊ニ召集セラレタルモノ下士官一名ニシテ其ノ成績良好ニシテ下士官適任證書ヲ附與セラレタルモノ一名ナリ。

(ロ) 本年度簡閱點呼令達者ハ二十七名ニシテ臺東分屯中隊ニ於テ花蓮港分屯大隊長執行官トナリ九月十七日執行セラレ成績良好ナリ。

二 教育係

(一) 社寺宗教事務

神社

總代奉務 神社總代ハ常ニ諸般ノ事務ニ參與シ豫算ヲ討議シ祭典及重要事項ニ關シテハ神職ト協力之ヲ執行シ意ヲ社運ノ隆昌發展ニ注キツツアリ。

豫算 昭和七年度收支豫算ハ四千八百圓

社

臺東支應八、里壠支應六、新港支應九、大武支應二、計二十五社ナリ。

宗教事務

特筆スヘキ事項ナシ。

(二) 中等學校、小公學校及各種學校事務並教化改善事項

中等學校

ナシ

農業補習學校

昭和三年四月一日附臺東農業補習學校設置シタルモノニシテ現在二學級生徒數四十人ナリ。

小公學校

里壠尋常高等小學校高等科併置ト共ニ一學級增加及臺東公學校一學級增加臺東尋常高等小學校、都巒公學校、新開園公學校、鹿野公學校各一學級宛減トナル

幼稚園

昭和二年九月一日臺東街立幼稚園ヲ新設シ現在園兒三十六人ヲ收容ス尙別ニ本島人ノ幼兒ノ爲ニ街立幼稚園一、昭和六年四月開設サレ現在園兒三十五人保姆心得一人ナリ。

教育研究會 教育ノ向上進展ヲ圖ル爲、廳下ヲ四部(各支應別)ニ分チ各部會一學期一回宛開催シ研究ニ努ム。

學事講習會 七月二十一日ヨリ三十日ニ至ル十日間臺東農業補習學校ニ於テ學事講習會ヲ開催セリ參加者

ハ小公學校教員三十一名ニシテ農業教育ノ振興ヲ計ルヲ目的トシ農民道、農政普通作物、園藝病蟲害、肥料、畜産ノ各科目ニ付學科實習ノ兩方面ヨリ體得セシメタリ。

建國祭實施狀況 各學校各官衙ニ於テハ勅語奉讀訓話ヲ行ヒ、我建國ノ至尊至大ト國民ノ覺醒ヲ高調セリ。

時ノ記念日實施狀況 六月十日時ノ記念日ニ際シ時ニ關スル觀念ト時間尊重ノ精神養成ノ爲講演會ヲ開キ宣傳「ピラ」ノ配付ヲ爲セリ。

教育デー 十月三十日教育デーニ際シ各官衙學校團體ニテハ勅語奉讀式ヲ舉行シ運動會、遠足會、講演會、學藝會ヲ開催セリ。

體育デー 十一月三日體育デーニ際シ講演會、運動會、角力、遠足會、野球會等ヲ開催シ體育ノ普及發達ヲ圖レリ。

國語演習會 各國語普及會ニ於テ豫選會ヲ開キ十一月十日臺東小學校講堂ニ於テ演習會ヲ開催シ各普及會選出ノ三十三名ノ出演アリ成績ノ見ルヘキモノアリ、審査ノ結果臺東國語講習所ニ優勝旗ヲ授與セリ。

子供ノ日 五月五日「幼兒ハ健全ニ島ハ明ルク」ヲ標語トシテ乳幼兒愛護運動ノ宣傳ヲナシ各地ニ講演會幼兒ノ表彰等ヲ行ヒタリ。

修養團臺東支部 昭和三年三月十一日ノ設立ニシテ廳下ヲ九分團ニ分チ流汗鍛練、同胞相愛、献身報國ノ主義ヲ奉シ總親和總努力ノ善風作興ニ努ム

興國同志臺東支部 昭和六年十二月設立シ興國精神ノ普及徹底ニ努ム精神作興早天修養會ノ開催ヲ獎勵シ會員ノ結束ニ依リ尊皇興國ノ實ヲ舉クルコトヲ目的トス。

(三) 其ノ他ノ事務

試驗及生徒募集狀況

昭和七年度

學校名	受験者	入學者	學校名	受験者	入學者
臺北第一師範學校	三	一	臺北第三高等女學校	二	一
臺北第二師範學校	三	三	花蓮港高等女學校	八	五
臺中師範學校	五	二	臺南第一高等女學校	一	一
臺南師範學校	三	一	臺北女子職業學校	二	二
臺北第一中學校	一	一	臺灣商工學校	三	三
臺北第二中學校	二	一	臺中商業學校	一	一
基隆中學校	三	二	臺南第二中學校	一	一
高雄中學校	三	一	臺南長老教中學校	四	三
臺南第一中學校	四	三	新竹中學校	一	一
臺北商業學校	三	三	臺北靜修女學校	一	一
臺北第一高等女學校	一	一	嘉義農林學校	一	一
淡水女學院	一	一	福岡縣朝倉中學校	一	一
東港水產補習學校	一	一	鹿兒島縣大島中學校	一	一
佐賀縣佐賀精華高等女學校	一	一	熊本縣宇土中學校	一	一
大分縣佐伯中學校	一	一	熊本縣私立鎮西中學校	一	一
東京勤勞中學校	一	一	計	七四	四九

水勸業係

(一) 農業事務

農業基本調査 總督府ノ指示ニ基キ本年度農業基本調査トシテ實施セルハ耕地ノ分配並經營、調査及金融調査ニシテ耕地ノ所有狀況並經營狀況及農業ノ資金需要狀況並其ノ資金調達方法等ニツキ夫々調査セリ。

米種改良 米ハ廳下農產物ノ大宗ニシテ從來其ノ生産者ノ大部分ヲ占ムル蕃人ハ品質ノ向上收量ノ增收ヲ圖ルノ意ナキニヨリ之カ品種ノ統一ヲ爲シ赤米其ノ他異品種ノ除去並耕種法ノ改善ヲ圖ランカ爲大正十五年度ヨリ第一次米種改良事業ニ著手シ昭和四年度ヲ以テ完了セリ、此ノ結果品質ノ向上收量ノ増進等豫期以上ノ成績ヲ舉ケシモ尙改良ノ實ヲ持續シ且増產ヲ圖ランカ爲更ニ昭和五年度ヨリ第二次米種改良事業ニ著手シ本年度ハ事業第三年目ニシテ第二回繁殖ヲ左記ノ通實施セリ。

(イ) 種作田ノ設置

前年第一回繁殖田ヨリ採取シタル精撰種子ノ第二回繁殖ヲ行ハンカ爲各區域毎ニ品種別ニ所要種子量ニ對スル面積ヲ定メ地味中等ニシテ肥培管理ニ便ナル箇所ヲ選定シ第一期作二百八十四箇所面積百八十七甲七分三厘、第二期作二百八十一箇所面積二百十四甲七分二厘ノ繁殖田ヲ設置シ之カ管理人ハ一般農事ニ精通シ農民ノ信賴厚キ青年會員、保甲役員、頭目等ノ職ニアル者ノ内ヨリ二百八十四名ヲ選定シ管理セシメタリ。

(ロ) 繁殖方法

苗代ノ採種ハ一般苗代ト嚴重ナル區劃ヲナシ短冊形ノ床ニ坪當五、六合蒔トシ普通苗代ト明瞭ナル境界ヲ作り本田ニ於ケル插秧時ニハ特ニ種類ノ混淆セサル様注意シ收穫ニ際シテハ技術員立會ノ下ニ異品種ノ除去ヲ行ハシメ更ニ收穫ノ上種子ヲ嚴撰シ適當ニ乾燥セシメ所要量ノ五割増ヲ以テ採種シ夫々時價ノ二割増ニテ買收セリ左ニ採種量ヲ示サン

第一期作

支應別	區分		品種名	原種田面積	設置數	管理人數	採種量	精撰種子量
	粳	秈						
臺東支應	計	烏殼清油粒	二六、九八〇 ^甲	三九	三九	七二八、四六〇 ^乙	五九、五六〇 ^乙	
		烏殼清油	八、五〇〇	二三	二三	三七八、二四〇	三三、二〇〇	
		長糯	七、六三〇	二〇	二〇	二五九、三三〇	二二、八〇〇	
里壠支應	計	烏殼清油	四、一三〇	八二	八二	一、三六、〇三〇	一、三八、五六〇	
		烏殼軟枝粒	三七、六〇〇	五四	五四	九〇一、一〇〇	八三、六〇〇	
		白殼清油	一、五〇〇	二	二	三六、二〇〇	三三、九〇〇	
里壠支應	計	白殼九糯	〇、七〇〇	五	五	一九、〇〇〇	一五、九〇〇	
		白殼長糯	二、一八〇〇	三	三	五八、一〇〇	五一、二〇〇	
		白殼清油	一、四八〇〇	四	四	三三、六〇〇	三一、〇〇〇	

支應別	區分	品種名	原種田面積	設置數	管理人數	採種量	精撰種子量	新港支應		大武支應			
								糯	粳	糯	粳		
里壠支應	計	赤殼長糯	二,〇八〇〇	一四	一四	五,一八〇〇	四,五〇〇	計	芒花	一三,一〇〇	計		
		赤殼丸糯	〇,二六〇〇	一	一	九,四〇〇	八,二〇〇		烏殼清油	五,七〇〇		烏殼清油	一,三〇〇〇
		大求	〇,三五〇〇	一	一	九,〇〇〇	八,一〇〇		鷺卵	四,六七〇〇		長糯	〇,六〇〇〇
新港支應	計	烏殼清油	三,四六〇〇	二九	二九	七,五五,五〇〇	六〇四,四一〇	計	鷺卵	一三,一〇〇	計		
		白殼清油	三三,五三〇〇	三七	三七	八〇四,七二〇	六四三,七七〇		芒花	四,六七〇〇		烏殼清油	五,七〇〇
		柳州	五,九八〇〇	四	四	一四三,五二〇	一一四,八一〇		烏殼清油	一,三〇〇〇		長糯	〇,六〇〇〇
大武支應	計	烏殼清油	一,〇二七,三〇〇	九三	九三	一,一〇,二〇〇	一,〇二七,三〇〇	計	鷺卵	八八,七八〇〇	計		
		芒花	二,〇七七,九六〇	九六	九六	二,〇七七,九六〇	一,六六二,三五〇		烏殼清油	五,七〇〇		烏殼清油	一,三〇〇〇
		長糯	七,六二〇〇	一四	一四	一五二,〇〇〇	一一二,二〇〇		烏殼清油	一,三〇〇〇		長糯	〇,六〇〇〇
合計			一八七,七三〇〇	二八四	二八四	四,七〇四,一九〇	三,九四〇,四一〇						

第二期作

支應別	區分	品種名	種作田面積	設置數	管理人數	採種量	精撰種子量	臺東支應		里壠支應		新港支應	
								糯	粳	糯	粳	糯	粳
臺東支應	計	水柳	一九,五四〇〇	一八	一八	二九〇,〇〇〇	二七九,九九〇	計	烏殼	一四,七三〇〇	計		
		白殼	九,五五〇〇	一〇	一〇	一四一,七〇〇	一三七,三〇〇		烏殼	五,六九〇〇		烏殼	三〇,七〇〇〇
		水柳	一四,七三〇〇	一三	一三	二二三,七〇〇	二〇六,一〇〇		丸糯	四九,五一〇〇		水柳	六九,五七〇〇
里壠支應	計	早種	八,六二〇〇	二四	二四	一二五,四〇〇	一一六,七〇〇	計	高格	一四,八六〇〇	計		
		水柳	一四,八六〇〇	二〇	二〇	二〇九,五〇〇	一九一,四〇〇		鷺卵	七,一三〇〇		高格	一八,七〇〇〇
		高格	一八,七〇〇〇	三三	三三	二六五,五〇〇	二四五,一〇〇		鷺卵	四九,三二〇〇		鷺卵	七,一三〇〇
新港支應	計	水柳	二九〇,〇〇〇	一八	一八	二九〇,〇〇〇	二七九,九九〇	計	鷺卵	七,一三〇〇	計		
		水柳	一四,八六〇〇	二〇	二〇	二〇九,五〇〇	一九一,四〇〇		鷺卵	四九,三二〇〇		鷺卵	七,一三〇〇
		高格	一八,七〇〇〇	三三	三三	二六五,五〇〇	二四五,一〇〇		鷺卵	七,一三〇〇		鷺卵	七,一三〇〇
合計			一八七,七三〇〇	二八四	二八四	四,七〇四,一九〇	三,九四〇,四一〇						

支應別	區分	品種名	種作田面積	設置數	管理人數	採種量	精撰種子量
新港支應	計	烏殼	三、四〇〇	一五	一、三三、六〇〇	四〇、八〇〇	三、一、八〇〇
		白殼晚種	〇、七〇〇	一	一	八、四〇〇	六、〇〇〇
		三杯	〇、六〇〇	一	一	七、二〇〇	六、〇〇〇
大武支應	計	糯丸	〇、一五〇〇	一	一、八〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
		糯丸	四、八五〇〇	八	八	五八、二〇〇	四五、〇〇〇
		計	二四、七〇〇	二八	二八	二、八四、〇〇〇	二、三、八、五九〇
合計			四〇、一、四九〇	五六五	五六五	七、五八、一九〇	六、二六九、〇〇〇

糖業 甘蔗ハ近時早植ノ獎勵ト前作綠肥ノ普及竝蔗苗ノ更新トニ依リ改良増産セラレツツアリ、本期ハ暴風ノ被害ナク且肥培管理向上セシ爲原料蔗園ノ收量著シク增收ヲ示セリ而シテ本期原料收穫面積九百十五甲九分二厘ニ對シ製糖原料九千九百三十八萬五千八百十斤ヲ得タリ、尙本期植付蔗園一千八百八十八甲六分八厘ニシテ内原料蔗園八百五十五甲八分三厘二毛採苗園百五十七甲七分七厘八毛アリ、生育期間中ハ暴風ノ被害ナ

ク天候順調ナリシ爲原料蔗園ハ著シク增收ノ見込ナリ、應下ノ製糖工場トシテハ臺東街ニ臺東製糖株式會社ノ新式工場一箇所アルノ外地方ニ舊式糖廠一箇所アリ蔗苗更新ノ基礎タル甘蔗中間苗圃ハ臺東製糖株式會社ヲシテ之ヲ經營セシノ昭和七年中ニ於ケル面積十甲餘ニシテ累年蔗苗更新ノ實ヲ學ケツツアリ。

綠肥獎勵 綠肥作物トシテ水田ニハ主トシテ第一期作ノ前作ニ烏豆ヲ多ク栽培シ一部分ハ烏豆ト大菜トノ混播アリ而シテ大正九年以來總督府ヨリ綠肥獎勵豫算ノ配付ヲ受ケ、臺東、里壠兩支應下ニ水田綠肥ヲ獎勵シタル結果既ニ普及シタルヲ以テ更ニ畑地綠肥トシテ(陸稻前作綠肥)烏豆ヲ獎勵シツツアリ、新港支應管内ハ從來應下ノ主ナル米產地ナルニ拘ラス綠肥作物ヲ栽培スルモノ極メテ尠ナキ爲現在之カ獎勵ニ主力ヲ注キ各所ニ獎勵田ヲ設ケ綠肥種子ノ無償配付ヲ行ヒ又ハ農會ヲシテ之ニ要スル綠肥採種園ヲ設置セシメ極力獎勵シツツアル結果漸次綠肥ノ普及ヲ見ルニ至レリ最近三箇年ノ趨勢左ノ如シ。

年別	田	畑	計	摘	要
昭和七年	二、一七八、八九〇 ^甲	四六七、七四〇 ^甲	二、六四六、六四〇 ^甲		
昭和六年	二、二三三、二〇〇	二九六、四〇〇	二、五二九、六〇〇		
昭和五年	二、〇二八、五〇〇	二九〇、三〇〇	二、三一九、八〇〇		

耕地面積及農業ノ狀態

(イ) 耕地面積 管内ニ於ケル耕地ノ大部分ハ平地蕃人所有ニ係リ耕種方法極メテ幼稚ニシテ農業ノ發達遅々タルモ應及農會ノ指導獎勵ニヨリ漸次集約的農法ニ進ミツツアリ、應下ニハ尙未開墾原野一萬八千餘甲アルモ勞力ノ不足水利及交通ノ不備等ニ因リ之カ開拓ニハ今後幾多ノ施設ヲ爲スヲ要ス今昭和七年末ニ於ケル農業者一人當耕地面積ハ田一分五厘三毛八絲、畑二分三厘八毛九絲ナリ、最近三箇年ノ耕地面積ヲ示セハ左ノ如シ。

年 別	田	畑	計	摘 要
昭和七年	五、八四九、六四〇 ^甲	九、〇七〇、七二〇	一四、九二〇、三六〇	
昭和六年	五、七七一、八〇〇	八、七三七、二四〇	一四、四四九、〇四〇	
昭和五年	五、五八一、七〇〇	八、九〇二、三〇〇	一四、四八三、四〇〇	

(ロ) 農業者 農業者ノ大部分ハ平地蕃人ニシテ一部本島人及内地人移民ナリ、農業戸數五千三百五戸、人口三萬八千三十一人ニシテ應管内總人口(蕃地蕃人ヲ除ク)四萬九千九百五十四人ニ對シ約七割六分ヲ占メ又農業者中自作者六割一分自作兼小作二割五分八厘、小作一割三分二厘ニ相當ス最近三箇年ノ農業者自小作別ヲ示セハ左ノ如シ。

年 別	自 作	自作兼小作	小 作	計
昭和七年	二、三、一七六	九、八八七	五、〇三八	三八、〇三二
昭和六年	二、二七九	九、九三三	五、八六二	三七、五九三
昭和五年	二、一八七	一〇、二六八	四、四八〇	三六、六三七

主要農産物ノ作況

(イ) 稻 作 昭和七年ノ稻作付總面積八千五百五十甲二分一厘總收穫高玄米七萬二千九百九十六石(一甲當平均收量八石九斗五升六合)ニシテ生産價格八十七萬九千四百二十九圓ナリ、本期作水稻ニ在リテハ生育期間中三月及四月曇天連日ニ亘リ日照時尠ク氣温高低常ナラサリシ爲草丈分蘖共ニ前年ニ劣リ生育一般ニ遲延セルモ其ノ後天候順調ニシテ作柄良好ナリキ。

第二期作水稻ハ季節風及豪雨ノ被害ヲ蒙リ作柄不良、陸稻ハ第一期作ハ天候順調ニシテ作柄良好、第二期作ハ二期水稻同様ノ被害ヲ受ケ作柄不良ナリキ、而シテ本年ノ實收最近三箇年間ノ實績左ノ如シ。

昭和七年生産狀況

稻 別	作 付 面 積		計	收 穫 量		計	一 甲 當 平 均 收 量		
	第一期作	第二期作		第一期作	第二期作		第一期作	第二期作	
水 稻	兩期作	三、一七三、一〇〇	二、七五、五三	三七、三九〇	一四、〇八六	五二、四七六	一一、七六七	五、二一〇	八、六八三
	單期作	一、五九、九四	一六〇、九〇	一七、七三四	一、〇〇六	一八、七四〇	一一、四四二	六、二五二	一〇、九五三

年 別	水		陸		計	
	作付面積	收 量	作付面積	收 量	作付面積	收 量
昭和七年	四、七三、〇四	五五、一三四	三、四三、三五	一、一七、四〇	八、一六、四四	六六、三一四
昭和六年	二、九一、七四	一五、〇九二	二、五八、八二	七、〇五二	五、五七、〇四	二一、六六四
昭和五年	二、二五、〇二	一七、九六二	一、七四、〇〇	七、九七一	三、九九、〇二	二五、九三三
計	九、九一、八〇	八二、一八八	六、七六、〇〇	二五、一四九	一六、七二、八〇	一一三、〇七九

年 別	水		陸		計	
	作付面積	收 量	作付面積	收 量	作付面積	收 量
昭和七年	四、七三、〇四	五五、一三四	三、四三、三五	一、一七、四〇	八、一六、四四	六六、三一四
昭和六年	二、九一、七四	一五、〇九二	二、五八、八二	七、〇五二	五、五七、〇四	二一、六六四
昭和五年	二、二五、〇二	一七、九六二	一、七四、〇〇	七、九七一	三、九九、〇二	二五、九三三
計	九、九一、八〇	八二、一八八	六、七六、〇〇	二五、一四九	一六、七二、八〇	一一三、〇七九

(口) 甘蔗 甘蔗ハ近時早植ノ獎勵ト前作綠肥並大莖種ノ普及トニ依リ改良増産セラレツツアリ、本期ハ前期ニ比シ肥培管理向上セシト暴風ノ被害ナカリシ爲著シク增收ヲ示セリ、最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年 期	原 料		採 苗		蔗 園		甲當收量
	面 積	收 量	面 積	收 量	面 積	收 量	
昭和五、六年期	九一五、九一〇	九九、三八五、八一〇	一八三、一七八	一三、〇〇七、一六〇	二、〇九九、一〇〇	一一三、三九二、九七〇	一〇一、二五〇
昭和四、五年期	八六一、三三〇	七六、五二〇、六九〇	一六四、四五〇	一二、七三九、二〇〇	一、〇二五、七八〇	八九、二五九、九一〇	八七、〇一六
昭和三、四年期	八四一、九七〇	五三、七三三、九二二	一六一、三〇〇	一六、三七一、六五九	一、〇〇四、二九〇	七〇、一〇五、五七一	六九、八〇六

(ハ) 甘蔗 甘蔗ハ食糧及家畜ノ飼料トシテ重要ナル作物ニシテ本年ハ早魃ノ被害ヲ受ケ生育良好ナラス甲當收量ニ於テハ僅ニ減少ヲ示セリ最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ

年 別	作付面積		收 量		甲當收量	價 格
	面 積	收 量	面 積	收 量		
昭和七年	一、九八〇、四〇	一七、五三〇、六四〇	一、九八〇、四〇	一七、五三〇、六四〇	八、八五二	一三五、九五九
昭和六年	一、九九一、七〇	一八、二八八、〇二七	一、九九一、七〇	一八、二八八、〇二七	九、一八二	一一九、四七一
昭和五年	一、七四四、〇〇	一六、三三八、六九六	一、七四四、〇〇	一六、三三八、六九六	九、二五三	一四〇、六五一

(ニ) 粟 粟ハ從來善人ノ重要ナル食糧ナリシモ近時水稻及蔗作面積ノ増加ニ伴ヒ栽培面積漸次減少シツツアリ、而シテ本期作柄ハ普通ニシテ栽培面積及甲當收量ニ於テ多少ノ増加ヲ來セリ、最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年	別	作付面積	收	量	甲當收量	價	格
昭	和			七、九四二 ^石	六、二九七 ^石	四六、五五、〇〇〇	
昭	和			六、九〇三	五、六〇八	三三、四九、〇〇〇	
昭	和			六、八五九	五、四一〇	四四、五〇、〇〇〇	
昭	和			一、二六一 ^甲			
昭	和			一、三〇、九〇			
昭	和			一、二七、一〇			

(ホ) 胡麻 瘠薄ナル土壤ニモ適シ且栽培モ割合ニ容易ニシテ蔗作ノ跡地ニ作ルヲ普通トスレトモ年々減少ノ傾向ヲ有シ本期モ作付面積減少ニ伴ヒ收量モ減少セリ、最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年	別	作付面積	收	量	甲當收量	價	格
昭	和			一、三五一 ^石	三、五七一	一、四七、〇〇〇	
昭	和			一、五四	三、六六七	一、七六、〇〇〇	
昭	和			二、二五	三、七九四	三、〇一、〇〇〇	
昭	和			三、七、八〇			
昭	和			四、二、〇〇			
昭	和			五、九、三〇			

(ハ) 落花生 落花生ノ生産地ハ火燒島ニシテ近時美和村、鹿野村等ノ移民村ヲ始メ附近蕃人部落ニ於テモ漸次栽培者増加ノ傾向アリ本年ハ作付面積増加ニ伴ヒ增收セシモ天候不順ナリシ爲メ甲當收量ニ於テ幾分減少ヲ示セリ最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年	別	作付面積	收	量	甲當收量	價	格
昭	和			五、七六九 ^石	一五、〇九六	四〇、八七六、〇〇〇	
昭	和			五、一九四	一五、四二	一九、六九四、〇〇〇	
昭	和			五、二二三	一六、九五〇	三二、〇四、〇〇〇	
昭	和			三、八二、一五 ^甲			
昭	和			三、三六、八〇			
昭	和			三、〇二、一〇			

(ト) 豆類 豆類トシテハ烏豆ヲ主ナルモノトシ臺東、里壠支應下ニ産シ其ノ他樹豆、綠豆、虎爪豆、菜豆等アルモ産額少ナク多クハ自家用ニ過キス、本期ハ作柄良好ニシテ增收ヲ示セリ最近三箇年間ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年	別	作付面積	收	量	甲當收量	價	格
昭	和			三、一六八 ^石	三、八二九	三〇、八七一、〇〇〇	
昭	和			二、九八五	三、六九九	一九、七八二、〇〇〇	
昭	和			二、八一九	三、四四三	二四、二一、〇〇〇	
昭	和			八二七、四〇 ^甲			
昭	和			八〇七、九〇			
昭	和			八八、七〇			

(チ) 黄麻及苧麻 黄麻及苧麻ハ主トシテ自家製繩原料トシテ栽培スルニ過キサレモ苧麻ノ如キハ里壠支應下都巒山西部ニ廣大ナル適地アル爲メ東部農産試験場ニ於テハ企業的ニ奨励ノ計畫アリ、將來相當ノ生産ヲ見ルニ至ルヘシ。最近三箇年ノ面積及收量左ノ如シ。

年	別	作付面積	收	量	甲當收量	價	格
昭	和			二、一五八 ^斤	八、七六五、〇〇〇	四七、九五	一、三六九
昭	和			二、一七二	七、一〇七、〇〇〇	四七、九五	一、三六九
昭	和			二、二四五	九、二三五、〇〇〇	四七、〇四二	一、四五六
昭	和			四〇、九五 ^甲			
昭	和			三八、八〇			
昭	和			三〇、九〇			

(リ) 柑 橘 柑橘ノ多クハ斗柚及雪柑等ノ在來種ニシテ極柑及桶柑等ノ如キ優良品種尠キ爲昭和三年度ヨリ
 廳農會ヲシテ總督府ノ補助ヲ仰キ之カ獎勵ニ努メツツアリ、昭和七年度ノ柑橘類栽培樹數ハ六、一二九本、
 收穫高ハ二三六、七七六斤生産價格七、四三〇圓ヲ示シ之ヲ前年ノ實績ニ比スレハ栽培樹數ニ於テ六七本
 收穫高ニ於テ六二、四七三斤ノ増加ヲ示セリ、最近三箇年間ニ於ケル趨勢ヲ示セハ左ノ如シ。

年 別	栽 培 株 數	收 量	價 格
昭 和 七 年	六、一二九 ^株	二三六、七七六 ^斤	七、四三〇 ^圓
昭 和 六 年	六、〇六二	一七四、三〇三	六、六一五
昭 和 五 年	五、三三四	一三五、二五二	七、五六七

(ヌ) 芭 蕉 本期ハ暴風雨ナク作柄良好ニシテ昭和七年末ニ於ケル栽培樹數ハ三萬七百七十六本收穫高八十一
 一萬二千三百五十四斤ニシテ昨年ノ實績ニ比スレハ樹數及收穫高ノ増加ヲ示セリ最近三箇年ニ於ケル成績
 左ノ如シ。

年 別	栽 培 株 數	收 量	價 格
昭 和 七 年	三〇、七六六 ^株	八二、三五四 ^斤	一三、六五八 ^圓
昭 和 六 年	二六、六六五	五二、三三六	一三、二二六
昭 和 五 年	二四、七二〇	四四、九三三	一、七九九

(ル) 鳳梨 鳳梨ハ克ク廳下ノ氣候風土ニ適シ到ル處之カ適地多キ爲東部農産試驗場ニ於テハ昭和四年九月卑
 南區北絲閣及昭和五年十一月新開園ノ二箇所ニ鳳梨苗圃ヲ設置シ將來企業的獎勵計畫ノ下ニ種苗ノ養成ニ
 努メツツアリ、而シテ現在ニ於テハ在來種ヨリモ外國種ノ生産増加ヲ示スニ至リ主ニ生食用ニ過キス、昭
 和七年末ノ樹數在來種四萬二千八百六十本收穫高二萬九千五百五十三箇其生産價格千三十五圓外國種ハ樹數三十
 六萬七千四百四十本收穫高十三萬二千五百五十三箇其生産價格六千七百七十五圓ニシテ之ヲ昨年ノ實績ニ比ス
 レハ樹數ニ於テ二十三萬七千八百八十本收穫高ニ於テ四萬二百十四箇ノ増加ヲ示セリ、最近三箇年ノ栽培本
 數及收量左ノ如シ。

年 別	栽 培 本 數	收 量	價 格
昭 和 七 年	四一〇、〇〇〇 ^本	一六一、六〇三 ^斤	七、二一〇 ^圓
昭 和 六 年	一七一、一九〇	一一一、三八九	五、九二六
昭 和 五 年	六五、三四〇	四二、二二六	三、八四四

(ヲ) マンゴ、龍眼、李、桃、此ノ種ノ果樹類ハ單ニ宅地利用又ハ耕地ノ周圍ニ栽培セララルルニ過キス、最近
 三箇年間ノ栽培本數及收量左ノ如シ。

年	別	栽培本數	收	量	價	格
昭和五年	和	一、〇七三		三、八三〇		一、五二八
昭和六年	和	一、二二四		五七、五七一		二、四〇三
昭和七年	和	一、〇五九 ^本		六三、〇二五		三、〇四〇

龍眼

年	別	栽培本數	收	量	價	格
昭和五年	和	八七九		四九、九九〇		二、三九四
昭和六年	和	九三八		一五、九一九		九一六
昭和七年	和	九二〇 ^本		四八、六三〇 ^斤		二、五七四 ^円

李

年	別	栽培本數	收	量	價	格
昭和五年	和	二、三九五		二七、五三四		八三五
昭和六年	和	二、四八四		二二、〇三二		六六八
昭和七年	和	二、五二三 ^本		二七、六六五 ^斤		八四六 ^円

檳榔

年	別	栽培本數	收	量	價	格
昭和五年	和	一、三九五		一三、〇六九		五〇五
昭和六年	和	一、四七六		一一、三三四		四七三
昭和七年	和	一、五一四 ^本		一四、四二一 ^斤		四二一 ^円

(カ) 蕃木瓜 蕃木瓜ハ生食用又ハ豚ノ飼料トシテ宅地ノ周圍等ニ栽培ス、最近三箇年ノ栽培樹數及收量左ノ如シ。

年	別	栽培樹數	收	量	價	格
昭和五年	和	二二、八五		五三六、七〇八		二二、四六二
昭和六年	和	二七、〇五八		三六九、五九四		二二、八〇六
昭和七年	和	一三三、〇三三 ^本		五九二、四三九 ^斤		二四、九五二 ^円

(ワ) 檳榔 子實ハ蕃人ノ最モ嗜好物ニシテ山脚地帯ニ栽培セラレ樹幹ハ建築用材ニ供用セラル、最近三箇年ノ栽培樹數及收量左ノ如シ。

年	別	栽培樹數	收	量	價	格
昭和五年	和	九、六五五		一九二、九三		三、三九五
昭和六年	和	九、六四八		二二、八六二		三、五六三
昭和七年	和	一〇、六六七 ^本		二五、四七〇 ^斤		四、一三八 ^円

(3) 蔬菜 蔬菜類ハ應下各地ニ栽培スルモ耕種方法幼稚ニシテ優良ナルモノ少ク主トシテ自産自給ニ過キス、最近三箇年ノ作付面積及收量左ノ如シ。

年別	作付面積	收量	價格
昭和七年	九三、三一 ^甲	二、六八、〇四 ^斤	三六八、〇九 ^円
昭和六年	八七、二四	二、〇四六、六八五	二九六、四二六
昭和五年	七七、一三	一、〇四六、六七九	三二一、九二〇

農作物病虫害驅除豫防 病虫害ノ主ナルモノハ水稻ニアリテハ泥負蟲、一點大螟蛾、稻夜盜、コブノ螟蛾、鐵甲龜等ニシテ本年ハ泥負蟲ノ發生被害尠カリシモ一點大螟蛾及稻夜盜、コブノ螟蛾等ノ發生多ク殊ニ臺東支廳管内ノ水稻ニ相當被害アリ、甘蔗ノ病害蟲トシテハ螟蟲、赤腐病等アリ柑橘類ニ於テハ天牛介殼蟲密柑小實蠅等發生シ被害又尠ナカラス、最近三箇年ノ驅除狀況左ノ如シ。

年別	田		畑		面積計
	除	實	地	面	
昭和七年	二二、三〇	一七、一〇	二、四〇	二四〇、五〇	
昭和六年	一六七、一八	二一、六〇	一、六九	一、六九三、七八	
昭和五年	六三、三六	二、八〇	一、八七	一、八七一、一六	

(二) 林業事務

林業 應下ニ於ケル山林原野ノ總面積ハ三十二萬九千二百三十甲ニシテ内國有山林二十四萬二千七百四十二甲、原野八萬四千七百七十四甲、民有山林一千五十二甲、原野六百六十二甲ナリ之ヲ廳全管内ノ面積ニ比スレハ九割ニ達シ國有山林原野大部分ヲ占有ス、廳管内ハ全部熱帶圈内ニ在ルヲ以テ平面的ニハ應下ヲ通シ熱帶林ト稱シ得ヘキモ一萬尺以上ノ高峯六座アリテ熱帶ヨリ寒帶ニ亘ル林木ヲ有スル次第ナリ、之カ樹種ハ梅、松、紅檜、扁柏等ノ針葉樹及樟、楠仔、檜、椎類、茄苳、樟、苦苳、烏心石等ノ闊葉樹等アリ之カ蓄積豫算七千四百萬石アリ、之カ施設經營ノ適否ハ治水並國土保安上及産業上ニ及ホス影響至大ナリ殊ニ應下ノ地勢概ネ急峻ナルカ爲各河川四射シ大河ナク上流中流地方ハ兩岸懸崖峭立シV字形ヲナシ急端ヲナス爲其ノ流域ハ河水氾濫ニ因リ年ト共ニ荒廢原野ヲ増大シツツアリ、故ニ中央山脈ノ河川源頭地方及土砂扞止上樞要地域十一箇所九萬四千甲ヲ保安林編入調査ヲ終了シ高山蕃人ノ亂墾ヲ制限シ林野取締ニ從事スル職員ヲシテ警察官ト協力シ取締ノ徹底ヲ期シツツアリ、不要存置林野ニ付テハ土地ノ貸下ヲ受ケシメ一般民行造林ノ獎勵ヲ圖リ又臺東平野ノ荒蕪地ニハ耕地造成事業ヲ計畫シ或ハ防潮防砂ノ爲海岸林造成計畫ヲナシ以テ森林保護増殖ヲ圖リ居レリ。

(1) 官營苗圃 砂防造林事業費、保安林事業費、海岸林造成費、民行造林費各支辨ノ苗圃ヲ臺東街臺東ニ六

甲アリ、又昭和六年度ニ火燒島ニ約五分ノ民林獎勵苗圃ヲ、海岸林造成事業ノ擴張ニ伴ヒ、新港ニ三甲六分

ヲ孰レモ新設セリ、之等苗圃ハ木麻黄、ダルベルギアシツソ、茄苳、ビルマ、合歡、鐵刀木等ノ種苗百五十九萬本ヲ培養シ該種苗ハ造林地ニ山出シ或ハ無償配付セリ其ノ狀況左ノ如シ。

費目	面積	樹種	養生苗木數	山出及配本數	殘數
砂防造林事業費	1,000 ^甲	木 ビルマネム、木麻黄、ダルベル	104,675 ^本	104,675 ^本	6,800
保安林費	1,000	ギアシツソ、茄苳	139,475	139,475	35,400
民林獎勵監督費	1,783.5	木麻黄、ダルベルギアシツソ	132,423	97,023	
海岸林造成費	6,325.5	鐵刀木	1,182,750	1,182,750	
計	10,100	緬甸、合歡、木麻黄	1,559,333	1,577,133	42,200

(口) 官行造林

1 砂防造林 本年度ニ於テ廳地方費砂防造林事業新植十五甲、補植二十五甲實施セリ、當地ニ於ケル季節風ハ十月中旬ヨリ翌年三月中旬ニ至ル五箇月間ハ北東季節風多ク吹キ風速六米乃至十二米ニ達シ砂塵ハ低流高揚シ臺東街ニ飛砂シ黄塵ノ爲街民ヲ惱マシツツアリ、本事業ハ大正二年以來國費ヲ以テ廳ニ委託セラレ大正十年ニ至ル間百一甲九分七厘ヲ完施セリ、更ニ大正十一年以來廳地方費ヲ以テ經營セル實施面積五十八甲計百五十九甲九分七厘ナリ本年度新植十五甲、補植二十五甲ヲ實施セル其ノ狀況次ノ如シ

造林地	類別	面積	樹種	養生苗木數	山出及配本數	殘數
臺東街臺東	新植	15,000 ^甲	木 ビルマ	139,475	139,475	35,400
同	補植	15,000	木 ビルマ	1,182,750	1,182,750	

2 海岸林造林事業 防風、防潮、衛生風致及産業増進ヲ目的トスル海岸林造成事業ハ全廳下海岸線四十二里ニ亘ル一帶造林施業スルモノニシテ總面積三百三十甲ヲ六箇年計畫造成スルモノナリ。木麻黄ヲ主トシ地味ニ應シ銀合歡、緬甸合歡「ダルベルギアシツソ」ヲ植栽ス、昭和六年度ニ苗木ノ養生ヲナシ本年度ニ於テ面積百十甲ニ達シ木麻黄及緬甸合歡七十一萬六千五百四十五本ヲ植栽セリ其ノ狀況左ノ如シ。

街區名	字名	面積	樹種	植栽本數	摘	要
臺東街	加路蘭	9,572 ^甲	木麻黄、ビルマネム	110,770 ^本		
同	猴子山	8,400	同	61,640		
同	旭村	14,070	同	82,280		
同	知本	8,590	同	21,100		
同	卑南區	14,980	同	76,820		
同	美和村	17,230	同	154,650		
同	都變區	15,528	同	147,185		
同	八里芒	15,528	同	147,185		

街區名	字名	面積	樹種	別	植栽本數	摘	要
都 變 區	加里猛狎	一三、四二二 ^甲	同		三九、二〇〇 〇石二九〇		
同	大馬武窟	八、二五四九	同		二二、八〇〇		
計		一一〇、〇〇〇	同	種子	七二六、五四五 二石四〇〇		

3 其ノ他ノ官行造林 既設造林トシテ保安造林二十甲特別經營造林二十四甲五分九厘、椰子園一甲計四十五甲五分九厘實施シ孰レモ成功セリ、尙臺東平野耕地造成林トシテ一千五百甲ノ新植計畫ヲ樹立シ明年度ヨリ實施ノ豫定ナリ。

(八) 民行造林 民行造林ハ未タ普及スルニ至ラサルモ目下總督府ニ於テ森林計畫事業實施中ニシテ林野區分確定セララルルニ至レハ各部落附近ノ林野ハ當然不要存置林野ニ屬スヘク之等ノ地域ハ孰レモ濫伐セラレ且掠奪農耕ヲ繼續セル結果林地ノ荒廢漸ク甚シキモノアリ之カ合理的經營ノ如何ハ國土保安治水並産業上至大ナル關係ヲ有ス爾來當廳ニ於テモ極力愛林思想ノ普及涵養ニ努メ且小規模ナルモ種苗ノ無償配付造林ノ實施指導ニ力ヲ竭シ昭和六年四月十四日廳令ヲ以テ民行造林獎勵規則ヲ發布シ造林組合其ノ他適當ナルモノニ對シテ土地ノ貸下ヲ受ケシメ模範的民行造林ノ獎勵計畫ヲ樹テタリ。然シテ火燒島漁業組合ニ對シ附帶事業トシテ昭和六年二十一甲三分七厘、本年二十一甲七分一厘ノ造林ヲ實施セシメ獎勵金ヲ交付シ逐次

積極的ニ獎勵セムトス。

(二) 林產物處分 森林計畫事業未了ノ爲地方ノ産業ヲ阻害セサル程度ニ行ヒツツアリ應下ノ山岳地帯ハ地形峻峻ニシテ警察道路ノ外道路ト稱スヘキモノナク從テ製材搬出ニ多大ノ經費ヲ要スルヲ以テ他ノ移輸入材ト競争スルニ極メテ不利ナル立場ニアリ、現在處分林產物ハ楠仔、苦荬、茄荬、薪炭材ヲ主トシ森林副產物トシテ薯榔籐トス、既往三箇年拂下狀況左ノ如シ。

年 度	別 件	數	主 產 物	副 產 物	計
昭 和 七 年		二七七	五、五七七、五七〇	一、二二三、八〇〇	六、七九〇、三七〇
昭 和 六 年		二六七	五、六七三、二八〇	一、七二九、九五〇	七、四〇三、二三〇
昭 和 五 年		二七八	七、一一〇、〇五〇	二、一四二、六六〇	九、二六二、七〇〇

(ホ) 保安林 明治三十四年府令第十號ヲ以テ公布ニ係ル臺東保安林規則ニ依リ保安林ノ編入並之カ保護取締ヲ爲スニ至リ同四十四年始メテ臺東風致保安林等四箇所二百六十甲編入セラレ爾今増加シ現在ニ於ケル保安林總數十箇所面積六千六百五十七甲四分一厘七絲ニシテ種別、位置及面積ヲ示セハ左ノ如シ。

種 別	位 置	面 積	摘 要
風 致 林	臺 東 街 臺 東	二二、三三〇 ^甲	

種別	位置	面積	摘要
飛砂防止林	臺東街猴臺東	一六〇、六七〇 ^甲	
同	臺東街北絲閣	四六、七〇〇	
土砂扞止林	卑南區檳榔樹格	一〇一、一八〇	
風致林	卑南區檳榔樹格	五〇八、九〇五	
防風林	太麻里區太麻里	一九、三四五	
同	大武區大武	一〇、九八〇	
水源涵養林	卑南區檳榔樹格	三三三、四〇〇	
同	卑南區呂家字蕃地	五、三四八、〇〇〇	
同	大南社	九六、〇〇〇	
土砂扞止林	卑南區北絲閣		

外ニ森林治水調査ノ結果、保安林編入確定セルモノ十一箇所之カ見込面積九萬四千甲ニ達スル見込ナリ。

(へ) 林野取締 常廳下ノ林野取締總面積ハ三十二萬七千五百甲ニシテ之ヲ四區ニ分チ樞要地ニ森林主事ヲ置キ巡視取締ニ努メツツアリト雖面積廣大ナルニ比シ取締員小數ナル爲周到ナル取締ヲ期シ難キ憾アリ加フルニ住民ニ愛林思想乏シキカ爲林野ノ被害依然トシテ其跡ヲ絶タサル現況ニシテ本年中ニ於ケル森林被害ハ火災六件盜伐二件ニシテ被害見積價格八百三十二圓ナリ。

(三) 水産事務

漁業 應下ニ於ケル漁業ヲ大別シテ沖合漁業及沿岸漁業ノ二種トス、沖合漁業ニハ石油發動機付漁船十七隻及支那型漁船十五隻ニ依ル鰹釣漁業ト瀬魚延繩並旗魚突棒漁業等ニシテ支那型漁船ハ漸次動力付漁船ニ改メラレ殊ニ新港漁港完成セルヲ以テ益々其ノ數激増スルニ至ルヘシ。

沿岸漁業ノ主ナルモノハ定置漁業中惣田鰹大敷網鱧建網漁業ニシテ其ノ他瀬魚延繩、鰻、鱒、太刀魚ノ地曳網、飛魚流網、鯉鮒曳網漁業等アリ、近年之等漁業モ漁具漁船又ハ大敷網漁業ノ如キハ大正十三年ノ創始ナレトモ其ノ成績頗ル良好ニシテ既ニ免許セシ漁場七十五箇所ニ達シ、之等漁場從業ノ曉ニ於テハ其ノ漁獲高著シク増加スルニ至ルヘシ、然ルニ本年中ハ前年ノ不漁ト節下落等ニ依リ休業漁場多キモ從業セシ各漁場ハ相當好成績ヲ擧ケタリ、最近三箇年間ニ於ケル漁獲高ヲ對照スレハ左ノ如シ。

年別	數量	價格	魚類	數量	價格	其他	價格
昭和七年	一〇一、八八〇	九、八五四	鰹	一、二六四、三〇七	五四、二五九		
昭和六年	一一一、五〇〇	一〇、五九〇	鰹	一、一八二、三〇〇	五四、二七〇		
昭和五年	一六一、六〇〇	一二、二四〇	鰹	八九六、六八二	四二、六九二		

年別	數量	價格	魚類	數量	價格	其他	價格
昭和七年	三七、〇一〇	四、七八〇	飛	三二、七三〇	二、六三三		四七、八〇七
昭和六年	六八、九〇七	八、八六六	飛	五八、七四〇	六、〇〇三		三七、〇三六
昭和五年	四六、二六五	七、四九九	飛	七七、三二六	七、七二〇		四一、七五二

年別	價格合計	年別	價格合計
昭和七年	一五、七四四 ^円	昭和五年	一五、八六九 ^円
昭和六年	一六、二四〇		

水産製造 應下水産品ノ主ナルモノハ眞鯉節、惣田鯉節、鮪節等ニシテ眞鯉及鮪節製造工場ハ火燒島及大馬武窟ニ四箇所アリ、惣田鯉節製造工場ハ大武、臺東新港ノ各支應下ニ十二箇所ノ從業工場アリテ前年ニ比シ休業工場ノ多キハ財界不況ノ影響ヲ受ケ節類ノ暴落ト漁況不況不振等ニ起因セルモノナリ。然ルニ此ノ種ノ事業ハ漸次發達シツツアルト共ニ一面製品ノ改良ニ重キヲナシタル結果一般市場ニ於テ好評ヲ博シツツアリ、其ノ他飛魚、鰯、鱒、太刀魚及惣田鯉等ノ鹽乾品アレトモ未タ應下ノ自産自給タルニ過キス、最近三箇年間ノ水産製造生産額左ノ如シ。

年別	鹽乾品		眞鯉節		鮪節		惣田鯉節		其他	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格	數量	價格
昭和七年	四、四九〇 ^斤	九六 ^円	五、三三〇 ^斤	二六、六五五 ^円	四、一八七 ^斤	一九九七 ^円	二、一〇〇 ^斤	二九、三三二 ^円	二六、四九 ^斤	二九、九九八 ^円
昭和六年	七、九四〇	六、九八	五、七二二	五、一〇一	七、八九四	四、六二〇	一、五三、六五	四、九三三	三〇、五五五	四八、一三三
昭和五年	二六、〇〇〇	四、一〇〇	七、九二五	六、〇五一	五、〇六九	四、四七四	一、四九、三二	五、四六七	三三、三四五	三三、九三三
昭和四年	一八、〇〇〇	二、八〇〇	三、八六六	六、八八六	五、五〇〇	五、二二六	三、〇、五八	二八、二〇九	二八、八四二	三六、一三三
昭和三年	一六、〇〇〇	三、二〇〇	六、八五五	五、四二五	一〇、五二八	一〇、〇九八	三、九、〇五	一六、〇一〇	一〇、五〇〇	一四、八三五

養殖 養殖ハ淡水魚ノ鯉、草魚ノミニシテ最モ大ナル池沼ハ里壠支應下大坡ノ天然池ニシテ他ニ個人經營ノ養魚池四箇所ナルモ規模小ニシテ兩者ヲ通シ昭和七年中ノ生産價格二千六百五十七圓ナリ。

水産團體 應下火燒島ニ大正十五年島民漁業者ヨリ成ル漁業組合設置セラレ現在三百八十八人ノ組合員アリテ創立以來同島ノ南北兩所ニ石油發動機付漁船曳揚場ノ設置鯉釣漁業ノ獎勵其ノ他無線電信設置等ヲナシ本年度ニ於テ漁付林ノ造成ヲ成シタル等水産發展ノ爲相當活躍シツツアリ、此ノ外合名會社旭漁業組合及漁業公司アリテ、鯉釣漁業惣田鯉大敷網漁業ヲ經營シ居ルモ此ノ種ノ團體ハ新港漁港ノ完成シタルヲ以テ漸次増加スルニ至レリ。

漁業取締 應下ノ漁業ハ近時長足ノ進歩發達ヲ爲シタル結果許可及届出漁業件數モ年々増加シツツアリ、本年中應下ニ於ケル漁業件數左ノ如シ。

- 一、免許漁業 七五件
- 一、許可漁業 四一件
- 一、届出漁業 三三七件

鯉節製造職工養成 大正十三年度ヨリ惣田鯉節製造職工養成ヲ新港支應下ニ於テ施行シ昭和元年ヨリ眞鯉節職工養成ヲ火燒島ニ開拓シ毎年盛漁期ニ於テ二箇月乃至三箇月間繼續開催シタル結果製品ノ改良ニ甚大ナル効果ヲ擧ケ各製造工場ヨリ本講習卒業生ノ雇傭希望申込年々増加セルモ卒業生ノ數ハ未タ需要率ニ達セ

サル状態ナルニ依リ繼續事業トシテ本年モ引續キ左ノ通實施セリ。

講習會場	種別	講習期間	講習生			卒業生
			一年生	二年生	三年生	
新港支廳下都變青 年會館製鐵工場	惣田鑛節製造講習	昭和七年自五月五日 至七月三日	一人	一人	一人	八五人
火燒島南寮玉福 製鐵工場	眞鑛節製造講習	昭和七年自五月六日 至八月吉日	九人	一人	一人	三五人
計			二〇人	二人	二人	一四四人

(四) 鑛業事務

(イ)

鑛業概況 昭和七年末鑛業ノ現況ハ銅硫化鐵鑛區三十三萬九千五十八坪ニシテ前年末ト異動ナシ、而シテ現在ニ於テ採鑛作業ヲ行ヒツツアルハ新港支廳下加走灣區姑子律内鑛區ニ於テ昭和四年七月以降繼續サレツツアリト雖財界不況ニ禍セラレ且又資金難ニ陥リ現在一頓座ヲ來シ居ル現況ナリ、本年ニ於テハ金、銀、銅鑛ノ出願十件アリタルモ許可サルルニ至ラス。

(ロ)

鑛區 鑛區數ハ二アレ共一ハ事業ノ著手ナク砂金鑛區ノミ採集ニ從事シツツアルモ日尙淺ク試堀ノ域ヲ脱セス産額ニ於テモ見ルヘキモノナシ。

(ハ)

鑛業團體 應下ニ於テ鑛業許可ヲ受ケタル團體ハ臺灣肥料株式會社一アルノミ。

(ニ)

(五) 商工事務

(イ)

商業概況 本廳商業ノ中心地ハ臺東街ニシテ新港、里壠之ニ次ク、然レトモ交通不便ニシテ人口ノ稀薄竝經濟資源ノ缺如ハ常ニ其ノ進展ヲ防ケツツアリ、新港ハ漁港既ニ完成シ陸上設備等モ著々完備シ之ニ附隨スル移民ノ招致等ニ依リ漁獲物激增ニ伴ヒ將來ノ小商業地トシテ矚目セラレツツアリ、商取引ノ主ナルモノハ日用雜貨土木建築物等ナリ、而シテ商店ノ八割ハ雜貨店ニシテ本年末商業戶數ハ六百八十戸本年中總賣上高ハ三百萬八百七十圓ナリ尙一般商況ニ就テ見ルニ廳下主要產物タル米モ依然トシテ好轉セサレ共一方糖價ノ好調ニ依リ直接的ニ好結果ヲ招來シタリ、然レトモ一箇年ヲ通シ概觀スル時ハ各種新事業ノ手控ヘト金融業者ノ貸出警戒トニ基因シ一般ノ購買力旺盛トハ言ヒ得サル現狀ナリ。

物價

(昭和七年末)

品名	單位	價格	摘要
大豆	升	〇、二六〇	
小豆	升	〇、一三〇	
西米	斗	二、三〇〇	基隆米
東米	斗	一、七〇〇	臺東米
內地米	斗	三、一五〇	豐前米

品名	單位	價格	摘要
味噌	百升	〇、〇六〇	
醬油	百升	〇、七〇〇	
コンテナスミルタ	百箇	〇、四六〇	
内地節	百斤	一、一五〇	上等
豚肉	百斤	〇、二八〇	鹿兒島
牛肉	百斤	〇、五〇〇	
澤庵漬	百斤	〇、〇八〇	
綠茶	百斤	一、〇八〇	
白糖	百斤	〇、二五〇	
分蜜	百斤	〇、一七〇	
石鹼	百箇	〇、二八〇	ミツワ石鹼

工業 廳下ノ工業ハ製糖工業ヲ除ク外大規模ノ工場ナシ小規模ノ工場トシテ鯉節工場十八、精米所二十六製糖工場新式一、舊式一、鐵工、電氣、活版、製麵工場各一、製氷工場一アリ、而シテ之等ノ各工場ノ内鯉節工場、精米所ハ生産品依然トシテ回復セサル爲不振ノ域ヲ脱シ得サレ共是ニ反シ製糖工場ノミハ後半期ニ於テ急激ナル價格騰貴ニ依リ活況ヲ呈シ事業界モ部分的ニ好結果ヲ認メタリ。

(イ) 製糖工場 昭和六、七年期ニ於テ作業シタル製糖工場ハ新式工場一、舊式糖廠一ニシテ作業モ順調ニ進

ミタリ、本期總産糖高ハ十三萬一千八百六十七担ナリ、産糖高ニ於テ本年ハ又最高記録ヲ示シ而モ糖價ハ金輸再禁ト六月ニ至リ關稅引上トニヨリ傍々産糖協定ニ依ル需給調節ト相俟ツテ市價回復シ糖業界ニモ一時ノ曙光ヲ觀ルニ至リタリ、而シテ砂糖増産ヲ觀タルハ原料品質ノ向上ニ依ルト雖植付面積ノ増加ニ基因スルモノニシテ歩留ニ於テハ昨年ヨリ一厘七毛ノ低下ヲ觀タリ。

(ロ) 電氣 電氣事業ハ臺灣合同電氣株式會社臺東出張所ノ經營ニ係ルモノニシテ水力發電氣百十「キロワット」並補助機關トシテ火力五十「キロワット」ノ「ダイゼルエンジン」一臺ヲ備付ケ更ニ昨年百十「キロワット」ノ「ダイゼルエンジン」一臺ヲ増設シ夜間一般燈用トシテ三千二百十四燈、四十三萬九百六「キロワット」晝間工業原動機用トシテ十二萬二千二百十二「キロワット」ノ電流ヲ供給シ好成績ヲ收メツツアリ。

(ハ) 製氷工場 廳下製氷業ハ四噸工場（實能力三噸半）一箇所ニ過キサレトモ工場設備ノ改善事業經濟化ニ因リ著々基礎強固ニ向ヒツツアリ、本年中ニ於ケル製氷數量四萬一千五百八十七貫價格五千四百六圓ニシテ尙相當製造能力ニ餘裕アリ。

勞働賃金 西部諸州ニ比シ技工ヲ要スル勞働賃金ハ比較的高キモ普通勞働者ハ蕃人ニシテ一日男五十四錢女三十八錢トシテ各支應ヨリ蕃人苦力ニ限リ供出シツツアリ。
職業別勞働賃金ヲ示セハ左ノ如シ。

職 業	備 期 區 別	内 地 人			本 島 人		
		最 高	最 低	平 均	最 高	最 低	平 均
大 工	一 日	三、八〇〇	二、五〇〇	三、三〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇
家 指 建	同	三、五〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
官 具	同	三、五〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
左 瓦	同	三、八〇〇	二、五〇〇	三、三〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
煉 瓦	同	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
壘 積	同	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
刺 工	同	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
桶 冶	同	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
鑄 物	同	三、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、八〇〇	二、〇〇〇
金 銀 細 工	同	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、四〇〇
洋 服 裁 縫	同	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇
本 島 洋 服 裁 縫	同	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇
活 版 植 字	同	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇
農 作	同	一、〇〇〇	六〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	一、〇〇〇
漁 夫	同	一、〇〇〇	六〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	六〇〇	一、〇〇〇

仲 仕	月 給	下 下	
		男	女
同	同	四、一〇〇	一、五〇〇
同	同	二、五〇〇	八、〇〇〇
同	同	三、一〇〇	一、二〇〇
同	同	二、六〇〇	三、〇〇〇
同	同	一、五〇〇	二、五〇〇
同	同	一、〇〇〇	六、〇〇〇
同	同	一、五〇〇	一、〇〇〇
同	同	二、〇〇〇	一、七〇〇

備考 下女、下男中内地人ハ賄付、本島人ハ日歸ナリ。

産業組合 廳下本年末組合數ハ信用組合三、兼營組合二、利用組合六合計十一組合ナリ、信用組合ハ金融ノ現勢ニ處シ近時益々其經營消極策ニ傾キタリト雖反面健實味ヲ帶ヒ來リ著々其ノ基礎ヲ確立シ中産以下ノ唯一ノ金融機關トシテ地方産業經濟ノ發達ニ寄與スル所尠カラズ、然レトモ過去ニ於テ蒙レル創痍未タ充分癒ヘス加フルニ運轉資金充分ナリト言フヲ得サル現狀ナルヲ以テ各組合共銳意資金ノ充實ニ意ヲ注キ貯金ノ勧誘ヲ圖ル等資金吸收ノ對策ヲ講セリ、尙一面蕃人ヲ組合員トスル利用組合ニ對シテハ經濟的保護政策ヲ執ル必要アルカ爲極力之カ指導誘掖ニ努メツツアリ、其ノ結果蕃人先覺者間ニハ逐次組合精神ヲ了解スルモノアリ、是等ノ先覺者ノ活動ト相俟テ地方自治心ノ養成並地方改良機關トシテ其ノ効果看過スヘカラサルモノ尠シトセス、然ルニ事業組合ニ於テ創立日尙淺キト經濟界ノ不況トニ因リ充分其ノ販賣機ヲ發揮スルヲ得ス事業經營上此カ苦痛ヲ感シツツアリ。

今主ナル項目ニ就キ昭和七年末ニ於ケル狀況ヲ示セハ左ノ如シ。

科目	組合員數		出資口數		出資金		貸付金		土地建物什器		有價證券		預賣品		販賣品		購買品		電燈設備		精米設備		牧場設備		準備金		積立金		借入金		貯蓄金		現餘金		利出金	
	設立年月	組合員數	出資口數	出資金	貸付金	土地建物什器	有價證券	預賣品	販賣品	購買品	電燈設備	精米設備	牧場設備	準備金	積立金	借入金	貯蓄金	現餘金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金	利出金		
臺東信用組合	大正五年	三三三	一三〇七	三三、六七五	一八、四〇六	二、九〇九	七、五四三	一四、七三三																												
里壠信用組合	大正十二年	一九三	四〇〇	三三、〇〇〇	三三、三三九	八六七		八四																												
新港信用組合	大正十二年	三三	二二五	四、〇〇〇	六、七八	三五五		三九七																												
里壠電氣信用組合	大正五年	三三	三三六	六、七三〇	一、八二二			五七五																												
噶吧吧灣信用組合	昭和四年	二五	一、一五〇	三、〇〇〇	二〇〇																															
知本信用組合	昭和四年	一六	四〇〇	四、〇〇〇	八五〇																															
卑南信用組合	昭和四年	一四七	五、〇〇〇	五、〇〇〇	四、四九九	六、〇〇〇																														
鹿野信用組合	昭和五年	四三	三、三〇〇	三、三〇〇	二、四〇〇																															
姑子律信用組合	昭和五年	五〇	五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇																															
雷公火信用組合	昭和六年	三三	三三〇	三、三〇〇	一、一〇〇																															
都牛信用組合	昭和七年	三〇	三〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇																															

(六) 畜産事務

畜牛 畜牛改良ノ目的ヲ以テ從來總督府ヨリ獎勵金ノ配付ヲ受ケ民有優良牡牛ヲ種牡牛ニ選定シ獎勵金ヲ交付シテ之カ種付ヲ勵行セシメ尙總督府ヨリ印度種牛ノ貸付ヲ受ケ専ラ之等ノ蕃殖増産ヲ圖ルト共ニ一面不良牡牛ノ去勢ヲ實施シ個體ノ改良ニ努メタル結果著シク優良牛ノ増産ヲ認ムルニ至レリ、而シテ廳下産牛經濟ノ向上ヲ期スル爲總督府ヨリ畜牛搬出獎勵費ノ配付ヲ受ケ搬出ト共ニ畜牛ノ積極的改良増産ヲ圖ル目的ヲ以テ産業組合組織ノ共同生産牧場ヲ獎勵設置シ搬出用畜牛増産育成ヲ行ハシメ一面大武支廳下ニ中繼牧場ヲ設置シ搬出畜牛ノ管外搬出ニ便ナラシメツツアリ、本年度搬出セシ畜牛數並共同生産牧場設置數及最近三箇年間ニ於ケル畜牛頭數左表ノ如シ。

畜牛頭數

年次	牛		水牛		及印雜種牛		計
	牛	頭	水牛	頭	牛	頭	
昭和七年	五、一三三	頭	一五、七五七	頭	二、六二七	頭	二三、五〇七
昭和六年	五、三二五	頭	一五、一〇三	頭	二、〇九八	頭	二二、五二五
昭和五年	五、三三二	頭	一四、三四五	頭	一、八八五	頭	二一、五六一

管外搬出畜牛數

年次	牛		計	價
	黃牛	雜種		
昭和七年	一四九	一七六	三二五	二六、九八〇
昭和六年	二四	九九	一二三	二〇、〇四七
昭和五年	一九二	一九六	三八八	三〇、三三九

備考 昭和五年度ニ於テ搬出頭數及價格ノ減少セシハ一般不況ノ結果ニヨル

畜牛生産牧場設置數

年次	組合名	組合員數	牧場設置箇所	面積	設置費	現在收容畜牛數
昭和三年	有限責任知本信用購買販賣利用組合	一六	卑南區知本字射馬千	二四七 ^甲	一、七三、〇〇〇	一〇七
同	有限責任暖吧灣牛畜販賣利用組合	二四	都巒區暖吧灣	二〇〇	二、〇〇、〇〇〇	二五四
昭和四年	有限責任鹿野牛畜販賣利用組合	三〇	鹿野區大原村	三三三	一、九〇、〇〇〇	一九九
同	有限責任姑子律牛畜販賣利用組合	三〇	加走灣區姑子律	一〇八	一、五〇、〇〇〇	九
昭和五年	有限責任雷公火牛畜販賣利用組合	三三	新開區萬安	三〇〇	一、四四、〇〇〇	八
同	大原畜産改良組合	三三	鹿野區大原村	三三三	一、四八、〇〇〇	二二
昭和六年	有限責任都歷牛畜販賣利用組合	三三	新港區都歷字叭翁	九七	一、三三、〇〇〇	七
同	馬關畜産改良組合	二〇	臺東街富原村	三三六	二、二五、〇〇〇	二二
昭和七年	保證責任都巒牛畜販賣組合	二二	都巒區都巒及	三七七	一、四三、〇〇〇	二二
同	加路蘭畜産改良組合	七	臺東街加路蘭及同富原村	三三	一、四九、〇〇〇	七
計		六六		二、七七一		一、〇五

養豚 應下ノ飼養豚ハ在來種大部分ヲ占メ其ノ他桃園種瀨濃種等ニシテ毎戸殆ント飼養セリト雖一般ニ晩熟ニシテ品質劣等ナルモノ多キヲ以テ大正十三年度以來廳農會ヲシテ「パークシャー」種豚ノ移入ヲ圖フシメ専ラ之カ改良蕃殖ヲ獎勵シツツアル結果近年種豚ノ優良ナルモノ著シク増殖スルニ至リ其ノ數三千七百八十餘頭ニ達シ總頭數ノ約二割ヲ占ムル状態ニアリ而シテ一面屠殺肉量ノ増加ヲ認ムルニ至レリ、又昭和三年度ヨリ堆肥施用ノ獎勵ト飼養管理ノ向上ヲ促進スル爲總督府ヨリ獎勵金ノ配付ヲ受ケ採肥改良豚舎ノ建設ヲ獎勵シツツアリ、一面農會ニ於テモ大正十四年度以來同方針ノ下ニ之カ建設ヲ行ヒツツアリ、本年度建設數及最近三箇年ノ飼養頭數、屠畜ノ狀況左表ノ如シ。

飼養頭數及屠畜頭數

年別	飼養頭數	屠畜頭數	摘要
昭和七年	一九、六四五	六、一七六	
昭和六年	一九、四四四	六、八六三	
昭和五年	二〇、二六九	五、九五〇	

採肥改良豚舎建設棟數

年別	臺東支應	里壠支應	新港支應	大武支應	計
昭和七年	三三	二	三〇	!	七
昭和六年	二六	二〇	二六	!	七
昭和五年	元	一四	元	二	三

山羊 山羊ハ主トシテ本島人ノ祭典用トシテ飼養セラル最近三箇年ノ飼養頭數及屠畜頭數ヲ示セハ左ノ如シ。

年別	飼養頭數	屠畜頭數	摘	要
昭和七年	八七五	一三五		
昭和六年	五八三	一五四		
昭和五年	五三	一三〇		

花鹿 花鹿ハ火燒島ノ特産ニシテ從來牡ハ生体ノ儘百頭内外ヲ主ニ製藥原料トシテ支那福州上海方面ニ輸出シツアリテ同地方ノ重要産業ノ一ナリシカ近年支那國情不穩ノ影響ニ依リ全ク杜絶ノ状態ニアリテ僅ニ高雄、基隆方面ニ一箇年十數頭ノ搬出ヲ見ルニ過キス最近三箇年間ノ飼養頭數左ノ如シ。

年別	飼養頭數	摘	要
----	------	---	---

昭和七年	七七		
昭和六年	七〇三		
昭和五年	六〇六		

家禽 近年卵肉ノ需要増加ニ伴ヒ一面農會ヲシテ改良普及ニ努メツツアル結果優良種ノ飼養並育雛ニ努ムルモノ漸次増加シツアリ、最近三箇年ノ飼養羽數ヲ示セハ左ノ如シ。

年別	鶏	鶯	鶯	吐綬鶏	計
昭和七年	四九、五六一	四、〇〇一	八二	一四二	五四、五二五
昭和六年	四九、九〇九	四、〇四七	五九七	一四五	五四、六九八
昭和五年	五一、〇一五	二、九二八	五四六	一二三	五四、六〇二

家畜傳染病 本年度應下ノ家畜傳染病ハ主ニ臺東支應並里壠支應下ニ於ケル家禽「コレラ」ノ發生ニシテ其ノ他ノ家畜傳染病ノ發生ナク一般ニ衛生状態良好ナリ、而シテ家禽「コレラ」ハ本年三月臺東支應下臺東ニ初發シ爾來各地ニ散發的發生ヲ見、續イテ五月以降里壠支應下ニ之カ發生ヲ見タルモ嚴重ナル豫防消毒施行ト共ニ専ラ免疫血精ノ豫防注射ヲ行ヒタル結果年末ニ至リ何レモ新患ノ發生ナク終熄スルニ至レリ、最近三箇年間ニ於ケル傳染病發生狀況ヲ示セハ左ノ如シ。

年	別	病名	發生	斃	死	撲殺	全治
昭和七年	家禽	コレラ	四五				
昭和六年	家禽	コレラ	七六				
昭和五年	家禽	コレラ	二五				

牛乳 廳下ノ搾乳業ハ臺東街ニ於ケル民間營業所一箇所ニシテ其ノ規模大ナラスト雖漸次事業ノ進展ヲ示シツツアリ、然シテ何レモ印度系雜種牛ニシテ一般ニ乳量多カラサルモ近年廳下ノ開發ト保健思想ノ向上ニ伴ヒ牛乳需要者漸次増加ノ趨勢ニアリ、最近三箇年ニ於ケル搾乳頭數及搾乳量ヲ示セハ左ノ如シ

年	別	搾乳頭數	搾乳量	價	格
昭和七年		三三	二四、六五〇	二、三七三、八四〇	
昭和六年		三三	二三、六九五	二、三九五、三五〇	
昭和五年		二五	二四、八六一	二、四一九、六一〇	

(七) 其ノ他ノ事務

度量衡器及計量器 最近三箇年ノ度量衡器及計量器販賣實況左ノ如シ

年	別	度量衡販賣業	賣上高	計量器販賣業	賣上高	摘要

土木係

(一) 道路及橋梁

一、臺東花蓮港道橋梁架設工事 臺東ヨリ里壠ヲ經テ花蓮港ニ通スル道路ハ昭和六年度ニ於テ北絲閣里壠間ヲ幅員三間乃至四間ニ改修セラレシヲ以テ七年度ニ於テ北絲閣溪及鹿寮溪ニ橋梁ヲ架設スヘク前者ハ二萬七千九百九十圓、後者ハ一萬八千二百圓ノ工費ヲ以テ昭和八年一月八日同時ニ起工セシモ年度内ニ竣功ニ至ラス共ニ昭和八年度繰越工事トシテ之カ竣功ヲ急キツツアリ。

二、卑南溪假橋架設工事 臺東ノ北部ヲ流ルル卑南大溪ハ年々五月下旬ヨリ十一月下旬迄七箇月間ハ濁水奔流シ渡船ノ設備ヲナスモ交通危險ニシテ漸ク濁水期ニ於テ應急的吊橋ヲ架シ辛シテ交通ヲナスニ過キサル状態ナリシカ新港漁港完成モ焦眉ニ迫リ旅客物資輸送ノ激増モ豫想サルルニ至リ相當増水ニ對シテモ交通杜絶ノ支障ナキ程度ノ橋梁架設ヲ希望シ民間ヨリ勞力材料其ノ他提供ノ申出モアリ既成道路橋梁費ヨリ一千四百十二圓六十二錢ヲ支出シ幅四尺長六百五十三尺ノ假吊橋架設ヲ計畫シ昭和七年五月二十五日起工同年八月二十二日竣工セリ。

三、知本大武道改修工事 本道路ハ臺東廳下ヨリ西部地方ニ通スル唯一ノ産業道路ニシテ昭和六年度ニ於テ知本大武間ノ道路改修ヲ了シ本年度更ニ七千二百圓ノ豫算ヲ得テ大武阿聖衛間ノ道路改修ニ著手シテ二月十八日起工シ昭和八年三月三十一日竣工セリ。

四、既成道路橋梁架設並修繕工事

- (イ) 臺東花蓮港道第五號暗渠修繕工事
昭和七年五月二十日起工同年六月二十六日竣工
工費 三三二圓
- (ロ) 臺東馬太鞍道馬武窟第二號暗渠修繕工事
昭和七年六月七日起工同年六月二十六日竣工
工費 八二圓
- (ハ) 臺東大武道仮橋架設工事 (太麻里、軒子崙、大竹高各溪)
昭和七年十一月二十五日起工同年十二月四日竣工
工費 三一九圓
- (ニ) 臺東大武道橋渠修繕工事 (ロバカ溪橋梁)
昭和八年一月二十五日起工同年三月三十一日竣工
工費 一、四九五圓
- (ホ) 臺東花蓮港道里壠第一二四號橋修繕工事
昭和八年一月十七日起工同年三月三十一日竣工
工費 一、四九九圓四〇〇

五、既成道路修繕工事

- (イ) 馬蘭知本道砂利敷工事
昭和七年五月三日起工同年五月二十九日竣工
工費 六〇九圓一五〇
- (ロ) 臺東馬太鞍道修繕工事
昭和七年八月七日起工同年八月十六日竣工
工費 二九七圓四八〇
- (ハ) 臺東馬太鞍道零里二十八丁附近修繕工事
昭和七年八月九日起工同年八月十七日竣工
工費 一九二圓一〇〇
- (ニ) 臺東花蓮港道砂利敷工事 (自一里二十一丁至一里十九丁)
昭和七年八月十日起工同年八月十九日竣工
工費 九三九圓九四〇
- (ホ) 臺東花蓮港道砂利敷工事 (自二十七丁至十七丁)
昭和七年十月八日起工同年十月十七日竣工
工費 八〇八圓五〇〇
- (ヘ) 臺東大武道路修繕工事 (七里四丁附近)
昭和八年一月八日起工同年三月三十一日竣工
工費 五三二圓
- (ト) 臺東大武道砂利敷工事 (臺東知本間)
昭和八年一月十五日起工同年二月二十二日竣工
工費 六七〇圓
- (チ) 臺東大武道砂利敷工事 (知本知本温泉間)

- (リ) 昭和八年一月十五日著手同年二月十五日竣工 工費 二二五圓
 馬蘭知本道砂利敷工事
 昭和八年一月十五日著手同年二月二十五日竣工 工費 三二〇圓
 六、災害復舊工事

工事名	起功年月日	竣功年月日	工費	摘要
臺東馬太鞍道災害復舊工事	昭和八年二月一日	昭和八年三月三十一日	一、三三二、八〇〇	都 變 管 内
臺東花蓮港道災害復舊工事	同	同	一、八五、一八〇	北 絲 陶 管 内
臺東大武道災害復舊工事	同	同	四、四四、三〇〇	美 和 村 太 麻 里 間
同	同	同	四、二二、七〇〇	大 竹 高 大 鳥 間
同	同	同	九、一四、五〇〇	猴 子 蘭

(二) 水 道

◇ 壠水道増設工事

昭和六年度ニ於テ敷設セル里壠水道ノ完全瀘過ヲ目的トシ昭和七年六月六千八百圓ノ工費ヲ以テ起工シ
 昭和八年一月十四日竣功セリ。

(三)

水利 應下ニ於ケル土地開發ノ目的ヲ以テ補助金ヲ交付シ工事實施上ノ指導監督ヲ爲シ施行中ノモノ

左ノ如シ。

埤 圳 名	工 事 費	補 助		費
		昭 和 五 年 度	昭 和 六 年 度	
小馬武窟圳	八八、七〇〇	九、九〇〇	三〇、七六〇	二二、五四〇

(四) 昭和七年度中ニ實施セル營繕工事

工 事 名	工 費	起 功 年 月 日	竣 功 年 月 日	摘 要
廳官舎移轉改築工事	六、三三、六〇〇	昭和七年十月十三日	昭和七年十二月三十一日	
里壠公學校々舎其ノ他新 營工事	九、八五、七五〇	昭和七年十二月十日	昭和八年三月二十九日	
加走灣公學校々舎其ノ他 新營工事	二、九四、一八〇	昭和七年七月二十一日	昭和七年十月二十三日	
漁業移民指導管理事 務所其ノ他新營 新港漁港陸上設備費	五、八四、三六〇	昭和七年十二月二十日	昭和八年三月三十一日	八年度繰越三、八六八圓
新港小學校々舎其ノ他新 營工事	二、八三、九五〇	昭和七年七月二十一日	昭和七年十月三日	
開導所謹慎室新營	一、三〇、〇〇〇	昭和七年七月五日	昭和七年八月三十日	
大武區役場官舎新營	二、五九、三三〇	昭和七年十月十日	昭和八年二月七日	
臺 東 廳 舎 増 築	一、〇〇、六〇〇	昭和七年七月二十日	昭和七年十月六日	
新港支廳暖房吧灣警察官 吏派出所新營	四、三九、四〇〇	昭和七年十月二十七日	昭和八年二月二十日	

卜會計係

(一) 經理出納事務

國庫豫算決算
經常部

昭和七年度

科	目	豫算額	決算額	殘額
地專方 賣局應	八八一、三七、八七〇	八八〇、四二、七九〇	八八五、〇八〇	
	六〇〇、〇〇〇	五七一、三二〇	二八、六九〇	
	七、七三〇、一五〇	七、六二九、一六〇	一〇〇、九九〇	
	六、一八六、五〇〇	六、一四〇、七〇〇	四五、八〇〇	
諸支出	八九五、八四四、五二〇	八九四、七八三、九六〇	一、〇六〇、五六〇	
警勸調營事 察特別施設費	八五二、〇〇〇	八四六、三〇〇	五、七八〇	
	一三、〇七三、一七〇	一三、〇一〇、二四〇	六二、九三〇	
	一、五三六、九六〇	一、四七〇、八七〇	六六、〇九〇	
	四、六〇〇、〇〇〇	四、五三九、六〇〇	六〇、四〇〇	
	五三、九〇一、二五〇	五三、八九九、六四〇	二一、六一〇	
臨時部	三〇、一〇〇	三〇、一〇〇		
公債端	七三、九九三、四八〇	七三、七七六、六七〇	二六、八一〇	
總計	九六九、八三八、〇〇〇	九六八、五六〇、六三〇	一、二七七、三七〇	

應地方費豫算決算
經常部

昭和七年度

科	目	豫算額	決算額	殘額
神地社 方社 役場 長	七二五、〇〇〇	七二五、〇〇〇		
	四九、七七九、〇〇〇	四九、六七七、九八〇	一〇一、〇一〇	
	二二、七〇八、一九〇	二二、七〇五、七六〇	二、四三〇	
	二二九、一五六、一九〇	二二九、〇三〇、六一〇	二五、五八〇	
	三、三三〇、八六〇	三、〇〇一、一四〇	一、三二九、七二〇	
	三、七二〇、〇〇〇	三、七二八、〇五〇	一、九五〇	
	四二、七三六、九〇〇	四二、六七五、八〇〇	六二、一〇〇	
	五、八七八、二七〇	五、八五九、一三〇	一九、一四〇	
	一四、〇五三、〇〇〇	一四、〇五二、八五〇	〇、一五〇	
	一〇、二九一、九八〇	一〇、二七五、三三〇	一六、七五〇	
	一、〇六七、三三〇	一、〇六七、三三〇		
應地方費稅取扱費				
開導所業費				
社會事業費				
勸業道費				
衛生生育費				
教育費				
區長役場費				
地地方費				
神方社費				
總計				

(二) 各種會計出納事務

種別	臨時部		差引	殘高
	入	出		
營繕土木費	118,476.00	128,141.27	334,740	19,880
衛生費	4,935.00	4,915.20	7,440	8,710
勸業費	18,451.00	18,443.56	330,000	2,150
水利事業費	18,787.00	19,388.77	702,920	2,507,330
補助費	19,728.77	14,097.85		
災害費	14,100.00	193,764.86		
臨時部計	194,467.80	636,142.43		
總計	638,649.76			
臺東農會	26,554.29	25,629.39	94,900	665,640
同 基本金	665,640			

(三) 保管金出納事務

種別	臨時部		差引	殘高
	入	出		
肥料共同購賣費	57,070	546,000	31,070	
臺東獎學會	5,601.98	3,478.30	2,124.68	
赤十字年醃金	1,431.50	1,431.50		
同 經費	350,070	280,580	69,490	
愛國婦人會々費	448,150	273,750	174,400	
同 經費	5,601.86	4,883.07	718,790	
計	411,311.20	36,522.24	4,708,970	

(三) 保管金出納事務
 會計検査院委託検査ニ係ル昭和七年度歳入歳出外現金出納ノ検査件數八十六件證明者十一名ニ對シ孰レモ審理ノ結果違法又ハ不當ノ處理ト認メタル事項及辨償ノ責任ニ關シ判決ヲ爲シタルモノナキニヨリ昭和八年六月五日其ノ責任ヲ解除セリ其ノ出納左ノ如シ。

種別	臨時部		差引	殘高
	入	出		
民事調停執行旅費	101,100	87,800	13,400	
鑑定料	16,000		16,000	
技術員派遣旅費豫納金	475,430	461,630	13,800	
拾得金	104,510	25,870	78,650	

種別	受入高	拂出高	残高
滯納處分金	一、三〇九、八八〇	一、二四五、六六〇	六四、二二〇
計	一一、〇〇七、〇四〇	一、八二〇、九六〇	一八六、〇七〇

(四) 阿片烟膏ノ出納

種別	受入高	拂出高	残高	備考
一等阿片煙膏	一〇、〇八〇	六、四八〇	三、六〇〇	一本ニ付五瓦入

(五) 調度事務

(イ) 物件ノ購買

物件ノ購買ニ就テハ常ニ其ノ品質並市價ノ變動其ノ他等ニ細心ノ注意ヲ拂ヒ所定物品ニ對シテハ年度當初ニ於テ所要數量ヲ取纏メ購入シ専ラ經費ノ節約ヲ圖ルト共ニ一面國産品ノ購買ニ努メタリ。

(ロ) 物品ノ保管出納

庶務課及警務課ニ物品會計官更及物品會計吏各一名ヲ置キ所要物品ノ保管出納ヲ取扱ヒ年一回之カ檢査ヲ行ヒ以テ執務上遺憾ナキヲ期シタリ。

(ハ) 物品ノ配給

物品ノ配給ニ就テハ執務上缺クヘカラサル備品ノ充實ヲ計ルト共ニ消耗品ノ濫用ヲ戒メ以テ消費節約ノ趣旨徹底ニ努メタリ。

(ニ) 教科書拂下

昭和七年度ニ於ケル教科書拂下狀況左ノ如シ。

拂下冊數	金額	摘要
二九、三三七冊	二、六六七、一七〇	

(ホ) 請負工事入札

營繕土木工事ノ請負入札執行ニ當リテハ常ニ價格勞力ノ供給其ノ他各方面ニ亘リ詳細ナル調査ヲ遂ケ以テ豫定價格ヲ調製シ特ニ工事執行ノ時期並竣功期限ニ就テハ應下ノ如キ交通不便ノ地域ニシテ工事材料採集輸送等充分ニ留意シ會計規則ト相俟テ最モ嚴重ニ之ヲ行ヒ其ノ結果ニ於テ遺憾ノ點ナキヲ期セリ。昭和七年度中ニ於ケル工事件數及金額左ノ如シ

種別	國庫		地方		計	
	件數	金額	件數	金額	件數	金額
營繕工事	一	四、五三九、六〇〇	二二	三、七五、〇七〇	二三	三八、二九五、六七〇
土木工事	一	一、九五、〇〇〇	一六	一〇〇、九九〇、三六〇	一七	一〇一、九八五、三六〇
修繕工事	三八一	二二、四七〇、六五〇	二四	九、二九〇、四七〇	五九五	三〇、七六一、一三〇
計	三八三	二八、〇〇五、二五〇	二四二	一四四、〇三六、九〇〇	六二五	一七二、〇四二、一五〇

(六) 廳舎及官舎ノ配置保管

イ 官 舎

官舎ハ庶務課、稅務課、警務課共ニ不足シ毎年當局へ豫算ヲ要求スルモ經費ノ關係上建設ノ運ヒニ至ラス各課共大部分ハ借上宿舎ニ收容セル状態ナルヲ以テ之等不足宿舎ノ建設ハ焦眉ノ急務ナリ

ロ 廳舎及官舎ノ修繕

本年度ユ於ケル廳舎官舎及倉庫其ノ他ノ修繕施行ノ件數五九五件此ノ金額參萬七百六拾壹圓拾貳錢ニシテ建物ノ保存耐久ニ留意シツツアリ。

警務課主管

イ 警 務 係

(一) 警務職員ノ勤務及監督

(イ) 定期 巡 閱

淺野警務課長ハ十一月二十一日ヨリ二十三日迄警務課各係員ヲ從へ臺東支廳ヲ、十一月二十四日ヨリ十一月二十五日迄井手警部以下隨員ヲ從へ臺東開導所へ、十一月二十六日ヨリ十一月二十九日迄宮増警部以下隨員ヲ隨へ新港支廳ヲ定期巡閱ヲナス。

里壠支廳及大武支廳下ハ大關山蕃害事件カウトウ社方面搜索隊行動事務アリタル爲省略ス。

(ロ) 職員ノ各試験施行

一、語學乙種試験

本年度語學乙種試験ヲ五月三日本廳警務課及里壠、新港、大武各支廳ニ於テ受験者二百十八名ニ對シ施行セシニ合格者百四十九名アリタルヲ以テ是ニ對シ更ニ口述試験ヲ施行ノ結果合格者百十九名アリ之ニ對シ合格證書ヲ付與ス。

二、巡查部長詮衡試験

本廳本年度巡查部長詮衡筆記試験ヲ七月二十五日及二十六日ノ兩日本廳警務課及里壠、新港、大武ノ各支廳ニ於テ受験者三十三名ニ對シ施行十六名ノ合格者アリタルニ對シ八月十六日更ニ本廳ニ於テ口述試験ヲ施行シ八月二十九日合格者七名ニ對シ合格證書ヲ付與セリ。

三、乙種巡查採用試験

缺員補充ノ爲巡查志願者二十一名ニ對シ七月四日之カ採用試験施行ノ結果七名合格シ七月十一日附當廳乙種巡查ニ採用シタリ。

(ハ) 講習訓育

一、訓育其ノ他

六月一日ヨリ九月末日迄ハ毎日午前七時ヨリ其ノ他ノ時季ハ毎日午前八時ヨリ一時間警務課及各支廳開導所々在地勤務巡查ニ對シ訓育法規語學等ヲ講習シ其ノ他ノ勤務地ニ在勤スルモノニ對シテハ毎月學術講習指定表ヲ配付シ自習セシムルノ外召集ノ際應問及試験ヲ行ヒタリ。

(二) 武術講習

一、一般武術講習

六月一日ヨリ九月末日迄ハ毎日午後二時ヨリ其ノ他ノ時季ハ毎日午後三時ヨリ警務課及各支廳開導所勤務職員ニ對シ一時間ノ柔劍道ノ講習ヲ課シ其ノ他ノ勤務地ニ在勤スルモノハ召集其ノ他ノ場合ニ於テ講習セシム。

二、第六回廳下武道爭霸戰

二月二十一日廳下各團體ノ爭霸戰ヲ臺東東武館ニ於テ行ヒ柔道七團體劍道九團體ノ對抗試合ヲ爲シタルニ劍道ハ里壠團柔道ハ臺東支廳團ノ優勝ニ歸シタリ。

三、武道講習

二月二十一日廳下武道爭霸戰ニ引續キ同二十二日ヨリ二十八日迄東武館ニ於テ全廳下ヨリ選抜セル職員二十九名ニ對シ柔劍道ノ講習ヲナス。

(ホ) 精勤證書授與

六月十七日始政記念日ニ方リ本廳巡查ニシテ品行方正勤務勉勵 事務及語學ニ熟達シタル甲種巡查十九名乙種巡查八名ニ對シ兒玉廳長ヨリ精勤證書ヲ授與ス。

(ヘ) 規則ノ改廢

昭和七年四月一日廳訓令第四號臺東廳警務職員配置定員中改正

(二) 警察職員ノ配置並警察機關ノ設置廢合及受持區域

(イ) 警察職員ノ配置

本年末ニ於ケル配置定員左ノ如シ。

課支廳別	警視	警部	警部補	視學	技手	警察醫	衛生		巡		囑託	雇員	警手	計
							技手	書記	部長	甲種				
警務課	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺東支廳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
里壠支廳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
新港支廳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大武支廳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
臺東開導所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(口) 警察機關ノ新設廢止

昭和七年四月一日應告示第三十五號ヲ以テ臺東寶町派出所ヲ新設ス
 本年末警察機關及其ノ監督配置狀況左ノ如シ。

支應別	監視區	派出所數	駐在所數	摘要
臺東支應	第一監視區 第二監視區 第三監視區	直轄 六二一	二	
里壠支應	第一監視區 第二監視區 第三監視區 第四監視區 第五監視區 第六監視區 第七監視區 第八監視區	直轄 二一	五 六 四 四 六 六 五	
新港支應	第一監視區 第二監視區	直轄 五三一		

大武支應	第一監視區	直轄	六二五
	第二監視區		一
	第三監視區		
	第四監視區		

(三) 巡查以下ノ進退賞罰

本年中巡查以下ノ進退賞罰左表ノ如シ。

職名	新任	轉入	退職	轉出	死亡	年末現在	賞罰
巡查部長	八		九		一	四六	四
甲種巡查	四		三	二	一	三〇八	五
乙種巡查	九	七	一八	一	一	一三三	共
警計	一九六	七	二〇二	三	七	七五五	二
昭和四年	六三三	一三	五七六	一七	六	七三九	〇
昭和五年	五八七	三	四八六	一九	六	八〇八	六
昭和六年	三七〇	一	三七二	四	六	七七一	六
合計	二九七	一七	二〇二	三	七	八六四	二
							三
							五
							八
							一

備考 一、甲種勤務ヨリ部長ヘノ移動ハ退職新任トシテ計上セリ

二、罰欄右ハ懲戒左ハ減俸及譴責トス
 (四) 巡查以下ノ弔祭扶助及給助
 本年中ニ於ケル發令事件及金額左ノ如シ。

種別	件數	金額	摘要
療治料	三	二、七八五、七七〇	
給助料	一〇	四二二、〇〇〇	
死傷一時金	一	四九一、五四〇	
弔祭料	五	一、〇〇五、九九〇	
計	四九	四、六九五、三〇〇	

(五) 經理

昭和七年度警察所屬豫算經理狀況左ノ如シ。

警察費 (國庫)
 經常部

地方廳	科目	豫算額	拂額	差引過不足	摘要
八〇二、八三、八七〇		八〇二、八〇一、八九〇	一九、九八〇		

俸給	委任俸	判任俸	賞務	事務	廳務	各所修繕費	內國旅費	巡查給	警察醫給	給與料	雇員給	備人員給	被服帶具費	渡切費	雜費	保安費	銃砲彈藥費	撫育費
四七、九九六、〇〇〇	五、一一一、〇〇〇	四二、八八五、〇〇〇	六七五、八三〇、〇〇〇	九、九六一、〇〇〇	七、五九二、〇〇〇	六、七八九、〇〇〇	四一、五九二、〇〇〇	一、六一三、〇〇〇	一、五二四、〇〇〇	一、三七一、九五四、〇〇〇	三、八八七、〇〇〇	一〇、一四〇、〇〇〇	一〇、〇四四、〇〇〇	一〇、〇〇六、〇〇〇	七、九五六、八五〇	二〇三、〇〇〇	一五、八四五、八五〇	
四七、九八八、四一〇	四、五五一、二三〇	三六、二二三、一八〇	七、二三三、〇〇〇	二〇、〇一六、二八〇	一九、七三九、一三〇	六九、九〇三、七六〇	三七〇、五五三、六三〇	一、六四五、九三〇	四七、九三二、八六〇	一、六四〇、一五三〇	一〇、一九八、二八〇	八、九〇四、一七〇	一、〇四四、七五〇	一〇、四九五、三六〇	七、九四八、七八〇	二二九、八六〇	一五、二八〇、〇四〇	
七、五九〇	五五八、七七〇	六、六七一、八二〇	七、二三三、〇〇〇	一〇、〇五四、二八〇	二二、一四七、一三〇	三、一四七、七六〇	四一、〇三八、三七〇	三三、九三〇	三、六八一、八六〇	二、五五二、四七〇	六、三三一、二八〇	一、三五、八三〇	九、二五〇	四八九、三六〇	八、〇七〇	二六、八六〇	五六五、八一〇	

科	目	豫算額	仕拂額	差引過△不足	摘要
臨時部	蕃地衛生費	一三、九九、〇〇〇	一四、〇六、九七〇	△ 二七、九七〇	
	警邏船費	九四八、〇〇〇	九四〇、二一〇	△ 七、七九〇	
	警報信號費	五五、〇〇〇	一〇、六五〇	△ 四四、三五〇	
	蕃地假設橋建物及交通路橋費	三五、七四、〇〇〇	三六、二八〇、九三〇	△ 五三七、九三〇	
	留置人費	三、三五五、〇〇〇	三、四二、三九〇	△ 六七、三九〇	
	電話費	七、八八、〇〇〇	七、六七、七三〇	△ 五〇、二七〇	
	請願巡查及警手費	一、〇四〇、〇一〇	一、〇四〇、〇一〇		
	請願巡查及警手費	一、〇四〇、〇一〇	一、一〇四、〇一〇	△ 一、一〇四、〇一〇	
	事業費	四五、四六四、〇〇〇	四五、四五四、〇九〇	△ 九、九一	
	工務費	七八五、〇〇〇	八五七、〇八〇	△ 七二、〇八	
事務費	四、六七九、〇〇〇	四、五九七、〇一〇	△ 八一、九九		
應地方費					
開導所費	一四、〇五三、〇〇〇	一四、〇五二、〇〇〇	△ 一、〇〇〇		

(六) 官有警察兵器調

(昭和七年末現在)

種別	支應別	警務課	臺東支應	里壩支應	新港支應	大武支應	開導所在	庫	計
三八式騎兵銃		x							五六
十八年式改造村田銃									二八
修正銃									三三
三年式機關銃									三三
十一年式機關銃									三三
南部拳銃									三三
ロイヤル式拳銃									三三
自動拳銃									三三
十四年式拳銃									三三
三吋速射野砲									三三
七吋米山砲									三三
十二吋白砲									三三
開導所費									一五〇
開導所費									一五〇
計									三三二

備考 員數中×印ハ支廳ノ在庫ヲ示ス

(七) 警察關係建物

(イ) 噴嘴吧灣派出所新築

新港支廳下噴嘴吧灣ハ廣大ナル沃野ヲ有シ之カ開拓ニ人口ハ増加ヲ來シ派出所新築ノ必要ニ迫リ新設豫算要求中ノ處本年度ニ於テ其ノ豫算ノ配賦ヲ受ケ玉石コンクリート造平家建三十八坪八七豫算四千五百三拾四圓四拾錢ヲ以テ昭和八年二月二十日竣工セリ。

(馬武窟派出所ヨリ西ニ貳拾四丁)

(ロ) 蕃地假設建物ニシテ本年度ニ於テ新築又ハ改築シタルモノ左ノ如シ。

名	稱	豫算額	竣工年月日	摘	要
ダイロン	駐在所	二、七四、七〇〇	昭和八年二月十五日	新築	
カウトウ	駐在所	二、一八七、二〇〇	昭和八年三月三十一日	同	
ダイロン	見張所	八〇一、〇〇〇	同	同	
マラシ	砲廠	一、一〇、〇〇〇	昭和八年三月十五日	同	
バシヨ	駐在所	二、五九〇、〇〇〇	昭和八年一月十日	同	
カアロ	駐在所	一、七五、〇〇〇	同	同	
ボクラ	駐在所	二、九五、〇〇〇	昭和八年三月一日	改築	

近黄	駐在所	九〇、〇〇〇	昭和八年三月三十一日	同	
近黄	駐在所倉庫	三三、〇〇〇	同	同	

(ハ) 本年度ニ於テ蕃地鐵線橋ノ架設ヲ爲シタルモノ左ノ如シ。

名	稱	豫算額	竣工年月日	摘	要
クダカ	鐵線橋	三、四三、〇〇〇	昭和七年五月三十一日	新架設	
ママワ	鐵線橋	四〇〇、〇〇〇	昭和七年十月五日	同	
出雲	鐵線橋	二〇〇、〇〇〇	昭和八年三月九日	同	
タンシ	鐵線橋	四六〇、〇〇〇	昭和八年三月五日	同	
カラタ	鐵線橋	一、一〇〇、〇〇〇	同	同	

(八) 警察專用電話

昭和七年中ニ於ケル新設改修築箇所左ノ如シ

- 一、里壠花蓮港廳界間一線増架距離 一五、〇九五米 (起工昭和七年十月二十二日 竣工同 年十一月六日)
- 一、臺東支廳寶町警察官吏派出所新設距離 八七二米 (竣工昭和七年四月一日)
- 一、新港支廳噴嘴吧灣派出所新設距離 五、〇〇〇米 (起工昭和七年十二月十七日 竣工同 年十二月二十七日)
- 一、太麻里ビララウ、カカロワンバシヨロ新設ニ伴フ移轉 四九、〇七四米 (起工昭和七年八月 竣工昭和八年三月)

一、太麻里大武間新設 二九、九三八米 (起工昭和八年一月十日 竣工同年三月二十一日)

一、里壠支應管内エバコカウトウ間新設 一二、七一七米 (起工昭和八年三月二十一日 竣工同年三月二十一日)

昭和七年中ニ於ケル警察専用電話狀況及線路延長左ノ如シ。

課支應別	電		話		線路延長	摘	要
	デ	ル	上	交			
警務課	一五	一五	一	一	八、〇三八米	百人ニ付	配線盤 一一
臺東支應	三〇	三五	一	一	二四、七〇四	五十人付	配線盤 一一
里壠支應	八三	四五	一	一	三六七、五八七	配線盤	一一
新港支應	二〇	四	一	一	一四七、〇二六	二十人付	壁掛 一
大武支應	三九	六	一	一	二三五、八八八	二十人付	壁掛 一
臺東開導所	三	一	一	一	一九二〇		
計	一九〇	三五	三	三	一、〇三三、一五三		

此ノ外大武支應浸水營分水嶺間國用線添架依托線一九、〇二四米アリ。

口 保 安 係

(一) 司法警察及犯罪即決

管内ハ人口稀薄エシテ住民ノ大部分ハ智識低級ナル蕃人ナルト一面交通不便ナル爲一般ニ文化ノ發達遅ク從テ思想的又ハ智能的ノ犯罪等複雑ナル事犯ノ發生尠ク犯罪方法ノ如キモ比較的單純幼稚ニシテ之カ搜查檢擧ニ困難ナルコト尠シ、地方的犯罪トシテハ特ニ注意ヲ要スヘキモノナキモ近時本島人中ニシテ蕃人ノ矇昧ナルヲ奇貨トシ金錢物品ノ貸借或ハ交換等各種名義ノ下ニ蕃人ヲ偽冒シ財物ヲ騙取スルモノ續出ノ傾向アリ、又蘇花道路ノ開通ガソリシノ運轉、新港漁港ノ完成大武自動車道路ノ開通等漸次交通ノ整備スルニ伴ヒ西部諸州ノ住民ヲシテ東部開發ヲ刺激シ之カ爲移住來往スルモノ日ヲ逐フテ漸ク多キヲ加ヘ而シテ其中ニハ性行概シテ不良ニ流轉ノ徒多キ關係ヨリ盜犯及詐欺犯、傷害犯等多ク而シテ之等ハ卑南埤埤ノ完成南部廻リ道路ノ開通ト相俟テ一層増加スルモノト認メラル。

蕃人ハ進化ノ程度昔日ノ比ニ非スト雖未ダ矇昧ノ域ヲ脱セサルモノ多ク之カ犯罪ニ對シ直ニ一般刑罰法規ヲ適用スルハ尙早ノ感アルヲ以テ智能犯、重大犯ニ對シテノミ一般刑罰法令ヲ適用シ其ノ他ハ明治四十一年當應制定ニ係ル蕃人懲罰内則ニヨリ取扱ヒタリ然レトモ近時彼等ノ智識ノ進歩ト共ニ犯罪傾向モ亦逐次殺伐性ヨリ財產犯ニ單純ヨリ智能的ニ推移シツツアルニヨリ從來ノ懲罰内則ヲ適用スルヲ原則トセル方針ヲ改メ刑法其ノ他ノ刑罰法令ニ據ルコトヲ原則トシ當分ノ間懲罰内則ハ特殊ノ場合ニ限り適用シ得ルコトニ決定シ此ノ方針ヲ以テ取扱ヒ居レリ。

即決事件モ逐年増加ノ傾向アルカ特ニ他地方ト異ナルモノナク本島住民ノ多クハ出稼者多數アル爲戸口規則違反、違警例違反等其ノ大部分ヲ占メ更ニ前記事情ト各種事業ノ勃興トニヨリ益々交通ノ瀕繁ヲ伴ヒ之等ニ

昭和七年中ニ於ケル懲罰狀況左ノ如シ

支 應 別	種 別	保 甲		役 員		壯 丁		團 員		保 甲		民 額	件 數 計
		件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額				
臺 東 支 應	應											二五、〇〇	
里 壠 支 應	應											五、〇〇	
新 港 支 應	應											六、〇〇	
大 武 支 應	應											三六、〇〇	
計		一	一、〇〇	一	一、〇〇	一	一、〇〇	一	一、〇〇	一	一、〇〇	一六六、〇〇	八

(三) 火災及消防

廳下ハ未タ一般ニ家屋其ノ他ノ建築物簡易ニシテ臺東街ノ一部ヲ除キテハ殆ント木造茅葺家屋ナルニ蕃人ハ生活ノ向上ニ伴ヒ火氣ノ使用日ニ繁キヲ加フルト雖未タ火防思想乏シク加之例年十一月ヨリ三月頃迄ハ乾燥期ニ加ヘ季節風強キニヨリ警察ニ於テハ常ニ火防觀念ノ涵養ト注意ノ喚起ニ努メ以テ火災防止ノ實績ヲ擧ケツツアリ。

臺東消防組ハ廳下唯一ノ公設消防組ニシテ著々器具其ノ他内容ノ充實ニ努メ本年度ニ於テ住民ノ寄附ニヨリ自動車唧筒及腕用唧筒各一ヲ増備シ併テ組員ノ素質ノ向上ニ努メツツアリ。

新港消防組ハ私設消防組ニシテ設置後日尙ホ淺ク器具其他ノ整備未タ全カラス之カ改善ト指導ニ努メツツアリ

蕃社ニ於テハ馬蘭、卑南、新港、里壠ニ蕃人青年會ノ消防アリ、是等蕃人青年會ハ警察官學校職員等ノ指導ニ基キ多數ノ會員ヲ有スルモ克ク統制ヲ保チ訓練セラレツツアルニ依リ將來地方ニ於ケル特殊の消防トシテ又共同動作ノ中心機關トシテ適切ナルヲ認ム因ニ昭和七年中ニ於ケル火災狀況左ノ如シ

其ノ一(被害)

支 應 別	種 別	人		畜		損 害		住		家		非 住		田 野		上 記 以 外		損 害 價 格 計
		死	傷	死	傷	價 格	損 害	戶 數	棟 數	坪 數	價 格	棟 數	坪 數	價 格	面 積	價 格	損 害 價 格	
臺 東 支 應	應			二	六	九	三	三	三	一	三	四	五	七	二	一	六	六、五九四
里 壠 支 應	應			一	一	五	三	四	三	一	三	一	五	二	七	二	一	二、〇九八
新 港 支 應	應							八	八	一	八	一	五	八	三	四	三	二、七九三
大 武 支 應	應			二	三	二	八	三	三	四	六	六	五	三	六	二	四	一、〇三六
計				三	四	二	八	一	一	六	一	一	一	一	一	一	一	二二、五三二

其ノ二(原因別)

支 應 別	種 別	放 火		竈		煙 突		火 消 盡		洋 燈		電 氣		瓦 斯		焚 火		落 雷		吹 殼		弄 火		野 火		不 明 火		計
		件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額	件 數	金 額			
臺 東 支 應	應	一		三						一																	一六	
里 壠 支 應	應			二																							一〇	
新 港 支 應	應			一																							八	
大 武 支 應	應			七		一																					三九	
計		一		一三		一				一																	五八	

(四) 蕃人勞力供出

廳下蕃人ノ勞力供出ハ年々延人員七十萬乃至百萬ヲ算シ之カ調節ト勞銀ノ適否ハ廳下開發ニ直接シ警察上亦深甚ノ注意ヲ要スルトコロナリ。故ニ工事ノ官營事業タルト民營事業タルトヲ問ハス苟モ勞力供出ヲ要スルモノハ警察ニ於テ之ニ關與シ各支廳長ハ蕃人ニ對シ勤勞ノ風ヲ助成シ公共心ノ涵養ヲ圖ル指導の見地ヨリ供出勞力ノ調節ニ深甚ノ注意ヲ拂ヒ常ニ苛察ニ巨ルコトナキヲ期シ尙ホ其ノ賃銀支拂ヒニハ警察官吏其ノ他吏員ノ立會ヲ爲サシムル等公正ナル方法ニ依ルコトヲ趣旨トシ居レリ。

近時經濟界ノ不振ハ諸物價ノ暴落ヲ來タシ勞銀ニ付テモ考慮ヲ要スルモノアリ從來ノ一人六十錢ヲ五十四錢ニ引下ケ尙新ニ蕃人勞力取扱内規ヲ制定シ本年一月一日ヨリ施行シ警察上ハ勿論指導開發ニ遺憾ナキヲ期シ居レリ。勞力需給ノ狀態左ノ如シ。

蕃人勞力供出調査表

工 事 別	年 別						
	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
郵 便 遞 送	10,927	10,904	9,678	8,632	5,369	—	—
交 通 役	53,010	53,762	48,319	41,552	23,568	23,060	13,213
雜 役	144,400	135,806	162,836	157,754	144,251	87,432	29,099

蕃人勞力供出調査表

土 木 建 築	年 別						
	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年	昭和五年	昭和六年	昭和七年
造 林 及 廳 農 作	497,569	477,246	444,917	343,306	336,030	454,035	390,640
理 蕃 事 業	11,715	4,557	4,536	—	—	—	—
水 圳 工 事	34,613	68,375	72,371	66,983	63,001	32,633	66,669
鐵 道 工 事 及 鐵 道 部 使 役	14,000	35,734	52,935	41,848	50,732	60,133	65,515
各 種 事 業	72,355	113,603	163,576	165,218	46,593	6,340	7,341
麻 刺 利 亞 防 遏	1,295	232,167	181,015	185,703	151,318	99,184	60,503
計	977,834	1,121,554	1,110,183	1,010,996	810,862	762,810	647,914

年 次	總 出 役 人 員	有 出 役 延 人 員		金 額	義 務 出 役 延 人 員
		人	金		
大 正 十 三 年	797,408	540,362	270,519	2,570,733	257,046
大 正 十 四 年	789,506	465,053	231,618	2,311,618	234,453
昭 和 元 年	977,834	516,529	253,498	2,534,948	461,314
昭 和 二 年	1,121,554	613,075	342,039	3,420,394	609,074
昭 和 三 年	1,110,183	707,622	366,555	3,665,554	412,561
昭 和 四 年	1,010,996	675,379	381,579	3,815,795	335,617
昭 和 五 年	810,862	536,922	312,601	3,126,013	273,950
昭 和 六 年	762,810	521,516	297,264	2,972,641	241,294
昭 和 七 年	647,914	382,339	174,282	1,742,821	318,239

註 義務出役中ニハ所定賃金ノ一部ヲ減額シテ出役セシメタルヲ含ム

(五) 臺東開導所及臺東保護會

臺東開導所ハ臺東岩灣浮浪者收容所ト稱シタリシヲ昭和三年一月總督府告示第二號ヲ以テ現在ノ如ク改稱セラレタルモノナリ、臺東開導所ハ明治三十九年律令第二號浮浪者取締規則ニヨリ本島人ノ所謂老鰻又ハ浮浪者ヲ收容スルモノニシテ明治四十年十月臺東廳加路蘭ニ明治四十五年火燒島ニ設置セラレ當初ハ極メテ單順ナル目的ノ下ニ設置セラレタルモ時代ニ順應シ其ノ處遇感化ニ付テモ改善ノ要アルヲ認メ逐次諸般ノ改良ヲ計リ其ノ貫徹ニ努メツツアリ、然レ共收容者ニ對スル授産並解除後ニ於ケル保護救濟ノ機關ヲ缺キ爲ニ終局ノ目的ヲ達スルコト難キニ鑑ミ之カ缺陷ヲ補フ爲大正十二年二月主トシテ是等ニ對スル授産保護ヲ目的トスル財團法人臺東保護會ヲ設立セリ。

臺東保護會ハ浮浪者收容政策ノ缺陷ヲ補ヒ且改選遷善ヲ助長スルヲ目的トシ收容者ニ對スル授産及解除者ニ對スル保護救濟ヲ爲スモノニシテ昭和七年中ニ於ケル狀況左表ノ如シ

收容浮浪者現在人員

州 廳 別	收容人員	前科アル者	學 校 教 育			平均年齡
			書 房	教 育	無 教 育	
臺 東 州	九	八	一	一	一	二六
新 竹 州	六	六	一	一	一	二六
計	一五	一四	二	二	二	二六

開所以來收容及解除其ノ他人員

昭和七年末現在

州 廳 別	收容	解除	病氣解除	死 亡	逃 走	就業停止	現 在
臺 東 州	一六〇	二八三	一六〇	五九	一	一	二七
高 雄 州	一	一	一	一	一	一	一
花 蓮 廳	一	一	一	一	一	一	一
計	一六二	二八五	一六二	六〇	三	三	二九

州 廳 別	收容	解除	病氣解除	死 亡	逃 走	就業停止	現 在
臺 東 州	四三	二八三	二七	二二	一	一	九一
新 竹 州	一〇〇	六六	一七	七	一	一	一
臺 南 州	二六	六九	九	三	一	一	一
高 雄 州	三	四	二	一	一	一	一
臺 東 州	二	二	一	一	一	一	一
花 蓮 廳	二	一	一	一	一	一	一
澎湖 廳	一	一	一	一	一	一	一
計	一七九	二八六	五二	六二	六	六	二四

收容者作業別

作業別	人員
木	
工	三四
籐	
工	
農	一〇
業	
製	五三
炭	
計	一二四

作業ニ依ル生産高調

昭和七年中

生産高種別	生産高	
	金額	種別
木	一、六九五	木
工	六、〇四九、三五五	工
籐		籐
工	二、八三五	工
品	一、二五八、八四〇	品
農		農
産	六〇、三一九	産
品	五九一、八五〇	品
木		木
炭	四七、一五〇	炭
	五五七、八五〇	
計	八、四五七、七九五	計

浮浪者衛生状態

昭和七年中

病名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
麻刺利亞	五〇	一八	八	一三	三三	七	六	四	三	三	三	一	四三
腫瘍病	三	七	八	三	二	四	二	一	一	一	一	一	三六
リウマチ	一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
脚氣													九〇
計	五〇	一八	八	一三	三三	七	六	四	三	三	三	一	一〇九

病名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
眼疾及附屬器疾患	一	八	四	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一八
氣管支炎	一	八	四	二	二	一	一	一	一	一	一	一	一八
耳ノ疾患													三
鼻腔及附屬器疾患													三
咽頭及扁桃腺疾患													三
下痢及腸炎	三	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三三
胃ノ疾患	七	二	八	四	二	三	二	二	二	二	二	二	二六
腸寄生蟲病													二
脱腸及腸管閉塞													一
皮膚及皮膚組織疾患	一	二	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二	二四
關節及運動器疾患	五	八	四	三	二	四	二	一	一	一	一	一	一五
外傷	六	三	五	一	八	一	一	一	一	一	一	一	三三
口腔及齒科疾患													一七
微毒	二	七	四	二	三	一	一	一	一	一	一	一	二八
中計	一八	二七	一六	一六	二〇	二五	二二	二〇	一九	二二	二〇	一九	二四二

財團法人臺東保護會保護人員

昭和七年中

營業名	昭和六年末現在數	昭和七年中許可數	昭和七年中廢業數	昭和七年末現在數
火藥類販賣	一	一	一	一
銃砲販賣	一	一	一	一
質動	四	一	一	一
自宿屋	一五	一	一	一
木賃宿屋	一七	一	一	一
飲料店	六	一	一	一
飲食店	七	一	一	一
藝妓店	三	一	一	一
酌業	三	一	一	一
代書	五	一	一	一
印物	三	一	一	一
古物	八	一	一	一
周遊	一	一	一	一
遊藝場	二	一	一	一
鍛冶	三	一	一	一

(六) 警察取締諸營業數

州別	分區	授產	住宅供給	就業補助	職業紹介	戶主	療族
臺北	北竹州	一	一	一	一	一、九一五	三三八
新竹	中竹州	一	一	一	一	一、〇一〇	一、六九九
臺南	南州	一	一	一	一	一、四八五	一、二八四
高雄	雄州	一	一	一	一	二、八九〇	二、二九九
高臺	高州	一	一	一	一	一九〇	八六
臺東	東州	一	一	一	一	一、〇一〇	一、二八四
花蓮	蓮州	一	一	一	一	一、〇一〇	一、二八四
澎湖	湖港	一	一	一	一	七、四六〇	五、七〇六
澎湖	計	七	七	四	九	七、四六〇	五、七〇六
臺南	計	二	二	二	二	二、八九〇	二、二九九
臺北	計	一	一	一	一	一、九一五	三三八
臺南	計	一	一	一	一	一、四八五	一、二八四
新竹	計	一	一	一	一	一、〇一〇	一、六九九
臺北	計	一	一	一	一	一、九一五	三三八

臺東保護會設立以來保護人員

昭和七年末調

營業名	昭和六年未現在數	昭和七年中許可數	昭和七年中廢業數	昭和七年未現在數
鑄銀細工物	一	一	一	二
金屋	二	一	一	二
湯真	一	一	一	一
寫真	一	一	一	一
刀劍	一	一	一	一
遊藝	一	一	一	一
劇掛	二	一	一	一
鑄鐵掛	五	三	一	四
汽機汽罐ヲ設置スル工場	三	一	一	三
煉瓦製造	六	一	一	六
爆竹	三	一	一	三
印刷	一	一	一	一
解船	一	一	一	一
船運	一	一	一	一
船舶	一	一	一	一
石油	一	一	一	一
石物	一	一	一	一
石製	一	一	一	一
觀物	一	一	一	一
石製	一	一	一	一

(七) 民有銃砲

軍用銃	六	一	九	七	一	三
拳銃						
獵銃						
射的銃						
空氣銃						

(八) 獵銃免狀下付數

(自七年九月至八年三月)

三十六件

(九) 鳥獸捕獲許可數

六件

(十) 害鳥獸驅除許可數

五件

(十一) 外國旅券下付件數

八件

(十二) 原動機數

三十封度以上	六				
三十封度未滿		一			
五馬力以上			二	五	
五馬力未滿					二
合計	六	一	二	五	二

(十三) 自動車數
五十四臺

(十四) 自動車ニ依ル交通事故件數

事故件數	傷者	損害
九	六	三三五、〇〇〇 <small>円</small>

(十五) 團體ノ費用徴收及寄附金募集

昭和七年中ニ於ケル寄附金募集許可ハ六件 金額五、七〇〇圓ニシテ其ノ内譯左ノ如シ

許可年月日	金額	摘要
五月十七日	一、五〇〇 <small>円</small>	昭和七年度臺東神社維持費
九月十七日	一、〇〇〇	北滿水災者救恤ノ爲 (臺日)
同	一、〇〇〇	同 (新民報)
同	二〇〇 <small>円</small>	滿洲派遣軍及對岸警備ノ海軍慰問ノ爲
同	一、〇〇〇	北滿水災者救恤ノ爲 (臺南新報)
同	一、〇〇〇	同 (臺灣新報)

ハ 衛生 係

(一) 傳染病地方病豫防制遏

各種傳染病ハ交通機關ノ發達ニ伴ヒ漸次地方ニ蔓延スル傾向アルヲ以テ極力其ノ制遏ニ努メタリ就中傷チブスニ在リテハ前年新開園並池上村ノ農村ニ多發セルニ鑑ミテ全力ヲ擧ケテ檢疫ノ徹底ニ努メタル結果本期中ハ頭初ニ於テ廳下ヲ通シ僅ニ七名ノ發生患者ヲ見タルノミナリ。

一月以來花蓮港廳下ニ大流行ヲ極メタル痘瘡ハ極力阻止ニ努メタルモ遂ニ接續地帯タル池上村ニ侵入セラレタルモ極力制遏ノ結果僅ニ四名ノ罹患ヲ見タルノミニテ制遏シ盡シタリ。

其ノ他ノ傳染病ニ就テモ充分豫防警戒ニ努メタル結果別表ニ示ス通り僅ニ赤痢一、猖紅熱一名ノ發生ヲ見タルノミニテ充分効果ヲ收メ得タリ。

(1) 傳染病患者發生轉歸

病名	種族	發生	轉歸		摘要
			全治	死亡	
腸チブス	内地人 本島人 蕃計	五 二 七	三 一 四	二 一 三	

計	痘		赤		疫		病名	種族	發生	全轉	治死	歸亡	摘	要
	獮紅熱	瘡	痢	痢	本島	內地								
蕃本内 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人	蕃本内 計 島地 人 人 人
六八	一 一	四 四	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一
四四	一 一	三 三	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一
二四	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一	一 一

(2) 腸チブス保菌者検索及豫防注射人員

支應別	保菌者検索人員	保菌者數	豫防注射人員	摘	要
臺東支應	延 一、五〇人		三、三七人		
里壠支應	延 三五〇		三〇〇		
計	延 一、八五〇		三、六二七		
計				八	六

(3) 痘瘡豫防臨時種痘人員

二月上旬里壠支應池上村ニ侵入ヲ受ケタル痘瘡ハ本島人移住農民ナル爲各所ニ蔓延ヲ憂ヒ外部トノ交通ヲ遮斷シ加之應下全般ニ亘リ検査ヲ實施シ且全員三三、九六八名ニ對シ臨時種痘ヲ爲ス等全力ヲ擧ケ撲滅ニ努メタル爲蔓延ヲ見ス終熄セリ。

(4) 黒水熱

黒水熱ハマラリア防遏作業ノ進捗ニ伴ヒ年々夥シク減少シ殊ニ本期中死亡者一名ニ過キス從來其ノ比ヲ見サル効果ヲ收メタルモ尙ホ里壠支應下山脚地帯ニ在リテハ濕潤地ノ關係上容易ニ根絶ヲ期シ難ク是レカ防遏作業ハ相當苦心スル處ナリ。將來本疫ノ制遏ハ「マラリア」防遏ト相俟テ餘力ヲ剩ササル方針ナリ。

黒水熱患者發生轉歸

地名	月別												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
臺東	二、九〇	二、五三	一、七七	三、六五	六、九〇	一四、五八	二六、六三	九、六四	一八、〇三	一一、七〇	七、六八	九、四二	九、六二
馬蘭	二、三七	一、九五	一、九七	二、二〇	三、一五	五、九六	一二、四五	七、一一	二、九〇	五、〇〇	三、七八	三、七五	四、三八
卑南	〇、九一	〇、八四	一、三六	一、〇〇	三、二一	五、一〇	三、八四	二六、一二	二六、九五	一九、三三	二、一三	二、四一	二、三三
北絲	三、四四	一、六〇	二、三三	二、九四	三、三九	六、八一	八、六七	六、七七	一七、八二	五、〇六	三、三三	五、七七	五、六六
知本	四、一五	一、五八	三、〇七	三、〇九	三、九〇	三、七二	四、二六	一五、七四	一八、八八	八、五三	七、七八	九、〇二	六、九九
加路	七、三三	八、六一	七、二七	一〇、八九	一〇、五九	一七、三五	三七、三八	二四、〇五	一五、一九	一三、四四	一七、九八	一、三四	一五、一二
鹿野	二、一五	二、一六	二、一九	三、〇六	五、一七	六、一九	六、五九	六、五二	五、二六	四、一七	四、二二	三、〇六	四、二三
里壠	二、二三	一、六〇	一、八〇	一、七〇	一、六六	二、一七	三、八四	二、五六	二、八二	二、〇六	一、七二	一、五四	二、一四
德高寮	二、五五	二、〇六	二、二五	二、六九	三、二六	三、七一	四、二一	二、三二	三、一六	三、七〇	五、八八	三、三〇	三、二五
新開園	〇、八九	二、六五	〇、九六	一、九七	一、八九	一、七五	四、三一	四、九五	二、五六	三、二四	二、二二	二、四三	二、四八

「マラリア」防遏ハ前期ノ計畫ヲ踏襲シ防遏箇所ヲ廳下樞要地域十八箇所トシ防遏ニ努メタルモ五月ニ至リ俄然流行シ原蟲保有者激發シタルヲ以テ地物整理並檢血服藥ノ徹底ヲ期シ極力防遏ニ努メタリ、其ノ成績左ノ如シ

昭和七年「マラリア」原蟲保有率月割調

(5) マラリア

計	一六	一五	一
---	----	----	---

支廳別	種族		發生	全轉	治死	歸亡	摘要
	蕃計	内地計					
臺東支廳	蕃計	内地計	二	一	一		
里壠支廳	蕃計	内地計	二	九	三		
新港支廳	蕃計	内地計	二	一	二		
大武支廳	蕃計	内地計	一	〇	六		
計	蕃計	内地計	一〇	六	一五		

地名	月別												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
都 武 窟	四、九七	四、〇九	四、〇三	二、八九	二、三六	三、二五	七、二二	五、二四	五、二〇	五、一四	四、五四	七、二四	四、七五
大馬武窟	八、七〇	四、八九	五、八二	五、八一	四、六五	四、八二	四、九一	四、三六	六、〇四	五、八四	一〇、〇六	八、四九	六、二〇
新港所在地	一、四八	一、九八	一、二二	一、二六	一、六六	〇、八〇	一、〇五	一、七三	一、六三	二、六〇	一、八一	一、八四	一、五八
新港蕃地	四、六五	二、二七	二、〇五	二、三六	四、五三	四、六一	四、一九	五、八三	三、五五	三、四一	七、五二	六、八七	四、三八
成 廣 澳	四、三三	四、五三	五、四〇	四、三六	六、五九	四、八七	五、四九	五、二〇	六、六七	七、六〇	六、一〇	一〇、一六	五、九二
加 走 灣	一、五五	一、九四	一、六三	二、二六	一、七〇	二、一一	一、九九	一、五三	二、三三	四、六七	四、八七	三、七一	二、五三
太 麻 里	〇、五四	一、	〇、六六	〇、六〇	一、二六	一、三一	二、四六	四、二二	一、八七	一、九〇	四、八七	二、二二	一、六七
大 武	一、七九	〇、四七	一、四二	〇、六八	〇、八六	〇、六〇	一、八五	二、一九	一、六七	〇、五六	五、五四	一、三九	一、五八
平均	五、二七												

(二) 藝妓酌婦健康診断成績

藝妓酌婦ノ健康診断ハ其ノ業態上及地方ノ實情ニ徴シ最モ肝要ナルヲ認メ毎週一回施行シ嚴重檢診ヲナサシメツツアリ、其ノ成績左ノ如シ。

藝妓酌婦健康診断成績

檢診延人員	二、九七八	罹病延人員	二五六	檢診ニ對スル百分比	八、六〇	摘	要
-------	-------	-------	-----	-----------	------	---	---

(三) 阿 片

當廳下ニ於テハ本島人支那人ノ在住スル者多カラス且其ノ生活程度低級ナル爲阿片ノ吸食者モ亦少數ニシテ僅々五五名ニ過キス本年中ニ於ケル烟膏販賣高一三九、一三六、一七五瓦價格一六、四七八圓四六八ナリ。而シテ阿片行政上重ナル事項タル阿片癮矯正治療ニ於ケル成績ハ左表ノ通りニシテ全治退院者ニ對シテハ再ヒ癮ノ習癖ニ陥ラサル様嚴重警戒中ナリ。

阿片癮矯正命令者狀況

阿片網羅ニ於ケル狀況	檢診結果ノ狀況				矯正命令者ノ昭和七年末迄ニ於ケル狀況						
	出願者 出願者 容ル密吸者 疑者	計	特許者	矯命正 令者	癮烟	計	入院治療者 要スル者	全退院者	入院中	死亡	計
一五二	一四	一六五	五二	八四	三〇	一六五	一	七六	一	五	八四

(四) 衛生宣傳活動寫眞

衛生思想ノ普及向上ヲ目的トスル衛生宣傳活動寫眞ヲ三月十一日ヨリ四日間里壠支廳下鹿野村、大原村、里壠、新開園ニテ映寫セルニ各所共四百餘名ノ觀覽者アリ、引續キ臺東、新港、大武ニ於テ各映寫宣傳ノ結果各地共衛生思想涵養上多大ノ効果ヲ收メタリ。

(五) 結 核 豫 防

六月二十七日結核豫防日ニ際シ各支廳、街、區役場、小公學校、開業醫、公醫ト連絡シ「ポスター」ノ揭示宣傳ビラ「ハンブレット」ノ配付等ヲ爲シタル外廳下全般ニ亘リ懸賞標語ヲ募集シ其ノ他各戸ニ就キ寢具其ノ他ノ日光消毒ヲ勵行セシメ且技術員ヲシテ衛生講話ヲ爲サシメタリ、尙一般接客業者ニ對シテハ特ニ寢具其ノ他日光消毒痰壺ノ清潔並完備等嚴重ニ勵行セシメ結核豫防ノ趣旨貫徹ニ努メ相當ノ効果ヲ收メタリ。

(六) 地方病驅除

各種地方病中「トラホーム」ノ治療及寄生蟲ノ驅除ハ當面ノ問題ニシテ前者ハ廳下ヲ通シ約四〇%後者ハ九〇%ニ當リ住民ノ保健上最モ悲惨ノ狀勢ヲ呈シ看過スヘカラサル狀態ナルヲ以テ本年度ニ二、〇三〇圓〇〇ノ豫算ヲ以テ十月下旬ヨリ昭和八年三月迄ノ五箇月間ニ亘リ旭村及馬蘭ノ兩部落ニ對シ驅除ヲ實施シ殆ント完全ニ近キ成績ヲ收メタリ其ノ成績左ノ如シ

一、トラホーム

施行地域	檢診總人員	罹患人員	檢診總人員百ニ對スルパーセント	摘	要
旭村	三七	九三	二八、一三		
馬蘭	二、三三	一、四六	四九、〇〇		
計	二、六六六	一、二三八	四六、四四		

二、寄生蟲

施行地域	檢診總人員	蛔蟲保卵者	檢診總人員百ニ對スルパーセント	十二指腸蟲保卵者	檢診總人員百ニ對スルパーセント	蟻蟲保卵者	檢診總人員百ニ對スルパーセント
旭村	三七	一八七	五七、一九	—	—	四	一、三
馬蘭	二、四二五	一、八九五	七八、二四	—	—	六三	二、五六
計	二、七六二	二、〇八二	七五、六六	—	—	六六	二、四〇

(七) 昭和七年度衛生費

昭和七年度衛生費豫算總額左ノ如シ

衛生費 (廳地方費)

昭和七年度

經常部

科	目	豫算額	仕拂額	差引過△不足	摘	要
衛生費	衛生費	三一、一五、三四〇	二九、八三〇、一〇〇	一、三三、二四〇		
公費	公費	一四、六七〇、〇〇〇	一三、三六、九二〇	一、三三、〇八〇		
公費	公費	一四、六七〇、〇〇〇	一三、三六、九二〇	一、三三、〇八〇		
傳染病豫防費	傳染病豫防費	一五、一一、三四〇	一五、一〇、九二〇	六、四二〇		
事務費	事務費	一五八、〇〇〇	一五〇、三九〇	七、六一〇		
檢疫費	檢疫費	七六一、〇〇〇	四一八、五二〇	三四三、四八〇		

科 目	豫 算 額	仕 拂 額	差引過△不足	摘 要
マラリア防遏費	一三、八五八、三四〇	一四、四一八、〇五〇	△ 五五九、七二〇	
傳染病院費	三三三、〇〇〇	一一七、九六〇	二一五、〇四〇	
衛生諸費	一、三七一、〇〇〇	一、三六八、二六〇	△ 二、七四〇	
衛生品試験費	二六二、〇〇〇	二五八、六一〇	三、三九〇	
屠場管理費	一、一〇九、〇〇〇	一、一〇九、六五〇	△ 六五〇	
臨 時 部				
衛生費	四、九三五、〇〇〇	四、九一五、一六〇	一九、八四〇	
マラリア防遏地物整理費	二、五二〇、〇〇〇	二、五〇七、三三〇	二、六九〇	
マラリア防遏地物整理費	二、五二〇、〇〇〇	二、五〇七、三三〇	二、六九〇	
地方病驅除費	二、〇三〇、〇〇〇	二、〇二六、四五〇	三、五五〇	
地方病驅除費	二、〇三〇、〇〇〇	二、〇二六、四五〇	三、五五〇	
保健調査費	三八五、〇〇〇	三八一、四〇〇	三、六〇〇	
保健調査費	三八五、〇〇〇	三八一、四〇〇	三、六〇〇	
補助費	三、一四七、〇〇〇	二、八一七、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	
補助費	三、一四七、〇〇〇	二、八一七、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	
補助費	三、一四七、〇〇〇	二、八一七、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	
補助費	三、一四七、〇〇〇	二、八一七、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	
社會事業補助	一、四四〇、〇〇〇	一、一一〇、〇〇〇	三、三三〇、〇〇〇	
衛生補助	一、七〇七、〇〇〇	一、七〇七、〇〇〇	—	

二 理 蕃 係

(一) 整 備

本期中實施セル蕃地防備施設ニシテ其ノ主ナルモノヲ舉クレハ「カウトウ」社方面搜索隊及「ビララウ」方面道路開鑿及據點建設工事ニシテ其ノ概況左記ノ通ナルカ何レモ自來ノ蕃情ヲ著シク好轉セシメ理蕃上一轉期ヲ劃シタルモノニシテ將來積極的ニ各種理蕃諸施設ノ進捗ヲ圖ルヘキ機運ニ向ヘリ。

(イ) カウトウ社方面搜索隊

昭和七年九月十九日高雄州大關山ニ勃發セル蕃害事件ニ伴フ廳下關山越警備線一帶ノ蕃情ニハ慎重考慮ヲ要スルモノアリ、特ニ事件前後蕃情ノ客觀的狀勢ハ多年「イカノバン」ニ蟠居スル「ラマタセンセン」ノ一派及「カウトウ」社ノ「タロム」一派ハ容疑濃厚ナルノミナラス當時ノ蕃情ニ徵シ之ヲ放任スルニ於テハ關山越一帶及内本鹿一帶ノ蕃情ヲ倍々惡化シ重大ナル變化ヲ來スヘキ虞ナシトセサルヲ以テ此ノ機會ニ於テ既定計畫ニ基ク「エバコ」「カウトウ」社間ノ道路開鑿ヲ斷行シ加害者ノ搜查ヲ爲シ本件ヲ解決シ以テ里壠支應下「ブス」族蕃情ノ安定ヲ圖ルノ要アルヲ認メ認可ヲ得豫算四七、五四七圓ノ配賦ヲ受ケ十月二十六日エバコ駐在所ニ於テ警視一、警部補二、巡查部長三、巡查四三、警手五〇 計九九名ヨリ成ル搜索隊ヲ編成シ即時行動ヲ開始シ極力犯人ノ搜查並ニ工事ノ進捗ニ努メタル結果十二月十七日「マカリワン」社ニ於ケル「ラマタセンセン」父子ノ就縛ニ端ヲ發シ兇行蕃人「ラマタセンセン」及「タロム」一族ノ關係者十一名ヲ檢舉スルヲ得併

テ多年ノ懸案タリシ「イカノバン」ノ武斷的解決ハ官ノ威力ヲ如實ニ示シ信賞必罰ノ趣旨ヲ徹底セシメ茲ニ蕃情ノ安定ヲ圖ルヲ得工事亦左記ノ通夫々所期ノ目的ヲ達成シ昭和八年二月十七日本搜索隊ヲ解散セリ。

- 一、エバコ、カウトウ社間道路開鑿延長 三里二十六町
- 二、サクサク、ダイロン鞍部間道路開鑿延長 一里五町
- 三、ダイロン、ラクラク間道路開鑿延長 一里二町
- 四、ダイロン、カウトウ兩駐在所建設
- 五、ダイロン、見張所建設
- 六、マデングル砲臺建設

（ロ）ピララウ方面道路開鑿及據點建設工事

大武支廳下太麻里溪流域一帯ニ蟠居スル蕃人ヲ制壓シ指導教化ノ徹底ヲ期スル目的ヲ以テ太麻里ピララウ間バシヨロ、カアロワン間及カラタラン、近黃間總延長十五里ノ道路開鑿並沿道「バシヨロ」「カアロワン」ニ簡所ノ駐在所建設工事ハ昭和七年六月十六日認可ヲ得事業費豫算四五、四六四圓ノ配賦ヲ受ケ六月二十六日太麻里派出所ニ於テ警部一、警部補一、巡查部長二、巡查二三、警手九、計三六名ヨリ成ル搜索隊ヲ編成シ即時行動ヲ開始工事ニ著手セルカ所期ノ目的ヲ達シ昭和八年三月二十日本搜索隊ヲ解散セリ。

（二）蕃人教化

蕃地蕃人ニ對スル教化施設トシテ蕃童ニ對シテハ教育所、成人ニ對シテハ頭目勢力者會、蕃社會、家長會、青年團、婦女會、國語普及夜學會等アリ。

（イ）兒童教育

昭和七年末現在教育所二十四箇所在籍兒童七五〇名ニシテ卒業生八五名ヲ出ス近來蕃地蕃人ノ好學心漸次旺盛トナリ教育所卒業後進シテ平地學校入學ヲ希望スルモノ尠カラサル趨勢ニアリ。平地學校在學者左ノ如シ。

蕃地蕃人平地學校在學者調

學 校 別	種 族			人 員 計	摘 要
	ブモン族	バイワン族	ヤミ族		
小 學 校	1			1	
公 學 校					
補 習 學 校					
中 等 以 上 學 校		16		16	
計	1	16		17	

昭和七年度各教育所入學者卒業者及在籍者調

支 應 別	臺 東 支 應	大 南 嶼	紅 頭 嶼	教育所名	入 學 者	卒 業 者	年 度 未 現 在 在 籍 者	摘 要
里 壠 支 應	新 武 路 ハイトトワ エ 武 路 ブ ル コ マ テ ン ボ ク ラ 温 泉 楓 泉 壽 泉 朝 日	大 南 嶼	紅 頭 嶼		一 二 六 六 三 三 一 一	一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	二 六 六 三 三 一 一 一	
大 武 支 應	カ ラ タ ラ ビ ラ ラ ジ ヨ モ 近 ヨ ル タ ヨ カ タ バ カ ト ア バ 大 板 鹿				一 二 九 五 三 二 一 一	一 一 一 一 一 一 一 一	三 九 九 五 三 二 一 一	
計					一八九	八五	七五〇	
				阿 望 衛 出 水 坡 チヤチヤガト チヨカク 出 水 坡	三	一七四	二三三	

(口) 成人教化

計	二 四 箇 所	一八九	八五	七五〇
	大 板 鹿 ト ア バ タ バ カ タ ヨ カ チヨカク 出 水 坡 チヤチヤガト	一 二 九 五 三 二 一	一 一 一 一 一 一 一	三 九 九 五 三 二 一
	阿 望 衛 出 水 坡 チヤチヤガト	三	一七四	二三三

頭目勢力者會、蕃社會、家長會、青年會、婦女會等ハ所轄警察官吏駐在所又ハ其ノ他適當ノ場所ニ於テ毎月一回乃至六ヶ月一回蕃人ヲ召集シ習俗ノ改善授産、教育ノ獎勵、衛生並時事ニ關スル訓話ヲ爲シ同時ニ一般蕃人ノ意向及蕃情ヲ申告セシメ相互間ニ於ケル意思ノ疎通ヲ計リ蕃人生活ノ安定精神ノ修養ニ資セシム、特ニ青年團ニ對シテハ日進月歩ノ社會ノ大勢ヲ設示シ生活ノ改善産業ノ振興心身ノ練磨ノ必要ナル所以ヲ論シ實地ノ指導ニ依リ之ヲ啓發シツツアリ。今ヤ彼等ハ舊來ノ陋習ヲ脱シ何レモ蕃社ノ中堅トナリ、惡風弊習改善ノ素地ヲ築キ其ノ成績見ルヘキモノアリ。

國語普及夜學會ハ農閑期ヲ利用シ所轄警察官吏駐在所又ハ教育所ニ蕃人ヲ召集シ一箇年間ヲ通シ凡ソ百日間

毎日二時間宛國語ノ教授ヲナス。
以上ノ成人教化、機關並昭和七年中實施セル主要ナル事項ヲ學クレハ左ノ如シ

(1) 教化機關名稱及會員數

種別	臺東支廳		里壠支廳		大武支廳		計
	機關數	會員數	機關數	會員數	機關數	會員數	
頭目勢力者會	二	二五	一	一、七〇〇	三	八六	一、七〇〇
蕃社會	二	四六	一	一、〇七五	三	一、〇七五	一、五六三
家長會	二	四六	一	一、〇〇六	三	一、〇〇六	一、〇九六
青年會	一	四	一	四〇	一	一	一、〇九六
婦女會	一	一三四	一	一三四	一	一三四	一、三九〇
國語普及夜學會	一	二〇〇	一	七四三	一	七四三	一、三九〇
計	七	八五	五	二、三三七	五	二、九二二	六、〇六四

(2) 昭和七年中實施シタル主ナル事項

- 一、風俗習慣ノ改善、生活様式ノ改良、特ニ屋外埋葬屋內便所廢止並斷髮勵行
- 二、神祠建設三、勤勞精神ノ涵養並經濟觀念ノ涵養
- 四、國語普及

(3) 其ノ他教化上特殊施設及其ノ經過成績

一、大武支廳ピララウ青年團長トマタル(バイワン族)里壠支廳温泉教育所兒童タケシチャガラホ(ブヌン族)大武支廳トアバル女子青年團長ルバオ(バイワン族)ノ三名ハ皇太子殿下行啓記念恩賜基金ノ表彰ヲ受ケタルヲ以テ之カ授與式ヲ所轄支廳ニ於テ舉行シ本人ノ善行ヲ賞揚スルト共ニ將來ニ付キ諭ス所アリ。一面管轄駐在所ニ在リテハ附近頭目並一般蕃人ヲ召集シ本件ニ關シ訓諭スル所アリタルニ何レモ皇恩ノ無窮ナルニ感激シ指導教化上効果甚大ナリ。

二、應下各教育所上級生二名卒業生一名宛ヲ臺東ニ召集シ臺東小學校講堂ニ於テ國語演習會ヲ開催シ即題ニ依リ話方ノ發表ヲナサシメ優秀教育所タル大武支廳大板鹿教育所ニ對シ優勝旗ヲ授與ス、國語普及獎勵上其ノ効果甚大ナリ。

(三) 蕃人授産

蕃人授産ハ撫育ノ方針トシテ常ニ之カ指導獎勵ニ努メ來レルカ當局ノ絶ヘサル指導ト近來蕃人ノ異常ナル自覺ニヨリ其ノ成績實ニ見ルヘキモノアリ。本年度ニ於ケル蕃人授産トシテ主ナル施設事項左ノ如シ。

(イ) 小苗圃ノ設置

蕃人舊來ノ農耕法ノ改善指導ヲ圖リ主食作物ノ品種改良ト種苗ノ育成配付ヲナス爲里壠支廳下壽、リト、大